



# Fiery Command WorkStation

© 2021 Electronics For Imaging, Inc. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2021年4月27日

# 目次

Fiery Command WorkStation .....	13
Command WorkStation ワークスペース .....	13
Fiery スマート検索 .....	14
ジョブセンター .....	14
処理中ジョブと印刷中ジョブの状況 .....	15
キュー内のジョブを管理するコマンド .....	16
デバイスセンター .....	17
Fiery server を追加して接続する .....	18
アクセスレベル .....	18
Fiery server への接続 .....	18
Fiery server を追加して接続する .....	19
使用可能な Fiery server を検索するには .....	19
Fiery server からログオフするには .....	20
別の Fiery server を表示する .....	20
サーバーリスト .....	20
Command WorkStation のカスタマイズ .....	23
Command WorkStation の環境設定 .....	23
ジョブセンターの列を管理する .....	24
カラム表示を変更する .....	24
カラムの幅を調整する .....	24
ペインの展開/折りたたみ .....	24
ツールバーをカスタマイズする .....	25
ジョブセンターのツールバーのアイコン .....	25
Fiery server 設定 .....	27
Configure にアクセスする .....	27
Command WorkStation から Configure にアクセスする .....	27
WebTools から Configure にアクセスする .....	27
Configure のヘルプやその他の情報を参照する .....	28
Configure を終了する .....	28
サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する .....	28
サーバー設定の内容を表示する .....	28

サーバー設定をファイルとして保存する	29
サーバー設定ページを印刷する	29
ユーザーとグループ	29
新規ユーザーを作成する	29
ユーザーを既存グループに追加する	30
グループからユーザーを削除する	30
ユーザー属性を変更する	31
グループ権限を変更する	31
ユーザーを削除する	31
EFI Cloud Connector	32
Fiery server に EFI Cloud Connector をインストールする	32
Fiery server を EFI IQ アカウントに接続する	32
EFI Cloud Connector を管理する	33
EFI IQ Dashboard を開く	33
EFI Cloud Connector から Fiery server を外します。	34
バックアップと復元について	34
Fiery server 設定のバックアップまたは復元を行う	34
ジョブの表示	38
Command WorkStation の Fiery Preview	38
ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示	38
PDF と Fiery Impose Plus ジョブ	40
Fiery Preview のツールバーアイコン	40
PDF バージョン対応ジョブ	40
PDF バージョン対応ジョブを開く	41
印刷	49
印刷ジョブをインポートする	49
ジョブを印刷キューにインポートする	49
外部のアーカイブや Fiery server ハードディスクからジョブをインポートする	50
印刷オプションの設定	50
ジョブのプロパティを表示する	51
ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション	52
印刷オプションのカテゴリ	53
すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する	53
プリセットのプリント設定	54
サーバープリセット	58
Job Editor	61

Job Editor を開く .....	62
Job Editor でのジョブの編集 .....	65
Job Editor でのステップと反復 .....	67
Job Editor でサブストレートを選択する .....	68
Job Editor から印刷する .....	68
ジョブからラスターデータを除去する .....	69
ラスター曲線エディター .....	70
最後に印刷されたページの特定 .....	70
<b>ジョブを管理する .....</b>	<b>71</b>
ジョブを検索する .....	71
簡易なジョブ検索 .....	71
高度なジョブ検索 .....	72
ジョブサムネイルの表示 .....	72
ジョブにジョブタグを割り当てる .....	73
ジョブタグの管理 .....	73
完了ビューの使用 .....	74
現在のビューをエクスポート .....	74
別のキューにジョブを移動する .....	74
ジョブを別の Fiery server に送信する .....	75
ジョブをアーカイブする .....	75
アーカイブマネージャーでの初回セットアップ .....	76
アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする .....	76
アーカイブ済みジョブの概要 .....	77
移行中にアクセスできないフォルダー .....	77
アーカイブ先を管理する .....	77
アーカイブを共有する .....	78
アーカイブ済みジョブの検索 .....	78
アーカイブ済みジョブを使用する .....	78
アーカイブマネージャーを無効にする .....	79
アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする .....	79
サーバーの初期化 .....	80
ドラッグアンドドロップによるファイル管理 .....	80
インク使用量の推定 .....	80
コストやジョブに関連する列を設定する .....	81
コストを見積もる .....	81
<b>Fiery JDF ジョブ .....</b>	<b>83</b>

Fiery JDF と JMF について .....	83
Fiery JDF の設定 .....	83
JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する .....	84
Fiery JDF ワークフロー .....	84
JDF ジョブを送信する .....	84
Command WorkStation の JDF 列見出しを表示する .....	85
Fiery JDF ジョブと仮想プリンター .....	85
ジョブの JDF 設定を指定する .....	85
ジョブ情報タブ .....	86
ランリストタブ .....	86
ジョブの終了タブ .....	87
Substrate Catalog に JDF ジョブの用紙を追加する .....	87
JDF ジョブの用紙の競合を解決する .....	87
<b>カラーを管理する .....</b>	<b>89</b>
カラー印刷オプション .....	89
デフォルトのカラー設定を表示または編集する .....	89
プロファイル .....	103
プロファイルプロパティを表示する .....	104
プロファイルの色の範囲を比較する .....	104
プロファイルをインポートまたはエクスポートする .....	105
プロファイルを作成または削除する .....	105
プロファイル設定を編集する .....	106
プロファイル内容を編集する .....	107
テストページを印刷する .....	109
Calibrator 3 .....	109
分光測色計を使用してパッチを測定する .....	111
分光測色計のキャリブレーション .....	111
キャリブレーションページの測定 .....	112
濃度ベースのキャリブレーションワークフロー .....	112
タスクの選択 .....	113
サーバーのキャリブレーションの作成 .....	113
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する .....	115
測定結果の表示 .....	116
測定データをエクスポートする .....	117
測定データのリセット .....	118
キャリブレーターの環境設定 .....	118
キャリブレーション設定 .....	120

再キャリブプレート	121
キャリブレーションマネージャー	122
L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー	124
タスクの選択	125
サーバーのキャリブレーションの作成	126
再キャリブプレート	132
キャリブレーションマネージャー	135
インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー	136
Fiery サーバーを選択する	136
サーバーのキャリブレーションの作成	137
キャリブレーション設定	137
インクコントロールの設定	138
リニアリゼーションの合計インク制限を設定する	139
キャリブレーションの概要	139
出力プロファイルの設定	140
再キャリブプレート	140
キャリブレーションマネージャー	143
Spot Pro のスポットカラー	144
Spot Pro を起動する	144
Spot Pro ワークスペース	145
Spot Pro グループタイプ	146
Spot Pro カラータイプ	147
Spot Pro のカスタマイズ	147
Spot Pro 環境設定	147
Spot Pro 列を管理する	148
Spot Pro ツールバーアイコン	149
スポットカラーを検索する	149
スポットカラーを検索する	150
スポットカラーを編集する	150
スポットカラーのバリエーション	152
スポットカラーまたはカラーグループを削除する	154
スポットカラーまたはスポットカラーライブラリの複製またはエクスポート	154
ジョブのスポットカラーを編集する	154
Spot Pro スポットカラーのエイリアス	155
エイリアススポットカラー	156
特殊なカラーとエイリアススポットカラー	158
特殊カラーとスポットカラーのミックス	158
特殊カラーとスポットカラーをミックスする	159

特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査	159
特殊カラーミックスおよび出力プロファイル	160
スポットカラーを最適化する	161
色域警告	161
階調曲線編集によるスポットカラー	162
カラーグラデーションエディターを使用する	162
カラーウォッチページとウォッチブック	163
カラーウォッチページまたはウォッチブックを印刷する	163
1つまたは複数のスポットカラーのウォッチブックを印刷する	164
グループ内のすべてのスポットカラーのウォッチブックを印刷する	165
代替カラー	165
代替カラーの作成や編集を行う	166
サーバーリソースを管理する	168
Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ	168
Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート	168
サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる	169
サーバーを最適な稼働状態で維持する	169
仮想プリンター	170
デフォルト設定	170
仮想プリンターを作成、編集または複製する	170
仮想プリンターを管理する	172
バリエーションデータ印刷リソース	172
バリエーションデータ印刷リソースをバックアップする	172
バリエーションデータ印刷リソースを復元させる	173
グローバルリソースを表示および削除する	173
フォント	173
Fiery サーバーのフォントを管理する	174
フォントのバックアップと復元を実行する	174
ユーザーとグループ	175
グループを表示する	175
ジョブログを使用する	175
ジョブログを表示する	176
ジョブログ列のカスタマイズ	176
ジョブログエントリの詳細情報を表示する	177
ジョブログを印刷する	177
ジョブログのコンテンツをエクスポートする	177
ジョブログのコンテンツをエクスポートおよび消去する	177



サブストレートカタログ	179
Substrate Catalog へのアクセス	180
Substrate Catalog ウィンドウ	180
Substrate Catalog での列の表示を変更する	181
Substrate Catalog 設定を選択する	181
Substrate Catalog の新規エントリの属性	182
Substrate Catalog エントリを作成する	182
Substrate Catalog エントリのサイズ属性を定義する	182
カラープロファイル設定を指定する	183
Substrate Catalog エントリを変更する	184
Substrate Catalog エントリを編集する	184
Substrate Catalog エントリを削除する	184
Substrate Catalog から用紙を選択する	185
一時的なカスタムサブストレートサイズを割り当てる	185
一時的なカスタムサブストレートサイズを Substrate Catalog エントリに割り当てる	186
Substrate Catalog データベースを管理する	187
Substrate Catalog データベースをエクスポートする	187
Substrate Catalog データベースを置き換える	187
Substrate Catalog データベースをマージする	188
Substrate Catalog を工場出荷時のデフォルトにリセットする	188
サブストレートエントリ	189
一般的な用紙属性	189
おもて	191
裏	192
コート	192
グレード	193
用紙ユニット	193
不透明度	193
テクスチャ	193
種類詳細	195
重量	195
サイズカタログ	197
Command WorkStation からサイズカタログへのアクセス	197
サイズカタログを管理する	197
サイズカタログエントリを作成/編集する	197

サイズカタログエントリを削除する	198
サイズカタログエントリを公開または非公開にする	199
サイズカタログエントリをインポートする	199
サイズカタログエントリをエクスポートする	199
サイズカタログを工場出荷時のデフォルトにリセットする	200
<b>Graphic Arts ツール</b>	<b>201</b>
Fiery グラフィックアート機能	201
Fiery Graphic Arts Pro Package	201
コントロールバー	201
デフォルトでコントロールバーを印刷	202
コントロールバーを表示および編集する	202
カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する	203
カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する	203
トラッピング	204
すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する	204
トラッピング幅を指定する	204
トラッピングカラーリダクションを指定する	205
トラッピングセル形状を指定する	205
オブジェクトのトラッピング方法を指定する	205
プログレッシブ	206
プリフライト	206
プリフライトチェックの設定と実行	207
用紙シミュレーションの白色点編集	207
用紙シミュレーションの白色点値を編集する	208
Fiery ImageViewer	209
ImageViewer の必要条件	209
ImageViewer を起動する	210
Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする	210
イメージプレビューを調整する	211
画像のサイズを変更する	212
画像内のカラー値を表示する	213
オブジェクトインスペクター	213
カラー置換	213
ローカルカラー置換	214
おもて面および裏面オーバーレイ	215
画像位置	216
インク制限のアニメーション	216

色分解の表示と印刷 .....	217
ImageViewer の編集 .....	217
曲線を使用して応答を編集する .....	218
色相環を使用して色を編集する .....	219
カラー編集を 1 ページまたは全ページに適用する .....	219
ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する .....	219
サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する .....	220
Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する .....	221
編集したジョブを印刷する .....	222
ソフト校正を PDF にエクスポートする .....	222
校正を印刷する .....	222
モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する .....	222
Fiery ImageViewer の環境設定 .....	223
Fiery ImageViewer 3.0 から Fiery ImageViewer 4.0 への変更 .....	224

# Fiery Command WorkStation

Command WorkStation は、Fiery servers の印刷ジョブ管理インターフェイスです。

Command WorkStation では、複数の Fiery servers に接続したうえで、1つの場所でジョブの管理を行うことができます。直観的なインターフェイスにより、オペレーターやシステム管理者は、処理するジョブの数やタイプに関係なく、複雑なタスクを簡単に処理できます。

ジョブセンターとデバイスセンターは Command WorkStation の統合機能であり、これらにはジョブの検索とプレビュー、ワークフローの割り当て、印刷の管理を行うためのツールが含まれています。

Command WorkStation ツールを使用して、以下のタスクを実行できます。

- ジョブのインポートとプレビュー
- Fiery servers に関する情報の表示
- プリントオプションの指定
- カスタムワークフローの表示と変更
- プリプレスジョブワークフローの管理
- 面付けソフトウェアやメ이크レディアアプリケーションなどの Fiery アプリケーションを使用したジョブの準備とアセンブリ

Fiery servers には数々のオプション機能が用意されており、それらはすべてこのヘルプシステムで文書化されています。ただし、Command WorkStation には、接続している Fiery server でサポートされているオプション機能（HyperRIP モードなど）のみが表示されます。

Fiery server にインストールされている Fiery システムバージョンは、デバイスセンター > 一般情報で確認できます。（[Command WorkStation ワークスペース](#)（13 ページ）を参照してください）。

Command WorkStation 機能の詳細は、取扱説明書のユーティリティを参照してください。

## Command WorkStation ワークスペース

メインウィンドウでは、接続しているすべての Fiery servers または選択したサーバーで発生しているアクティビティの概要が表示され、各種機能にアクセスできます。

Fiery server を Command WorkStation に追加する方法については、[Fiery server を追加して接続する](#)（18 ページ）を参照してください。

**メモ：**表示される内容は Fiery server ごとに異なります。概要を以下で説明します。詳細については、ジョブセンターのヘルプメニューから Fiery server の Command WorkStation ヘルプにアクセスし参照してください。

Command WorkStation メインウィンドウには以下の領域が含まれます。

- メインメニュー：各種コマンドにアクセスできます。
  - サイドバー：ホーム、ジョブセンター、アプリおよびリソース、Fiery スマート検索の各画面のボタンナビゲーションを表示します（上部の Fiery ロゴの下）。
    - ホーム：接続している Fiery servers の状況の概要と、1 週間以内に実行した印刷プロダクションに関する統計情報のスナップショットが表示されます。
    - ジョブセンター：接続されている Fiery server に送信されるジョブの表示および管理に使用します。
      - サーバー：ジョブキューやジョブ状況が一覧表示されます。一部の Fiery servers では、使用可能な用紙や消耗品も表示されます。各 Fiery server の表示を折りたたむと、表示できるサーバーの数が増えます。
      - ジョブ状況：現在処理中のジョブと印刷中のジョブの状況が表示されます。これらのジョブを管理するには、サーバー一覧で処理中キューまたは印刷中キューをクリックします。
      - ジョブプレビュー：処理済みジョブの内容がサムネイルで表示されます。FS300 Pro 以降の Fiery server では、スプール済みジョブや処理済みジョブのサムネイルが表示されます。
      - ジョブ概要：ジョブ名またはタイトル、ページ数またはシート数、部数など、選択したジョブの情報が表示されます。スプール時間または処理時間、使用されている用紙、プリフライトまたはジョブの検証結果など、その他の情報が、選択した Fiery server 別に表示されます。鉛筆アイコンをクリックすると、一部のジョブプロパティのフィールドを編集できます。
      - ジョブ一覧：ジョブのリストと、実行できるジョブアクションをまとめたツールバーが表示されます。ジョブを右クリックすると、ジョブアクションの完全なリストが表示されます。
    - アプリおよびリソース：インストールされているすべての Fiery アプリケーションに 1 回のクリックでアクセスできるほか、Fiery server について他のアプリケーションやリソースも表示されます。選択した Fiery server でサポートされている無料のソフトウェアトライアルやダウンロードにもアクセスできます。
- メモ：** 使用可能なアプリおよびリソースの一覧を表示するには、インターネット接続が必要です。

## Fiery スマート検索

Fiery スマート検索で、情報やトレーニングリソースを検索して、Command WorkStation や Fiery 機能の詳細を調べることができます。

- 1 ジョブセンターで、Fiery サイドバーの左下にある Fiery スマート検索アイコン（拡大鏡）をクリックします。  
Fiery スマート検索は、別のウィンドウがジョブセンター上で開かれていない限り、いつでも左下のサイドバーで使用できます。
- 2 Fiery 情報の検索領域で検索用語を入力し、Enter を押します。  
マウスまたはスクロールバーでリストをスクロールできます。  
検索ウィンドウには一度に 10 件の結果が表示されます。
- 3 検索結果をクリックします。  
情報はデフォルトの Web ブラウザーで開きます。

## ジョブセンター

Command WorkStation のジョブセンターは、接続済みの Fiery server に送信されるジョブの表示と管理を一元的に行うことのできる場所です。ジョブセンターには印刷中キュー、処理中キュー、印刷準備キュー、待機ビュー、印刷済みビュー、アーカイブ済みビュー、完了ビューがあります。

ジョブセンターでは、以下を行うことができます。

- 検索するそれぞれの Fiery server 内のジョブの検索、ジョブのプロパティの表示、ジョブのプレビューツールバーからさまざまな機能へのアクセス
- ワークフローの割り当てとジョブの管理
- ジョブ一覧のカスタムビューによる効率的なジョブ管理
- すべてのジョブのすべてのジョブを表示し、すべてのキューにあるすべてのジョブを表示
- ジョブの場所に関係なく、Fiery server のすべての印刷済みジョブが一覧表示される完了ビューでジョブを表示
- Fiery servers の状況をすべて表示
- プレスに関する情報の表示
- ジョブのプレビュー
- ジョブのサムネイルアイコンの表示
- ジョブ概要ペインでのプロパティの編集
- ジョブをデスクトップから Command WorkStation にドラッグアンドドロップ
- Fiery server の『ヘルプ』にアクセス

## 処理中ジョブと印刷中ジョブの状況

ジョブセンターの上部にある処理中ペインと印刷中ペイン（青い長方形）には、それぞれ処理中のジョブと印刷中のジョブの進行状況が表示されます。

処理中ペインにジョブをドラッグアンドドロップすることができます。

Fiery server が HyperRIP モードをサポートしている場合は、さらに詳しい状況を知ることができます。ジョブがページ平行モード（単一ジョブモード）で処理されている場合は、ジョブセンターの処理中ペインに表示される進行状況バーが分割され、使用中のプロセッサごとの進行状況が示されます。ジョブがジョブ平行モード（複数ジョブモード）で処理されている場合は、処理中ペインのジョブ状況カラムがさらに分割され、処理中のジョブごとの進行状況が示されます。

## キュー内のジョブを管理するコマンド

ジョブセンターの待機、印刷済みまたはアーカイブ済みキューに表示されるジョブ向けのコマンドを利用できます。キュー内のジョブを右クリックしてコマンドの一覧を表示したり、アクションメニューからコマンドを選択したりできます。

オプション機能は、接続している Fiery server でサポートされているものだけが表示されます。

<b>ワークフローを適用</b>	選択したジョブに適用できるサーバープリセットおよび仮想プリンターの一覧を表示します。
<b>アーカイブ</b>	選択したジョブをアーカイブします。
<b>コピー先</b>	別の Fiery server のキューにジョブをコピーします。移動先の Fiery server を Command WorkStation に接続する必要があります。接続していないと Fiery server はリストには表示されません。
<b>削除</b>	選択したジョブを削除します。
<b>複製</b>	選択したジョブのコピーを作成します。
<b>ImageViewer</b>	1 つのジョブの最初のページ（複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブのページ）を表示する <b>ImageViewer</b> を開きます（サポートされている場合）。詳細については、 <a href="#">Fiery ImageViewer</a> （209 ページ）を参照してください。
<b>移動先</b>	Fiery server に Fiery システムソフトウェアバージョン FS350 以降がインストールされている場合は、ジョブを別の Fiery server に移動できます。移動先の Fiery サーバーは Command WorkStation に接続されている必要があります。移動先の Fiery サーバーのシステムソフトウェアは、サポートされているバージョンであればどれでも問題ありません。移動先の Fiery server を Command WorkStation に接続する必要があります。接続していないと Fiery server はリストには表示されません。
<b>プリフライト</b>	出力エラーがよく発生する項目をチェックしてファイルが正常に印刷されるようにするために、選択されている 1 つのジョブ（複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブ）が表示された状態でプリフライト設定ダイアログボックスを開きます。詳細については、 <a href="#">プリフライト</a> （206 ページ）を参照してください。
<b>プレビュー</b>	ジョブのページのイメージを表示できるプレビューダイアログボックスを開きます。
<b>処理後待機</b>	選択したジョブを待機、印刷済み、アーカイブ済みリストから処理中キューに送信します。
<b>プロパティ</b>	選択したジョブに関する情報（印刷設定など）が表示されるジョブのプロパティウィンドウを開きます。複数のジョブが選択されている場合、選択されたジョブが共有していないプロパティは空欄になります。
<b>ラスターデータ除去</b>	待機またはアーカイブ済みリストから選択したジョブのラスターデータを削除します。
<b>名前の変更</b>	選択したジョブ名を変更します。

## 印刷キューへ送信

選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。

**メモ：**印刷キューへ送信は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。

## 準備完了へ送信

ジョブを印刷のためにプレスに送信します。

**メモ：**準備完了へ送信は、一部の Fiery servers でサポートされていない可能性があります。

## プリフライトレポートを表示

プリフライトレポートを開きます。プリフライトされたジョブのレポートのみを表示できます。詳細については、[プリフライト](#) (206 ページ) を参照してください。

## デバイスセンター

Command WorkStation では、1つのワークスペース内にシステム情報を表示します。デバイスセンターを使用すると、接続されている Fiery server を設定したり、各種印刷管理ツールにアクセスしたりできます。

デバイスセンターにアクセスするには、詳細アイコン (3つのドット) をクリックしてデバイスセンターを選択するか、サーバーリスト内の Fiery server 名をダブルクリックします。

デバイスセンターでは、以下の作業を行うことができます。

- 接続されている Fiery server に関する情報の表示
- カラーのデフォルトなど、ジョブプロパティのデフォルトの設定
- Substrate Catalog、バリアブルデータ印刷 (VDP)、カラープロファイル、スポットカラーテーブル、フォント設定の表示と変更
- 使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセットの表示と作成
- 処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログの表示

デバイスセンターには以下の設定があります。

- 一般 - IP アドレス、容量 (ハードディスクドライブの空き領域)、インストール済みのオプションとパッケージリストを含む、接続されている Fiery server に関する情報を表示します。一般セクションには、一般情報、サーバー設定、ツールなどの機能が含まれています。
- カラー設定 - カラー設定セクションには、カラー管理があります。また、接続している Fiery server でサポートされている場合、コントロールバー、トラッピングおよびハーフトーンシミュレーションが含まれることがあります。
- リソース - Substrate Catalog、バリアブルデータ印刷 (VDP)、カラープロファイル、スポットカラーテーブル、フォント設定の表示や変更を行います。リソースセクションには、サイズカタログ、バリアブルデータ印刷リソース、プロファイルおよびフォントがあります。また、接続している Fiery server でサポートされている場合、サブストレートカタログ、Spot Pro および特殊カラーが含まれることがあります。
- ワークフロー - 使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセットの一覧を表示します。ワークフローセクションには、ジョブプリセット、仮想プリンターおよび高品位イメージ画像が含まれます。
- ログ - 処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログを表示します。ログタブにはジョブログタブがあります。



# Fiery server を追加して接続する

## アクセスレベル

システム管理者、オペレーター、または（システム管理者がアクセス権を付与した）任意のユーザーとしてログインできます。システム管理者は各ユーザーに対し、パスワードを設定できます。

- **システム管理者** - Command WorkStation および Fiery server のコントロールパネルの全機能にアクセスできます。システム管理者のパスワードが必要です。
- **オペレーター** - ジョブセンターの全機能にアクセスできます。デバイスセンターで、オペレーターは Configure、バックアップ/復帰、パスワードの変更、ジョブログの削除にアクセスできません。Substrate Catalog、仮想プリンター、およびカラー管理機能の表示はできますが、編集はできません。オペレーターのパスワードが必要です。
- **ユーザー名** - システム管理者は、ユーザーを作成してグループに割り当て、そのグループに権限（ゲストの権限、サーバープリセットを作成する権限など）を割り当てます。

アクセスレベルの設定の詳細は、『Configure のヘルプ』および取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

## Fiery server への接続

Command WorkStation を使用するには、Fiery server に接続する必要があります。

Command WorkStation のサーバーリストにより、使用可能なすべての Fiery server へのアクセスを管理します。Fiery server の追加（および接続）、削除、切断を選択できます。

ダイアログボックスにサーバー名または IP アドレスを入力して、Fiery server を検索できます。サーバーを接続して認証した後、IP アドレスをサーバーリストの Fiery server 名に切り替えます。Command WorkStation は、一度に一つ以上の Fiery server に接続できます。

Fiery server への接続が切断された場合、Command WorkStation は自動的に再接続を試みます。自動再接続に関する詳細については、[Command WorkStation の環境設定](#)（23 ページ）を参照してください。

Fiery server への接続を失った時点でいずれかの Command WorkStation プラグインウィンドウが現在開いている場合、プラグインウィンドウでユーザーにメッセージが表示され、統合 PDF としてジョブを保存するオプションが提供されます。

## Fiery server を追加して接続する

Fiery server を追加し、そこに接続したり再接続したりできます。

Fiery server を追加するには、そのサーバー名または IP アドレスが必要です。

サーバー名または IP アドレスがわからない場合は、検索機能を使用してネットワーク上で使用可能な Fiery server を見つけることができます。詳細については、[使用可能な Fiery server を検索するには](#) (19 ページ) を参照してください。

- 1 サーバーリストまたはホームスクリーンでプラス記号 (+) をクリックします。Fiery server の IP アドレスまたはサーバー名を入力し、**追加**をクリックします。
- 2 ユーザーリストからユーザーを選択し、適切なパスワードを入力します。  
ユーザーはデフォルトのユーザー名 (システム管理者およびオペレーター) に加えて、独自のユーザー名でもログインできます。ただし、その場合はネットワーク管理者がユーザーをいずれかのグループのメンバーに設定しておく必要があります。
- 3 ログインをクリックします。
- 4 サーバーリストの Fiery server に接続したことがある場合は、その Fiery server を選択し、**接続**をクリックします。

## 使用可能な Fiery server を検索するには

Fiery server のサーバー名または IP アドレスがわからない場合、ローカルエリアネットワークで Fiery server を検索できます。ローカルコンピューターが含まれているサブネット内か、特定のサブネットまたは IP アドレスの範囲内を検索できます。

- 1 サーバーリストでプラス記号 (+) をクリックします。
- 2 Fiery サーバー追加ダイアログボックスにローカルサブネットの自動検索結果が表示されない場合や、サーバー名または IP アドレスが不明な場合は、**高度な検索**をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
  - 特定の IP アドレス範囲内の Fiery servers を検索するには、**検索**ドロップダウンメニューから **IP 範囲**を選択します。
    - 検索を開始する IP アドレスを**開始**に入力します。オクテットの最初から検索するには、「0」と入力します。たとえば、「10.100.10.0」と入力します。
    - 検索を終了する IP アドレスを**終了**に入力します。オクテットの最後まで検索するには、「255」と入力します。たとえば、「10.100.10.255」と入力します。

- 特定のサブネット範囲内の Fiery servers を検索するには、**検索**ドロップダウンメニューからサブネットを選択します。
- 検索対象に含めるサブネット範囲を示すサブネットアドレスを入力します。どの数値でもかまわないオクテットには、「0」を入力します。たとえば、「10.100.10.0」を入力すると、「10.100.10.1」から「10.100.10.255」の範囲が検索されます。
- 検索対象から除外するサブネット範囲を示すサブネットマスクを入力します。何も除外しない場合は、「0」を入力します。たとえば、「255.255.255.0」を入力すると、先頭の3つのオクテットのサブネットアドレス以外はすべて除外され、4番目のオクテットでは任意の値が許可されます（10.100.10.30など）。

#### 4 実行をクリックします。

検索条件に一致する Fiery server があれば、表示されます。キーワードでフィルタリングフィールドにキーワードを入力することで、検索結果リストを絞り込むことができます。

#### 5 結果リストから Fiery server を選択し、OK の後に追加をクリックして、そのサーバーをサーバーリストに追加します。

## Fiery server からログオフするには

Fiery server からログオフすると、Fiery server と Command WorkStation の間の接続が終了します。

- 1 サーバーリストから Fiery server を選択します。
- 2 Fiery server の名前横にある「詳細」アイコンをクリックし、次のいずれかを選択します。
  - システム管理者としてログインしている場合は、**システム管理者**をログアウトをクリックします。
  - オペレーターとしてログインしている場合は、**オペレーター**をログアウトをクリックします。

## 別の Fiery server を表示する

Command WorkStation では、接続している Fiery server から別のサーバーに表示を切り替えることができます。

- 接続している Fiery server から別のサーバーに表示を切り替えるには、サーバーリストで別の Fiery server をクリックします。

## サーバーリスト

サーバーリストには、現在接続中または過去に接続された（現在は接続解除されている）Fiery servers に関する情報が表示されます。

サーバーリストは「ドロップゾーン」です。つまり、サーバーリスト内のキューにファイルをドラッグアンドドロップできます。サーバーリストは、接続しているプリンターの情報が Fiery server 名のすぐ下に表示されるように設計されています。Fiery server 名の左側にあるプラス記号 (+) をクリックすると、個々の Fiery server を展開できます。Command WorkStation を終了しても、サーバーリストは保持されます。

## 消耗品

消耗品とは、ジョブを印刷するためにプレスで使用（消費）されるサブストレートやインクなどの限りあるリソースです。

消耗品に関する情報は、以下で参照できます。

**メモ：**この機能は、接続したプレスでサポートされている場合に利用できます。

- サーバーリスト（Fiery server のキューの名前の下）
- デバイスセンター > 一般 > 一般情報 > 消耗品

## サーバー情報

Fiery server 情報を詳細な形式で表示するには、デバイスセンター > 一般 > 一般情報を選択します。

## エラー/警告

サーバーリストには、Fiery server の状況に関する情報と、プレスに関するエラーメッセージが表示されます。

## 状況メッセージ

状況メッセージには Fiery server に関するものと、プレスに関するものがあります。メッセージは以下のとおりです。

使用可能	Fiery server またはプレスは使用可能です。
使用しています	Fiery server はジョブを処理しています。
印刷しています	Fiery server はジョブを印刷しています。
キャンセルしています	Fiery server はジョブをキャンセルしています。
スリープ	プレスはスリープモードです。
低電源	プレスは低電源モードです。
キャリブレーション	プレスはキャリブレーションを実行しています。
メンテナンスが必要です	プレスの定期メンテナンスが必要です。
ウォームアップしています	スリープモード（低電源モード）から立ち上がり、現在ウォーミングアップ中です。

## エラーメッセージ

エラーメッセージは、Fiery server とプレスの両方に影響があり、ジョブが印刷できなくなる問題（紙詰まりなど）に関する非常に重要なメッセージです。複数のエラーが同時に発生した場合、最も重大なエラーが先に表示されます。最初のエラーが解決されると、次のエラーが表示されます。

表示されるエラーメッセージの例は以下のとおりです。

- プレスの電源とケーブル接続を点検してください
- プレスのシリアル通信が切断されました
- 印刷は一時停止しています

# Command WorkStation のカスタマイズ

## Command WorkStation の環境設定

Command WorkStation 全体に適用される環境設定を指定できます。たとえば、アプリケーションの設定を元のデフォルトにリセットすることもできます。

### 1 環境設定ウィンドウを開くには：

- Windows コンピューターの場合は、**編集 > 環境設定**をクリックします。
- mac OS コンピューターの場合は、**Command WorkStation > 環境設定**をクリックします。

### 2 一般で、以下の一般環境設定を指定します。

- **自動再接続** - 自動的に再接続を選択すると、保存したパスワードを使用して、切断したサーバーに自動的に再接続します。
- **アップデート** - 今すぐ確認をクリックして **Fiery Software Manager** を開き、最新バージョンの **Command WorkStation** ソフトウェアと **Fiery** ワークフローアプリケーションをオンラインで入手できるかどうかを確認します。
- **設定リセット** - リセットをクリックして、アプリケーションの設定を元のデフォルトに戻します。  
**メモ：** 追加した **Fiery servers** は、パスワードと共にサーバーリストに保持されます。
- **データの消去** - データの消去をクリックして、**Command WorkStation** でパスワードを保存したすべてのユーザーとサーバーの保存済みパスワードを消去します。
- **アーカイブマネージャー** - アーカイブマネージャーを有効にするか無効にするかを選択します。
- **ジョブタグ** - サーバーリストにタグ（最大 10 個）を表示するかどうかを選択します。
- **Fiery ヘルスマニター** - ジョブセンターの状況を表示を選択して、ジョブセンターでサーバーのヘルス状況を表示します。
- **改善プログラム** - ソフトウェアの品質、信頼性、パフォーマンスの向上に取り組む **EFI** に協力するため、氏名、住所、その他の個人情報を含まない匿名の使用データを送信することに同意する場合は、該当するチェックボックスをクリックします。

### 3 地域で、以下の地域設定を指定します。

- **言語** - Command WorkStation を表示する言語を選択します。デフォルトで、Command WorkStation は現在の地域のオペレーティングシステム言語を使用します (その言語がサポートされている場合)。言語がサポートされていない場合、Command WorkStation は英語を使用します。

**メモ** : Command WorkStation の言語を変更すると、同じクライアントにインストールされている場合は Fiery Hot Folders の言語も変更されます。逆の場合も同様です。

- **測定単位** - ページサイズやカスタムサイズなどの属性を表示するための測定単位を指定します。この設定は定義済みのページサイズ値には影響を及ぼしません。

### 4 エクスポートでは、設定を別の Command WorkStation クライアントと共有できます。

- **インポート** - インポートをクリックして、他のコンピューターから Command WorkStation 設定をインポートします。
- **エクスポート** - エクスポートをクリックして、Command WorkStation 設定を zip ファイルにエクスポートし、他の Command WorkStation クライアントの設定に使用できます。

### 5 OK をクリックして設定を保存し、環境設定ウィンドウを閉じます。

## ジョブセンターの列を管理する

キューの列見出しをカスタマイズできます。特定の印刷環境に関連する情報が表示されるように、これらの列の順序を変更するか、または列を追加/削除します。

### カラム表示を変更する

ジョブセンターのカラムセットを指定したり、カラムの追加/削除を行ったりできます。

- 1 ウィンドウタイトルバーの下にある任意のカラムを右クリックします。
- 2 標準セット、バリアブルデータ印刷セット、JDF セットのいずれかを選択します。
- 3 メニュー内の項目を選択して、カラムの追加/削除を行います。

### カラムの幅を調整する

ジョブセンターのカラムの幅を変更できます。

- そのためには、カラムの境界を左または右にドラッグします。

## ペインの展開/折りたたみ

ジョブプレビュー、ジョブ概要、サーバーペインを展開したり折りたたんだりできます。サーバーペインで個々のサーバーを折りたたむこともできます。

- 次のいずれかを行います。
  - ジョブプレビューペインのタイトルバーにある矢印アイコンをクリックして、ウィンドウを展開したり、折りたたんだりします。
  - サーバーリストでサーバーの隣にあるプラス記号またはマイナス記号をクリックします。
  - サーバーペイン全体を左に折りたたむには、左下のバーの矢印アイコンをクリックします。
  - ジョブ概要ペイン全体を右に折りたたむには、右下のバーの矢印アイコンをクリックします。

## ツールバーをカスタマイズする

ジョブセンターでツールバーをカスタマイズできます。デフォルトのツールバーアイコンを復元することも可能です。

一部のツールバーアイコンは、**Fiery server** でサポートされている場合のみ使用できます。

- 1 ツールバー上で右クリックし、表示されるサブメニューからカスタマイズを選択します。  
標準セットがツールバーアイコンのデフォルトセットです。
- 2 ツールバーのカスタマイズウィンドウで、ツールを選択し追加または除去をクリックして、使用可能なツールリストと選択したツールリストの間でツールを移動し、ツールバーアイコンを追加または除去します。  
標準セットには次のツールバーアイコンを追加できます。
  - 処理後待機 - 選択されたジョブを処理して待機リストに保持します。
  - アーカイブ - 選択されたジョブをアーカイブします。

標準セットのアイコンの一覧については、[ジョブセンターのツールバーのアイコン](#) (25 ページ) を参照してください。

- 3 ツールを選択し上または下ボタンをクリックして、ツールバーアイコンの表示順序を指定します。
- 4 標準セットをクリックすると、デフォルトのツールバーアイコンに戻ります。

## ジョブセンターのツールバーのアイコン

ジョブセンターのツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

インポート	ファイルのインポートウィンドウが開きます。
プレスへ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。



	<b>メモ：</b> プレスへ送信は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。
印刷キューへ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 <b>メモ：</b> 印刷キューへ送信は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。
準備完了へ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 <b>メモ：</b> 準備完了へ送信は、一部の Fiery servers でサポートされていない可能性があります。
プロパティ	選択したジョブのジョブのプロパティウィンドウが開きます。
プレビュー	選択したジョブを表示する Fiery プレビューウィンドウが開きます。
削除	選択したジョブを削除します。
Spot Pro	Spot Pro ウィンドウが開きます。
ログ	ジョブログウィンドウが開きます。
Substrate Catalog	Substrate Catalog ウィンドウが開きます。
<b>メモ：</b> 一部のツールは、Fiery server でサポートされている場合のみ使用できます。	

# Fiery server 設定

## Configure にアクセスする

Fiery server を初めて起動した後、またはシステムソフトウェアをインストールした後、Fiery server を設定する必要があります。これを行わなかった場合、デフォルト設定が使用されます。使用している印刷環境に合った設定を選択してください。ネットワークまたは印刷環境が変わった場合は、設定の調整が必要となる場合があります。

Configure を使用して、クライアントコンピューターから Fiery server を設定できます。Configure には次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation
- WebTools (サポートされるインターネットブラウザから)

## Command WorkStation から Configure にアクセスする

- 1 Command WorkStation から対象の Fiery server に接続し、システム管理者としてログインします。
- 2 Configure を起動するには、次のいずれかを行います。
  - デバイスセンターで一般情報を選択し、右下隅の Configure をクリックします。
  - サーバーメニューで、Configure をクリックします。
- 3 Configure で、Fiery server の現在の設定オプションを変更します。

## WebTools から Configure にアクセスする

Configure を使用して Fiery server を設定します。設定は初めて Fiery server を起動する際、またはシステムソフトウェアをインストールした後に必要です。Configure を使用すると、ネットワーク環境に関する情報やユーザーが Fiery server に送信したジョブの印刷環境の設定を指定することもできます。

- 1 インターネットブラウザを開き、Fiery server の IP アドレスを入力します。  
プリンターのコントロールパネルから Web サービスを無効にした場合は、https://IP アドレスを入力する必要があります。

- 2 WebTools で設定タブをクリックします。

**メモ:** セキュリティ対策として、WebTools は HTTPS (ハイパーテキスト転送プロトコルセキュア) でのみ動作するように設計されています。デフォルトでは、WebTools は、Fiery server で作成された自己署名証明書を使用します。この結果、WebTools へのアクセス中に Web ブラウザーに証明書のエラーが表示されます。このメッセージを無視して WebTools へのアクセスを続行しても安全です。

- 3 システム管理者権限でログオンします。

## Configure のヘルプやその他の情報を参照する

Configure で、画面右側のヘルプアイコンをクリックします。

このヘルプ (『Configure のヘルプ』) に記載されていない Configure のセットアップオプションについての詳細は、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

**メモ:** Configure オプションの一部は、お使いの Fiery server でサポートされていない場合があります。

## Configure を終了する

一部の設定は Fiery server をリブートしないと反映されません。設定変更の反映に再起動、リブート、またはその他の動作が必要な場合、ページ上部にメッセージが表示されます。

- 1 必要な変更を行います。  
リブートが必要な設定を複数行う場合、すべての設定変更を完了してからリブートします。
- 2 変更が反映されるように、Fiery server をリブートします。

## サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する

Command WorkStation の「サーバー設定」タブに現在の Fiery server 設定が一覧表示されます。

### サーバー設定の内容を表示する

サーバー設定タブでは、Fiery server 設定のカテゴリを表示したり、設定オプションを変更したりできます。

- 1 Command WorkStation から対象となる Fiery server に接続し、デバイスセンター > 一般 > サーバー設定をクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ページの左にあるショートカットをクリックして、表示したいカテゴリの設定内容を表示します。
  - ウィンドウの右下隅にある Configure をクリックして、現在の Fiery server 設定オプションを変更します。

## サーバー設定をファイルとして保存する

接続先の Fiery server ごとに、サーバー設定をファイルとして保存できます。これは特に、複数の Fiery servers を管理している場合に、各 Fiery server の設定の変更を把握するのに便利です。

- 1 Command WorkStation から Fiery server に接続します。
- 2 デバイスセンター > 一般 > サーバー設定をクリックします。
- 3 別名保存をクリックします。
- 4 ファイル名と保存場所を指定します。
- 5 ファイルのタイプとして PDF またはテキストを選択します。
- 6 保存をクリックします。

## サーバー設定ページを印刷する

設定を行った後、サーバー設定を印刷して設定を確認し、Fiery server の近くに掲示してすぐに参照できるようにします。ユーザーは、現在のデフォルト設定など、このページの情報が必要です。

- 1 設定ファイルを保存します。
- 2 保存したファイルをオフィスプリンターに印刷します。

## ユーザーとグループ

Fiery server にアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによって、ユーザーの権限を定義できます。いくつかのグループがデフォルトで用意されています。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、Configure > ユーザーアカウントで確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に、Fiery server で LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

## 新規ユーザーを作成する

グローバルアドレスリストや連絡先リストにユーザーが存在しない場合、手動でユーザーを作成できます。連絡先リストに表示される任意の名前をユーザーとしてグループに割り当てることができます。

「システム管理者」および「オペレーター」グループには、それぞれ「システム管理者」および「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーが含まれています。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 Fiery 連絡先リストボタンをクリックします。

- 3 Fiery 連絡先リストダイアログボックスで、ユーザー追加ボタンをクリックします。
- 4 ユーザー作成ダイアログボックスで、必要な情報を指定します。作成をクリックします。
- 5 閉じるをクリックします。

## ユーザーを既存グループに追加する

既存のユーザーを既存のグループに追加したり、ユーザーを作成して既存のグループに追加したりできます。ユーザーは複数のグループに追加できます。

ユーザーのアカウントを作成しても、そのユーザーをグループに追加するまでは、権限を与えたことにはなりません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 ユーザーを追加するグループを選択します。
- 3 ユーザー指定をクリックします。
- 4 次のいずれかの方法でユーザーをグループに割り当てます。
  - 新規ユーザーを作成してグループに割り当てるには、ドロップダウンリストから新規ユーザー作成/指定を選択して、ユーザー作成ダイアログボックスに情報を入力し、作成をクリックします。
  - 既存のユーザーアカウントをグループに割り当てるには、連絡先リストから追加を選択します。ユーザー指定ダイアログで、Fiery 連絡先リストのユーザーにアカウント名を入力し、Enter キーを押すか、リストに表示されたアカウントを選択し、ユーザー追加をクリックします。
  - グローバルアドレスリストからユーザーを指定する場合は、グローバルアドレスリストから追加を選択します。LDAP が設定済みで使用可能になっている場合、このリストには、所属する組織の企業データベースから取得された名前が含まれます。LDAP 設定ボタンが表示されたら、ボタンをクリックして、Command WorkStation に対応するように LDAP 設定を行います。
- 5 ユーザーアカウントをグループに追加し終わったら、閉じるをクリックします。

## グループからユーザーを削除する

グループからユーザーを削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery server へ送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはジョブ情報にユーザー名が残ります。

グループからユーザーを削除しても、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

**メモ：**「システム管理者」または「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーは削除できません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 ユーザーが所属しているグループを選択します。
- 3 グループから削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。
- 4 削除アイコンをクリックします。ユーザーは、グループから削除されますが、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

## ユーザー属性を変更する

ユーザーのパスワードやメールアドレスなどの属性を変更できます。ユーザーがすでにログインしている場合は、そのユーザーがログアウトして次に再びログインするときに変更が適用されます。

システム管理者およびオペレーターのデフォルトパスワードを変更するには、次の手順に従うか、新しいパスワードの設定を行います。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 Fiery 連絡先リストボタンをクリックします。
- 3 ユーザー名の上にカーソルを移動します。  
編集アイコンが表示されます。
- 4 編集アイコンをクリックします。ユーザー編集ダイアログボックスで、ユーザー属性を編集し、保存をクリックします。

## グループ権限を変更する

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 グループ名の上にカーソルを移動します。  
編集アイコンが表示されます。
- 3 編集アイコンをクリックします。グループを編集ダイアログボックスで、権限を選択またはクリアし、保存をクリックします。

**メモ：**以下の権限は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。

- キャリブレーション - このグループのメンバーは Fiery server のキャリブレーションを実行できます。デフォルトグループでは、システム管理者グループとオペレーターグループのみこの権限を持ちます。
- サーバープリセット作成 - このグループのメンバーは、ユーザーがジョブに対して選択できるプリントオプションのセットを保存できます。
- ワークフロー管理 - サーバープリセットや仮想プリンターを作成、編集、および削除できます。
- ジョブ編集 - メンバーは待機キューまたは印刷済みキューのジョブを編集できます。

## ユーザーを削除する

Fiery server からユーザーを完全に削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery server へ送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはジョブ情報にユーザー名が残ります。

**メモ：**システム管理者またはオペレーターという名前のデフォルトユーザーは削除できません。また、システム管理者およびオペレーターというグループも削除できません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。

- 2 Fiery server からユーザーを完全に削除するには、次の操作を行います。
  - a) Fiery 連絡先リストボタンをクリックします。
  - b) Fiery 連絡先リストダイアログボックスで、削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。  
  
**メモ：**削除アイコンは、ユーザーの削除を許可されている場合にのみ表示されます。
  - c) 削除アイコンをクリックします。  
Fiery server からユーザーが完全に削除されます。
  - d) 閉じるをクリックします。

## EFI Cloud Connector

EFI Cloud Connector は Fiery server を EFI IQ アカウントに接続します。EFI IQ アカウントから Fiery server を接続または切断できます。Fiery server を接続すると、EFI IQ アカウントへの接続を管理することもできます。

### Fiery server に EFI Cloud Connector をインストールする

EFI Cloud Connector を Fiery server にインストールできます。

EFI Cloud Connector をインストールする前に、Fiery server は使用可能な状態でインターネットに接続されている必要があります。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 EFI Cloud Connector に接続して、次のいずれかを実行します。
  - サーバーメニューで EFI IQ を選択し Fiery server をアップデートをクリックします。
  - 通知をクリックし、Fiery server をアップデートをクリックします。
- 3 アップデートが必要ダイアログボックスで、続行をクリックします。  
Fiery server はアップデート後に自動的にリブートします。

### Fiery server を EFI IQ アカウントに接続する

EFI Cloud Connector を使用すると、Fiery server を EFI IQ アカウントに接続できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 EFI IQ に接続するには、次のいずれかを実行します。
  - サーバーメニューで EFI IQ を選択、し EFI IQ に接続をクリックします。
  - 通知をクリックし、EFI IQ に接続をクリックします。

EFI IQWeb ページが開きます。

3 デバイスのアクティベートの Web ページで、次のいずれかを行います。

- 既存の EFI IQ アカウントログイン情報でサインインします。
- EFI IQ アカウントを作成します。

EFI IQ アカウント作成の詳細については、『EFI IQ のヘルプ』を参照してください。

## EFI Cloud Connector を管理する

Fiery server への EFI Cloud Connector の接続を管理できます。プロキシサーバーに接続することもできます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで EFI IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。  
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。

## EFI Cloud Connector 用のプロキシ設定の構成

EFI Cloud Connector を使用して、ファイアウォールを介して EFI IQ に接続するようプロキシ設定を構成できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで EFI IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。  
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。
- 3 プロキシ設定構成をクリックします。
- 4 プロキシ設定ウィンドウで、プロキシを使用を選択します。
- 5 テキストフィールドに次の情報を指定します。
  - プロキシサーバー名
  - ポート
  - プロキシユーザー名
  - プロキシパスワード
- 6 テストをクリックします。  
プロキシ設定のテストが成功すると、プロキシ設定ウィンドウにメッセージが表示されます。
- 7 保存をクリックします。

## EFI IQ Dashboard を開く

Fiery server を EFI IQ アカウントに接続した後、Command WorkStation から EFI IQ Dashboard に移動できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。



- 2 サーバーメニューで EFI IQ にカーソルを置きます。
- 3 EFI IQ Dashboard に移動をクリックします。  
EFI IQ Dashboard が Web ページで開きます。

## EFI Cloud Connector から Fiery server を外します。

EFI IQ アカウントから Fiery server を切断できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで EFI IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。  
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。
- 3 ユーザー名をクリックします。  
**メモ：**ユーザー名は、EFI IQ アカウントに登録されているメールアドレスです。
- 4 ECC のアクティベート解除をクリックします。
- 5 ECC のアクティベート解除ダイアログボックスで、はいをクリックします。

## バックアップと復元について

Fiery リソースと設定、または Fiery server の全体的なシステムイメージのいずれかのバックアップを取ることができます。

バックアップとシステムイメージの詳細については、取扱説明書の設定管理を参照してください。

## Fiery server 設定のバックアップまたは復元を行う

Fiery server 設定を Command WorkStation に/からバックアップ/復元できます。Fiery server が FS350 以前の場合、Configure に/から設定をバックアップ/復元することもできます。

**メモ：**一部の Fiery server では、Fiery 設定復帰および Fiery デフォルト設定復帰オプションが使用できない場合があります。

## Configure (FS350 以前) から Fiery server 設定をバックアップする

Configure から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

- 1 Configure で、Fiery サーバー>バックアップを選択します。
- 2 画面の指示に従って設定をバックアップします。

## Command WorkStation (FS350 以前) から Fiery server 設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

- 1 Fiery server に接続して、次のいずれかを実行します。
  - まず、デバイスセンター>一般>ツール>バックアップ/復元をクリックします。
  - 次に、サーバー>バックアップ/復元を選択します。
- 2 バックアップをクリックします。
- 3 バックアップする項目を選択します。
- 4 表示されるダイアログボックスで、ファイルの保存先を選択し、バックアップファイルの名前を指定します。
- 5 (オプション) ファイル名に日付を追加を選択することもできます。
- 6 次へをクリックし、終了をクリックします。

## Command WorkStation (FS400 以降) から Fiery server 設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

バックアップファイルは Fiery server ではなく、ネットワークサーバーに保存してください。Fiery サーバーに保存すると、システムソフトウェアを再インストールした場合、バックアップファイルが削除されます。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery server に復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery servers に問題が発生するのを防ぎます。

- 1 システム管理者として Fiery server に接続し、次のいずれかを実行します。
  - まず、デバイスセンター>一般>ツール>Fiery リソースおよび設定の順にクリックします。
  - 次に、サーバー>バックアップ/復元を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、Fiery リソースと設定をクリックします。
- 3 今すぐバックアップをクリックします。
- 4 バックアップしたい項目を選択して、続行をクリックします。
- 5 表示されるダイアログボックスで、バックアップファイルの名前を指定します。
- 6 (オプション) ファイル名に日付を追加を選択することもできます。
- 7 続行をクリックします。
- 8 必要なファイルをダウンロードし、ファイルの場所を指定します。  
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。

## Configure (FS350 以前) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Configure からバックアップを復元できます。

- 1 Configure で、Fiery サーバー > 復元を選択します。
- 2 画面の指示に従い、設定を復元します。

## Command WorkStation (FS350 以前) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できます。

- 1 Fiery server に接続して、次のいずれかを実行します。
  - まず、デバイスセンター > 一般 > ツール > バックアップ/復元をクリックします。
  - 次に、サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 復元をクリックします。
- 3 ダイアログボックスで、復元したい設定の場所を参照し、開くをクリックするか、最近のバックアップを選択します。
- 4 次へをクリックし、復元する項目を選択します。
- 5 次へをクリックし、終了をクリックします。
- 6 復元処理が完了した後で、Fiery server のリポートを求めるメッセージが表示された場合は、リポートを行います。

## Command WorkStation (FS400 以降) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できます。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery server に復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery servers に問題が発生するのを防ぎます。

- 1 システム管理者として Fiery server に接続し、次のいずれかを実行します。
  - まず、デバイスセンター > 一般 > ツール > Fiery リソースおよび設定をクリックします。
  - 次に、サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、Fiery リソースと設定をクリックします。
- 3 復元をクリックします。
- 4 ダイアログボックスで、ファイルを選択をクリックして復元したい設定の場所を参照し、開くをクリックします。  
.fbf ファイルと .DAT ファイルを選択する必要があります。
- 5 続行をクリックします。

- 6 復元したい項目を選択し、**続行**をクリックします。
- 7 復元処理が完了した後で、**Fiery server** のリポートを求めるメッセージが表示された場合は、リポートを行います。

# ジョブの表示

ジョブの内容は、さまざまな方法で表示することができます。

- スプール済みの未処理のジョブ：Fiery Preview の使用 - [Command WorkStation の Fiery Preview](#) (38 ページ) を参照してください。
- 処理済みジョブ：
  - ジョブのプレビューウィンドウ内 - Command WorkStation メインウィンドウにあります。[ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示](#) (38 ページ) を参照してください。
  - Fiery ImageViewer の使用 - Fiery server でサポートされている場合に使用できます。[Fiery ImageViewer](#) (209 ページ) を参照してください。

## Command WorkStation の Fiery Preview

Fiery Preview でジョブのページやシートの内容を確認し、プリントオプションを指定することができます。ジョブの印刷に備えて、面付けなどの付加的なメタタスクを実行することができます。

Fiery Preview では、ラスター画像処理前 (RIP 前) のプレビューが提供され、処理後のジョブではなく、スプール済みジョブが表示されます。Fiery Impose Plus のライセンスが有効な場合は、Fiery Preview ウィンドウにワークフローの機能を統合し、印刷前にその結果を見ることができます。Fiery Impose Plus はジョブを PDF ファイル形式に変換するので面付けレイアウトを作成することができます。

**メモ：**Fiery Impose Plus の詳細については、『[Fiery Impose Plus のヘルプ](#)』を参照してください。

Fiery Impose Plus のライセンスが有効な場合は、Command WorkStation ツールバーの**新規ジョブアイコン**を選択して新規印刷ジョブを作成できます。空のジョブから作業を開始して、スキャンした書類からジョブを準備したり、タブのみのジョブを印刷したり、既存のジョブを組み合わせたりする場合は、新規ジョブを作成します。

処理済みのジョブに対してプレビューを選択すると、ジョブはラスタープレビューモードで開きます。ラスターデータ付きの印刷済みジョブとアーカイブ済みジョブはプレビューできます。ラスターデータ付きのアーカイブ済みジョブは、Fiery server にアーカイブする必要があります。

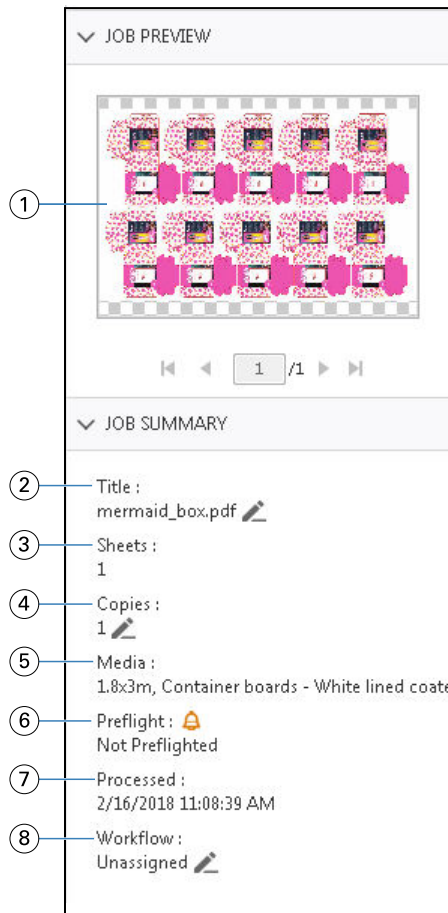
## ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示

ジョブセンターのジョブプレビューウィンドウには、処理済みジョブの特定の情報が表示されます。ジョブプレビューウィンドウには、ジョブ内のすべての面のサムネイルも表示されます。処理済みのジョブは、Fiery ImageViewer ウィンドウに表示されます。

**メモ：**スプール済みで未処理のジョブは、Fiery プレビューウィンドウに表示されます。

Command WorkStation を起動し、待機リストで処理済みジョブを選択してジョブプレビューウィンドウに表示します。ジョブに関する情報が表示されます。情報の一部のカテゴリは編集できます。

ジョブプレビューウィンドウは、Command WorkStation ウィンドウの右側にあります。下の図は、処理済みジョブを示しています。ジョブが処理済みである場合、書類の内部を移動するためのツールが提供されます。



**メモ：**鉛筆アイコンのついたフィールドはいつでも編集することができます。

- 1 サムネイル
- 2 ジョブの名前
- 3 処理された後のジョブのシート数
- 4 印刷する部数
- 5 用紙情報（サイズ、用紙の種類、用紙重量など）
- 6 プリフライト情報  
アイコンで状況が示されます。
- 7 スプール、処理、印刷など、ジョブに対して行った最新のアクションと日付およびタイムスタンプ
- 8 仮想プリンターが使用されている場合は、それがワークフローに表示されます。使用していない場合は、指定なしと表示されます。

**メモ：**表示される情報のカテゴリーは、Fiery server の性能と選択したジョブの状況によって異なります。

## PDF と Fiery Impose Plus ジョブ

Fiery Preview では、ラスター画像処理前（RIP 前）のプレビューが提供され、PDF、および処理後のジョブではなくスプール済みの Fiery Impose Plus ジョブが表示されます。

Fiery Impose Plus のライセンスが有効な場合は、Fiery Preview ウィンドウに複合ワークフローの機能を統合し、印刷前にその結果を見ることができます。Fiery Impose Plus の詳細については、『Fiery Impose Plus のヘルプ』を参照してください。

Fiery Preview では、次のジョブタイプがサポートされています。

- PDF-VT
- ジョブプロパティ > レイアウト設定を含む PDF
- 用紙種類の混合設定を含む PDF
- ジョブプロパティのレイアウトおよび混合設定を含む PDF
- Fiery Impose Plus .dbp 形式

## Fiery Preview のツールバーアイコン

PDF または Fiery Impose Plus ジョブを開くと、Fiery Preview ツールバーに次のコントロールが表示されます。

- Fiery Preview ウィンドウでシートまたはページを選択します。
- ウィンドウ内でプレビューをドラッグ
- ページ要素の寸法を表示
- ズームイン
- ズームアウト
- シート内容をトグルは、サムネイルビューとワイヤーフレーム表示を切り替えます。ワイヤーフレーム表示はレコードのページ番号を表示します。
- サブセットの作成
- サブセットの除去
- Z 折り

## PDF バージョン対応ジョブ

PDF バージョン対応ジョブは Fiery Preview でプレビューできます。また、バージョンエディターを使用すると、ジョブにスポットカラーやレイヤーが含まれる場合に、別のバージョンを作成できます。

Fiery Preview では、次の PDF バージョン対応ジョブタイプがサポートされています。

- PDF バージョン対応ジョブ
- ダイ設定
- PDF バージョン対応ジョブ (ダイ設定の有無)

PDF バージョン対応ジョブの作成の詳細については、[バージョンの作成](#) (43 ページ) を参照してください。

## PDF バージョン対応ジョブを開く

サポートされているバージョン管理された PDF スプールジョブは Fiery Preview でプレビューできます。

サポートされているジョブタイプの 1 つが開くと、Fiery Preview ウィンドウにジョブに対して次のワークフローが表示されます。

1 次のいずれかの方法で Fiery Preview でジョブを開きます。

- ジョブを右クリックし、プレビューを選択します。
- ジョブを選択し、アクションメニューからプレビューを選択します。
- ジョブを選択して、ツールバーのプレビューアイコンをクリックします。

ジョブが Fiery Preview ウィンドウに表示されます。左側のウィンドウにはジョブ表示のサムネイル、メインウィンドウには選択したページが表示されます。

バージョンエディターボタンは、Fiery Preview ウィンドウの右上角にあります。

**メモ：**Version Editor はジョブの種類に依存します。詳細については、[バージョン操作](#) (42 ページ) を参照してください。

2 Fiery Preview ウィンドウには次のメニューが表示されます。

- ファイル：環境設定および終了。
  - 環境設定：Fiery Preview の環境設定を工場出荷時のデフォルトに設定します。
  - 終了：ウィンドウを終了し、変更を加えずにジョブを閉じます。
- 表示：ジョブのページでの拡大縮小と移動を管理します。ウィンドウサイズに合わせる、幅に合わせる、高さに合わせるの表示オプションに対応するアイコンがウィンドウの右下角にあります。
- ヘルプ：Fiery Preview のヘルプが開きます。

次のコントロールを使用できます。

- ウィンドウの側面のスクロールバー
- ウィンドウ下部のページ番号ナビゲーション
- ウィンドウ下部でズーム比率を選択するためのズームコントロールスライダーおよびドロップダウンメニュー



Fiery Preview ウィンドウの左上角には、次のアイコンがあります。

- ポインター（矢印）：ページを選択します。
- パンツール（ハンド）：ウィンドウの中でジョブを移動します。
- ズームツール（拡大鏡）：ズームイン/ズームアウトを行います。

3 スポットカラー、レイヤー、ジョブのバージョンを表示するには、Version Editor をクリックします。

## バージョン操作

ジョブのバージョンを作成するには、まず、レイヤーまたはスポットカラーを組み込んだファイルが必要です。

レイヤーまたはスポットカラーにダイを含むことができます。レイヤーまたはスポットカラーをダイを追加することができます。

ファイルが包装紙やラベルなどのフラットな印刷物の場合は、バージョンを保存する前に面付けを行っておく必要があります。そうすれば、ステップと反復のレイアウトをバージョン操作のために開いたときに、印刷準備ができています。

ジョブを異なるバージョンとして Fiery server に送信することができます。バージョンは、Fiery server で単一のジョブから作成することもできます。プレスオペレーターは、各バージョンを個別のジョブとして識別し取り扱います。

ジョブが処理および印刷された後に、同じジョブの異なるバージョンで同じ仕上げ方法を使用することができます。この種の前処理ワークフローでは、プリプレスオペレーターは、各ファイルに存在する異なるバージョンを識別し、各バージョンのチケットが正しく発行されるようにして、それらのバージョンを異なるジョブとしてジョブ一覧に表示する必要があります。

## バージョンエディターの使用

バージョンエディターでは、レイヤー、スポットカラー、ダイを表示し、ジョブのバージョンを作成できます。バージョンエディターは、ジョブからスポットカラーやレイヤー設定を抽出してジョブを開き、そこからバージョンを追加、編集、保存、または削除できます。また、異なるスポットカラーやレイヤーを選択し、それらをダイラインとして定義することもできます。

次のアイコンとコントロールは、Fiery プレビューウィンドウのものと同じです。

- ポインター（矢印）：ページを選択します。
- パンツール（ハンド）：ウィンドウの周りにジョブを移動します。
- ズームツール（拡大鏡）：ズームイン/ズームアウトを行います。
- ウィンドウの右端にあるスクロールバー。
- ウィンドウ下部のページ番号ナビゲーション。
- 高さに合わせる、幅に合わせる、ウィンドウ右下隅のウィンドウサイズに合わせるの表示オプション。
- ウィンドウの右下隅にある拡大表示コントロールスライダー。

バージョンエディターに固有のコントロールは次のとおりです。

- バージョン：保存済みバージョンのドロップダウンメニュー。
- 保存アイコン：現在のバージョンを保存します。

- 追加アイコン (プラス記号) : 新しいバージョンを作成できます。現在のバージョンを上書きするか、新しいバージョンを保存するかを選択できます。
- 削除アイコン : バージョンフィールドに表示されているバージョンを削除します。
- スポットカラータブ : 元のジョブのすべてのスポットカラーを表示します。
- レイヤータブ : 元のジョブのレイヤーをすべて表示します。
- **ダイラインを選択** (鉛筆ヒントアイコン) : ジョブのダイラインを選択します。XMP (ジョブで使用可能な場合)、スポットカラー、またはレイヤーをダイラインに使用することができます。

Fiery server でダイライン機能がサポートされており、スポットカラーがダイラインとして定義されている場合、バージョンエディターウィンドウに次のアイコンが表示されます。

- **ダイライブラリに追加** (プラス記号の付いた矢印) : ダイラインをダイライブラリに追加します。  
**メモ** : ダイライブラリにはスポットカラーのみを追加できます。ライブラリにレイヤーを追加することはできません。
- **ダイラインエリアの眼のアイコン** : ダイラインのプレビューを表示または非表示にします。変更をクリックします。
- **アイコンの削除** (マイナス記号) : ダイラインを削除します。

バージョンエディターでジョブを操作すると、Fiery プレビューウィンドウに次のバージョンエディターコントロールが表示されます。

- **ダイライン** (眼のアイコン) : ジョブのダイラインのプレビューを表示または非表示にします。ダイラインには、XMP (Extensible Metadata Platform) データも含めることもできます。
- **エクスポート** : 選択されたバージョンをジョブとして Fiery Command WorkStation 待機リストにエクスポートします。複数のバージョンが保存されている場合、バージョンを待機キューにエクスポートダイアログボックスですべてのバージョンを選択できます。バージョンは、待機リストに別のジョブとしてエクスポートされます。

**メモ** : エクスポートアイコンは、バージョンエディターウィンドウの右上隅にあります。新しいバージョンのジョブを作成して保存した場合にのみ、バージョンエディターと Fiery プレビューウィンドウの両方に表示されます。

## バージョンの作成

元のファイルにスポットカラーまたはレイヤーが組み込まれている場合は、ジョブのバージョンを作成できます。ジョブがフラットな印刷物またはブックレットの場合は、事前に面付けされている必要があります。ジョブは Fiery Command WorkStation 待機リストにインポートされます。

ジョブのバージョンを作成するには :

- 1 次のいずれかの方法で、スプール済みジョブを Fiery プレビューに開きます。
  - ジョブを右クリックし、プレビューを選択します。
  - ジョブを選択し、アクションメニューからプレビューを選択します。
  - ジョブを選択して、ツールバーのプレビューアイコンをクリックします。

ジョブが Fiery プレビューウィンドウに表示されます。左側ペインにはジョブ表示のサムネイル、メインペインには選択したページが表示されます。

- 2 Fiery プレビューウィンドウで、右上隅の Version Editor アイコンをクリックします。  
ジョブが Version Editor ウィンドウに開きます。
- 3 スポットカラータブまたはレイヤータブをクリックします。
- 4 スポットカラーまたはレイヤーをプレビューするチェックボックスを選択またはクリアします。
- 5 バージョンを作成するには、スポットカラーまたはレイヤーを選択し、追加（プラス記号）アイコンをクリックします。
- 6 バージョン名を入力ダイアログボックスでバージョンの名前を入力し、OK をクリックします。  
このファイルのバージョンを Version Editor で作成したことがある場合は、ダイアログボックスが開き、これを現在のバージョンとして保存するかどうかの確認が表示されます。はい、現在のバージョンを上書きしますか、いいえ、新しいバージョンを作成しますのでどちらかを選択します。
- 7 作成したバージョンを印刷するには、エクスポートアイコンをクリックします。
- 8 待機キューへバージョンをエクスポートダイアログボックスで、印刷するバージョンを選択し、OK をクリックします。複数のバージョンが保存されている場合は、待機キューへバージョンをエクスポートダイアログボックスでバージョンを選択できます。バージョンは、待機リストに別のジョブとしてエクスポートされます。  
**メモ：**エクスポートしたバージョンは、ImageViewer を使用して処理およびプレビューすることができます。
- 9 Fiery Command WorkStation で、ジョブを選択し、ジョブのプロパティを指定できます。
- 10 この時点でバージョンを印刷しない場合は、Version Editor ウィンドウを閉じます。  
バージョンはジョブの一部として保存されます。ユーザーは後でジョブのエクスポートおよび印刷を選択することができます。  
**メモ：**バージョンが新規ジョブとしてエクスポートされない場合は、バージョン編集を適用せずに、インポートした元のファイルが印刷されます。

## ダイライン

ダイラインは、最終的な梱包製品の作成に使用される梱包材の輪郭やレイアウトを表します。ダイラインはさまざまなマーケットで使用されていますが、主に折り畳み式包装箱や段ボール梱包で使用されています。ダイラインに基づいてコンテンツが作成され、ジョブの形式でプリプレスオペレーターに送信されます。

ダイ印刷機能は、入力ファイルをサポートしており、ダイライン指示が 1 セットのみ含まれます。入力ファイルには、2 つのダイライン情報を含めることもできます。たとえば、外面と内面の両方に印刷する必要がある折りカートンなどの場合です。ダイライン情報が 2 セット含まれる入力ファイルの場合、次の手順を実行します。

- 2 番目のセットのダイライン情報を削除します。これは通常、内面用のミラーダイライン情報です。
- 無線とじではないプレスの場合、入力ファイルは、対応するダイライン情報が含まれる、外面（おもて）と内面（裏）の 2 つの個別ファイルになります。別のプレスで各面が処理され、印刷されるので、ダイラインを両面に印刷できます。

## ダイラインを手動で定義する

ジョブは、ダイラインとして定義できるスポットカラーやレイヤーを持つことができます。ダイラインを手動で定義するには、次の操作を行います。

1 次のいずれかの方法で、スプール済みジョブを Fiery プレビューに開きます。

- ジョブを右クリックし、プレビューを選択します。
- ジョブを選択し、アクションメニューからプレビューを選択します。
- ジョブを選択して、ツールバーのプレビューアイコンをクリックします。

2 Fiery プレビューウィンドウで、右上隅の Version Editor アイコンをクリックします。

3 Version Editor ウィンドウで、スポットカラーまたはレイヤータブをクリックします。画像で使用可能なスポットカラーおよびレイヤーの一覧が、それぞれのタブに表示されます。

4 ダイラインとして定義するスポットカラーまたはレイヤーを選択します。

**メモ：**スポットカラーかレイヤーのどちらかをダイラインとして選択できます。両方を選択することはできません。

5 ダイラインセクションで、ダイラインを選択（鉛筆の先アイコン）をクリックします。

6 ダイラインとして使用するスポットカラーまたはレイヤーを選択します。OK をクリックします。選択したスポットカラーまたはレイヤーがダイラインセクションに一覧表示されます。

7 ダイラインセクションに一覧表示されたダイラインで、次の操作を行うことができます。

- ダイラインを削除するには、除去アイコン（マイナス記号）をクリックします。
- ダイラインのプレビューを表示または非表示にするには、眼のアイコンをクリックします。変更をクリックします。
- スポットカラーがダイラインとして定義されている場合、そのダイラインをダイライブラリに追加するには、ダイライブラリに追加アイコン（プラス記号）をクリックします。ダイライブラリには、使用可能なデフォルトのダイラインを持つことができます。

**メモ：**ダイラインとして定義されているレイヤーをダイライブラリに追加することはできません。

8 待機リストからジョブを選択します。右クリックし、処理後待機を選択します。

ジョブが処理されたら、ジョブを ImageViewer で開いて、生成された3つのサーフェスを表示することができます。コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイの3つのサーフェスです。

## 自動ダイ検出

Fiery server は3種類の自動ダイ検出をサポートしています。それは次のとおりです。

1 スポットダイライブラリ：ユーザーは、よく使用するスポットカラーをダイラインとして保存し、そのダイラインをダイライブラリに追加できます。Fiery server では、ダイライブラリ内のダイラインを自動的に検出するので、ジョブの処理時には、印刷する準備ができています。この自動検出を有効にするには、サーバーのダイライブラリを使用して上書きオプションをジョブのプロパティ>ジョブ情報でオンにする必要があります。

- 2 ESKO XMP テクニカルインクサポート : ESKO (サードパーティ製品) のワークフローが開発されました。Esko ソフトウェアでは、ワークフローでメタデータとして XMP を使用します。使用するインクに関する情報は Ink Manager アプリケーションで定義されます。ユーザーは、共通のスポットカラーを使用する代わりにテクニカルインクとして、Esko ワークフローにダイを定義できます。Ink Manager アプリケーションの使用については、『Esko 製品マニュアル』を参照してください。
- 3 ESKO オートメーションエンジン送信 : Fiery server にジョブを送信する前に、ESKO オートメーションエンジン内でダイ検出が行われます。現在、Esko ワークフローでは、印刷時のサーフェスとして、ダイ (のみ) とコンテンツ (のみ) の 2 つをサポートしています。ダイ+コンテンツのサーフェスはサポートされていません。

Esko Automation Engine で PDF が受信されると、ダイサーフェスとコンテンツサーフェスは自動的に分解されて 2 つの PDF が作成されます。N-up のレイアウト設定が作成され、ダイ設定にマッピングされます。Esko Automation Engine 内で N-up 面付けが行われます。JDF.zip 出力が Fiery server に送信されます。Fiery server では、ジョブは 2 つの PDF (ダイとコンテンツ) の JDF アーカイブとして認識されます。ジョブのプロパティにおけるダイライン印刷設定が自動的に適用されます。ユーザーはこれらの設定を変更できます。ジョブの処理時に、ユーザーはジョブを ImageViewer で開いて、生成されたサーフェスを表示することができます。

ジョブの状況、仕上げ、削除、中断などのジョブ情報は、Esko Automation Engine に送り返されます。

## ダイラインを自動的に検出する

スポットカラーを、自動的にダイラインとして認識されるように定義することができます。それには、ダイラインをダイライブラリに追加します。ダイライブラリへのダイラインの追加については、[ダイラインを手動で定義する](#) (45 ページ) を参照してください。

ダイラインがダイライブラリに追加されると、Fiery server がそのダイラインを自動的に検出し、ジョブを処理して印刷する準備ができます。自動検出を利用すれば、Version Editor を開いてジョブごとにダイラインを手動で定義する必要はありません。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - ジョブをダブルクリックします。
  - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。
  - ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
  - アクションメニューからプロパティをクリックします。
- 2 ジョブのプロパティでジョブ情報アイコンをクリックします。
- 3 ダイ印刷セクションでサーバーのダイライブラリを使用して上書きチェックボックスを選択します。
- 4 必要に応じて、その他の設定を行います。
- 5 処理後待機をクリックします。  
ジョブが処理され、3 つのサーフェス (コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイ) が自動的に生成されます。

ジョブを Fiery ImageViewer で開いて、それぞれのサーフェスを表示することができます。

## ダイラインへの XMP データの使用

ジョブには、XMP (Extensible Metadata Platform) データを組み込むことができます。XMP データを組み込んだジョブが Fiery server にインポートされる場合、その XMP データはジョブの一部として保持されます。

- 1 次のいずれかの方法で、スプール済みジョブを Fiery プレビューに開きます。
  - ジョブを右クリックし、プレビューを選択します。
  - ジョブを選択し、アクションメニューからプレビューを選択します。
  - ジョブを選択して、ツールバーのプレビューアイコンをクリックします。
- 2 Fiery プレビューウィンドウで、右上隅の Version Editor アイコンをクリックします。
- 3 Version Editor ウィンドウで、スポットカラータブをクリックします。  
 画像で使用可能なスポットカラーの一覧が、そのタブに表示されます。
- 4 ダイラインセクションで、ダイラインを選択 (鉛筆の先アイコン) をクリックします。
- 5 ダイラインを選択ダイアログで、ダイラインに XMP データを使用を選択します。OK をクリックします。  
 組み込み XMP データを使用しているダイラインがダイラインセクションに表示されます。
- 6 待機リストからジョブを選択します。右クリックし、処理後待機を選択します。

ジョブが処理されたら、ジョブを ImageViewer で開いて、生成された 3 つのサーフェスを表示することができます。コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイの 3 つのサーフェスです。ダイ+コンテンツとダイの 2 種類のサーフェスは、XMP データを使用して生成されます。

## ダイライン印刷オプション

ジョブのプロパティ > ジョブ情報で、ジョブのダイライン設定を表示および適用することができます。次の設定が使用可能です。

設定	説明
サーバーのダイライブラリを使用して上書	このチェックボックスを選択すると、ダイライブラリに保存されているダイラインを Fiery server で自動的に検出することができます。  <b>メモ:</b> ダイラインは最終製品のシートには印刷されません。
ダイラインを印刷	このチェックボックスを選択すると、ダイラインの印刷、およびこのセクションで一覧されているその他のダイライン印刷オプションが有効になります。
ダイラインの印刷時	ダイラインシートをジョブに適用できるタイミングを指定します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ジョブ印刷前</li> <li>• ジョブ印刷後</li> </ul>

設定	説明
ダイラインコンテンツ	<p>ダイシートにダイラインコンテンツのみ含まれているか、ダイラインと印刷可能なコンテンツの両方が含まれているかを指定します。選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ダイラインのみ</li> <li>• ダイラインとコンテンツ</li> </ul>
ダイラインの印刷先 (サポートされている場合)	<p>ジョブの出力場所を指定します。必要な出力トレイをドロップダウンメニューから選択します。</p> <p><b>メモ：</b>このオプションは、複数の出力トレイ/出力順がプレスでサポートされている場合にのみ使用可能です。</p>
ダイライン部数 :	<p>ダイライン付きで印刷する部数を指定できます。</p>

# 印刷

## 印刷ジョブをインポートする

ファイルは、Fiery server のキューに直接インポートすることによって印刷できます。あるいは、外部（Fiery server のハードディスク以外の場所）にアーカイブされたジョブをインポートすることができます。

## ジョブを印刷キューにインポートする

Fiery server に直接ファイルをインポートしてファイルを印刷します。一度に複数のジョブをインポートしても各ファイルの形式は維持されます。

一度に複数のジョブをインポートできます。キューへのファイルのインポートは、アプリケーションを通じた印刷と似ていますが、ファイルのインポートではファイル形式は維持され、ジョブが PostScript に変換されません。ドラッグアンドドロップで次の場所へファイルをインポートできます。

- サーバリスト内の接続済みの Fiery servers
- 処理中キュー
- 待機キュー

ただし、ファイルのインポートを最適に管理するには、ジョブセンターツールバーのインポートアイコンか、ファイルメニューのジョブのインポートを使用します。参照ダイアログがすぐに表示されます。ファイルを選択すると、選択したファイルがファイルのインポートダイアログに表示されます。このダイアログボックスでは、インポート時にワークフロー（サーバープリセットまたは仮想プリンター）をファイルへ簡単に適用することができます。ドラッグアンドドロップ機能でファイルをインポートする場合、通常この機能は使用できません（例外はサーバリストのみ）。

- 1 コンピューターから印刷中キュー、処理中キューまたは待機リストにファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップします。

サポートされているファイルの種類は、PS、PDF、EPS、TIFF、PDF/VT、PPML、ZIP、VPS です。

**メモ：**すべての Fiery servers で PPML、ZIP、VPS のファイル形式がサポートされていない可能性があります。

上記の場所へファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップしても、ファイルのインポートダイアログボックスは表示されません。フォルダーにあるすべての内容がインポートされます。

- 2 サーバリスト内の接続している Fiery server の処理中キューまたは待機リストにファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。詳細については、手順 5 を参照してください。



- 3 コンピューターからファイルを直接インポートするには、次のいずれかの操作を行います。
  - ファイルジョブのインポート > をクリックします。
  - ジョブセンターのインポートツールバーアイコンをクリックします。
- 4 使用しているコンピューターの参照ダイアログで、アップロードするファイルを選択します。ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。
- 5 次のいずれかを行います。
  - デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery server のデフォルト設定が使用されます。
  - サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery server で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
  - 仮想プリンターを使用を選択し、Fiery server で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、Fiery server にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

- 6 ジョブアクションを選択します。例：
  - 待機 (デフォルト)
  - 処理後待機 (デフォルト)
  - プレスへ送信/印刷キューへ送信/準備完了へ送信

Fiery server の機能によって、他の選択肢が表示される場合があります。

**メモ：**最後に選択されたアクションが表示されます。

## 外部のアーカイブや Fiery server ハードディスクからジョブをインポートする

外部の場所 (Fiery server のハードディスクを含む) にアーカイブされたジョブをインポートします。

- 次のいずれかを行います。
  - ジョブを手動でインポートするには、ファイル > アーカイブ済みジョブのインポートをクリックします。ディレクトリを参照して、アーカイブ済みのジョブが含まれるフォルダーを選択します。ジョブを選択し、OK をクリックします。  
選択したフォルダーがリストにない場合、管理をクリックしてディレクトリを参照し、フォルダーを追加して OK をクリックします。  
インポートされたジョブが待機キューまたは印刷済みキューに表示されます。
  - コンピューターデスクトップ上からファイルを選択し、Command WorkStation の指定のキューにドラッグアンドドロップします。

## 印刷オプションの設定

ジョブのプリントオプションは、ジョブのプロパティウィンドウからアクセスできます。

印刷ジョブが Fiery server に到着すると、オペレーターは Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウで印刷オプションを表示したり、変更したりできます。たとえば、オペレーターは、次の操作を実行できます。

- ジョブの印刷設定を表示する（オペレーターへの指示を含む）
- 設定を書き換える
- 現在適用されているジョブのプロパティのリストをローカルプリンターで印刷する

## ジョブのプロパティを表示する

待機キュー、印刷済みキュー、またはアーカイブ済みキューで選択したジョブの印刷オプションを表示または上書きできます。

オペレーターが Command WorkStation でジョブの設定や印刷オプションを変更していない場合、ジョブのプロパティウィンドウには、インポートされたジョブのすべてのジョブ設定が反映されます。

Command WorkStation にインポートされたジョブは、ジョブに含まれる設定（PostScript ジョブと一部の JDF ジョブ）、または Fiery server のデフォルトのジョブ設定（PDF ファイルまたはジョブ情報なしでインポートされたジョブ）のどちらかを表示します。

現在実行されているジョブの場合、ジョブのプロパティを読み取り専用で表示できます。これには、処理中、処理待機中、印刷中、印刷待機中のジョブが含まれます。これにより、ジョブをキャンセルしなくても、アクティブなジョブのプロパティを確認できます。

## ジョブのプロパティを表示または上書きする

ジョブの印刷オプションを表示または変更できます。

**メモ：**ジョブ概要画面でジョブのプロパティを直接編集して、上書きすることもできます。

1 待機キューまたは印刷済みキューでジョブをダブルクリックします。または、ジョブを選択して以下のいずれかを行います。

- 右クリックしてプロパティを選択します。
- プロパティアイコンをクリックします。
- 次に、アクション > プロパティをクリックします。

単一の Fiery server で複数のジョブを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックするか（Windows の場合）、command キーを押しながらクリックして（Mac OS X の場合）、プロパティをクリックします。複数のジョブが開いたら、ジョブのプロパティウィンドウで値を指定するとその値はすべてのジョブにデフォルトで適用されます。概要タブでは、複数のジョブの印刷オプションを左右に並べて比較できます。

- 2 ジョブのプロパティのグループに設定された印刷オプションを表示するには、各アイコンをクリックします。

オプションによっては、設定を変更した後に、ジョブの再処理が必要となる場合もあります。

- 3 プリントオプションを上書きする場合は、変更を行ってから、OK をクリックして上書き設定を保存するか、処理後待機、準備完了へ送信、プレスへ送信、印刷キューへ送信のいずれかを選択して、ジョブと設定を保存およびプレスに送信して印刷します。

**メモ：**一覧にある印刷アクションまたはキューが、Fiery servers すべてでサポートされていない可能性があります。

設定によっては、ジョブに適用した後でジョブの再処理が必要となる場合があるため、処理済みおよび待機状態にあるジョブに対しては即時適用できません。

## ジョブの既存のプリントプロパティの概要を表示する

ジョブのプロパティウィンドウでは、ジョブの現在のプロパティの概要を印刷できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウで、概要アイコンをクリックします。
- 2 ジョブの既存のプロパティのリストを印刷するには、概要印刷をクリックします。

**メモ：**特定の印刷オプションと設定、およびそれらの設定方法については、Fiery server の取扱説明書を参照してください。

## ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション

印刷や処理後待機など、一般的なジョブアクションをジョブのプロパティウィンドウ内で使用することができます。デフォルトのジョブアクションは、印刷です。

待機	このジョブアクションを使用すると、オペレーターがさらにアクションを起こさない限り、ジョブは Fiery server にスプールされます。待機ジョブは、処理前状態または処理済み状態で存在します。
処理後待機	このジョブアクションを使用すると、Fiery server はジョブをキューに入れて処理を行い、ジョブを待機キューに戻します。このジョブアクションを使用すると、印刷前にジョブをプレビューすることができます。
印刷キューへ送信	ジョブを印刷のためにプレスに送信できます。 <b>メモ：</b> 印刷キューへ送信は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。
準備完了へ送信	ジョブを印刷のためにプレスに送信できます。 <b>メモ：</b> 準備完了へ送信は、一部の Fiery servers でサポートされていない可能性があります。

## 印刷オプションのカテゴリ

ジョブのプロパティの印刷オプションは、簡単にアクセスできるようにカテゴリ別にグループ分けされています。

クイックアクセス	他のジョブプロパティのグループから複製した印刷オプションです。カスタマイズが可能であるため、表示からほとんどのプリントオプションを追加または削除できます。クイックアクセスタブを使用すると、ジョブのプロパティタブすべてに目を通すことなくプリントオプションをすばやく見つけることができます。
ジョブ情報	ページ範囲に必要なユーザー情報、プルーフ、ダイ印刷など、ジョブに関するすべての情報があります。
用紙	印刷するサブストレートの属性とソースが含まれています。
レイアウト	位置設定および仕上げオプション補正のための画像シフト、画像の原点、ミラーまたは回転のプリントオプションを定義します。
カラー	カラー設定および追加の機能（オプションのカラー機能が有効になっている場合）。
イメージ	接続されている Fiery server とプレスでサポートされる、画像品質に関するすべての設定。
仕上げ	プレスでの仕上げ機能にのみ関連するプリントオプション。
バリアブルデータ印刷	すべてのバリアブルデータ印刷（VDP）設定。
概要	ジョブの既存のプリントプロパティを概要で表示します。

## すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する

デフォルト設定機能では、デフォルトのジョブのプロパティ設定を変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。デフォルト設定を使用して Fiery server を設定してから、Fiery Hot Folders、仮想プリンター、サーバープリセットを作成するときいつでも、初期設定を指定できます。

ファイルのインポートダイアログボックスでデフォルト設定を適用を選択して、またはジョブセンターにドラッグして Fiery server にインポートしたジョブにも、デフォルト設定機能で設定された現在のデフォルト設定が継承されます。ジョブが Fiery server キューに配置されると、ジョブのプロパティを上書きできます。

すべてのジョブのプロパティのデフォルト設定を表示または編集できます。カラー設定などのジョブのデフォルト設定を変更するには、デフォルト設定を選択します。デフォルト設定機能には、次の領域からもアクセスできます。

- デバイスセンター >> 仮想プリンター
- デバイスセンター >> サーバープリセット
- デバイスセンター >> カラー管理
- サーバー >> デフォルト設定

デフォルト設定により、Fiery server の任意のデフォルト設定を選択できるデフォルト設定ウィンドウが表示されます。これらの設定は、印刷キューおよび待機キューに適用され、それ以降はサーバープリセットまたは仮想プリンターのデフォルトとして作用します。

- 1 Fiery server 名の隣にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックしてから、デフォルト設定を選択するか、サーバー >> デフォルト設定を選択します。
- 2 デフォルト設定ウィンドウで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。

すべてロックまたはすべてアンロックを選択することもできます。

Fiery server は常にデフォルトでジョブ定義設定を使用に設定されているため、出力プロファイルはロックできません。

**メモ：**ジョブのプロパティを変更前の設定にリセットするには、リセットをクリックします。

- 3 OK をクリックします。

**メモ：**カラーのデフォルト設定を含め、デフォルト設定リストにあるデフォルト設定をバックアップするには、Fiery システム復元で仮想プリンターを選択する必要があります。詳細については、[Command WorkStation \(FS350 以前\) から Fiery server 設定をバックアップする](#) (35 ページ) を参照してください。

## プリセットのプリント設定

プリセットは、以降にアクセス可能な、ジョブのプロパティウィンドウ内のプリント設定のコレクションです。

サーバープリセットはジョブのプロパティからアクセスでき、Fiery Hot Folders や仮想プリンターなどのワークフローに適用できます。

ジョブプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットドロップダウンメニューにリストが表示されます。このリストからジョブのプリセットの1つを選択するか、ジョブのプロパティウィンドウで選択した現在のオプションに基づいて新しいプリセットを作成できます。現在ジョブがプリセットを使用していない場合、プリセットフィールドは空白になります。プリセットフィールドにテキストは表示されません。すべてのプロパティは初期のデフォルト設定を表示します。ジョブプリセットを選択すると、保存済みプリセットを反映するよう、すべての設定が更新されます。いずれかの印刷設定を変更すると、プリセット一覧は空白に戻ります。

ジョブのプリセットには、次の3種類があります。

- **ローカルプリセット** - ユーザーのローカルコンピューターに保存されています。  
ローカルプリセットは、Fiery server にアクセスすると常にプリセット一覧に表示されます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。
- **サーバープリセット** - Fiery server に保存され、Fiery server の他のユーザーと共有されます。  
サーバープリセットをジョブに適用すると、プリセットの設定がジョブの一部となり、変更が加えられるまでジョブと一緒に保持されます。  
サーバープリセットによって印刷設定がロックされている場合、ジョブ用にサーバープリセットを選択した後で、ジョブのプロパティウィンドウで印刷設定上書きすることができます。上書きされると、プリセットフィールドは空白になります。
- **デフォルトサーバープリセット** - Fiery server にインストール済みで、Fiery server の他のユーザーと共有される工場出荷時のプリセットです。

## プリセットの適用

以下のいずれかの方法で、ジョブプリセットを適用できます。

- ジョブセンターのファイル>ジョブのインポートまたはインポートツールバーアイコンを使用してジョブを Command WorkStation にインポートします。サーバープリセットを使用を選択してから、ファイルのインポートウィンドウのリストからプリセットを選択できます。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューからジョブを選択し、ツールバーのプロパティアイコンをクリックします。プリセットリストからローカルプリセットまたはサーバープリセットを選択します。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューでジョブを右クリックし、ワークフローを適用を選択した後、リストからプリセットを選択します。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューでジョブを選択するか、右クリックします。ジョブ概要ペインのワークフローリストからサーバープリセットを選択します。

## プリセットの編集

ジョブ概要ペインでは、プリセットをインラインで編集することもできます。

## ローカルプリセットまたはサーバープリセットの作成

システム管理者は、サーバー>デバイスセンター>ワークフロー>ジョブプリセットで、サーバープリセットの作成、編集、名前の変更、非公開、公開、および削除を行うことができます。ローカルプリセットはジョブのプロパティウィンドウでのみ保存ができます。

ローカルプリセットまたはサーバープリセットを作成するには、ジョブのプロパティウィンドウで設定を選択し、プリセットリストに保存します。

システム管理者は、プリセットをローカルプリセットまたはサーバープリセットとして保存できます。オペレーターは、ローカルプリセットのみ保存できます。

## ローカルプリセットを作成する

システム管理者およびオペレーターは、ジョブのプロパティウィンドウ内の設定をローカルプリセットとして保存できます。

- 1 待機/印刷済みキューのジョブをダブルクリックします。または、ジョブを選択して次のいずれかを行います。
  - 右クリックしてプロパティを選択します。
  - ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリックします。
  - アクション>プロパティをクリックします。
- 2 必要に応じて各タブの印刷設定を調整します。
- 3 プリセットで、プリセット保存を選択します。
- 4 プリセットのわかりやすい名前を入力し、ローカルプリセットを選択します。
- 5 保存をクリックします。

ローカルプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

## サーバープリセットを作成する

システム管理者は、ジョブのプロパティウィンドウ内の設定をサーバープリセットとして保存できます。このプリセットは、Fiery server 上に保存され、サーバーのユーザーと共有されます。

- 1 サーバー デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセット > をクリックします。
- 2 新規をクリックします。
- 3 わかりやすいプリセットの名前を入力します。  
プリセット名にスペースは使用できません。
- 4 プリセットの説明を入力します（オプション）。
- 5 定義をクリックしてジョブのプロパティを指定し、保存をクリックします。  
サーバープリセットですべてのジョブのプロパティを利用できるわけではありません。たとえば、Substrate Catalog エントリを指定しない場合、出力用紙サイズは保存されません。このようなプリセットは、出力用紙サイズが異なるジョブに再利用できます。

サーバープリセットは、次の手順でアクセスすればいつでも使用できます。デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセット > か、ジョブのプロパティウィンドウ。システム管理者が削除しない限り、Fiery server 上に残ります。

サーバープリセットの作成後、設定ウィンドウ（右側）はデフォルトから変更された設定およびロックされた設定を表示します。サーバープリセットは、Fiery server に接続している他のユーザーと共有できるように自動的に公開されます。

## 印刷ジョブのプリセットを変更する

すべてのジョブに対して異なるプリセットを選択して適用することができます。プリセットの編集や名前変更、ローカルプリセットの削除を行ったり、デフォルトプリセットに戻したりすることもできます。

プリセットの操作は、ジョブのプロパティウィンドウで行います。プリセットを表示するには、待機または印刷済みキューでジョブをダブルクリックするか、ジョブセンターでジョブを選択してプロパティツールバーアイコンをクリックします。

## 別のプリセットを選択する

印刷オプションの現在のセットを別のジョブのプリセットに変更できます。

- 待機キューからジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - 右クリックしてプロパティを選択します。ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、異なるプリセットを選択します。

別のプリセットを選択するまで、またはジョブのプロパティにさらなる変更を加えるまで、現在選択されたプリセットが印刷時に使用されます。

## プリセットの編集

プリセットには、ジョブのプロパティウィンドウで設定するほとんどの印刷オプションが含まれます。プリセットを選択した後、ジョブのプロパティウィンドウで設定を上書きできます。

- 次のいずれかの方法でプリセットを編集します。
  - プリセットをジョブに適用し、設定を必要に応じて編集し、プリセットとして保存をクリックします。前と同じプリセット名を入力し、ローカルプリセットまたはサーバープリセットを選択します。
  - サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで、リストからプリセットを選択し、編集をクリックします。ジョブのプロパティウィンドウで必要な変更を行い、ウィンドウを閉じて変更を保存します。

## ローカルプリセットを削除する

ジョブのプロパティウィンドウにあるローカルプリセット管理機能を使用して、ローカルプリセットを削除できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 2 プリセットを選択し、削除をクリックします。

## プリセットの名前を変更する

ジョブのプロパティウィンドウで、ローカルプリセット管理機能を使用してローカルプリセットの名前を変更できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 2 プリセットを選択し、名前の変更をクリックします。
- 3 わかりやすいプリセット名を入力して保存をクリックします。

## デフォルトプリセットを復元

ジョブにデフォルトプリセットを適用して、印刷オプションを Fiery server のデフォルト設定に戻すことができます。システム管理者がデフォルト設定または出荷時のデフォルト（以前はプリンターの初期設定と呼ばれたもの）を使用して設定した現在のデフォルトを適用できます。

- デフォルト設定を適用するには、次のいずれかを行います。
  - 現在のサーバーデフォルト設定を適用するには、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットでデフォルトを選択します。
  - 出荷時のデフォルト設定を適用するには、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで出荷時のデフォルトを選択します。

デフォルトのジョブのプロパティ設定についての詳細は、[すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する](#)（53 ページ）を参照してください。



## サーバープリセット

サーバープリセットは、すべてのユーザーが使用できる一貫した印刷オプションのセットを提供します。ユーザーはローカルプリセットを自身のコンピュータに保存できますが、サーバープリセットの保存、編集、公開、削除ができるのはシステム管理者のみです。

サーバープリセットには次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation (サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットを選択し、ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリック)
- Command WorkStation のジョブのプロパティ (ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリック)
- Fiery Hot Folders (『Fiery Hot Folders ヘルプ』を参照)
- 仮想プリンター (仮想プリンター (170 ページ) を参照)

システム管理者は、サーバープリセットに基づいて Fiery Hot Folders および仮想プリンターを作成できます。また、サーバープリセットを編集すると、Fiery Hot Folders および仮想プリンターの設定も変更されます。

## アーカイブ済みジョブとサーバープリセット

アーカイブ済みジョブは、ジョブ情報とプリセット名を保持します。アーカイブ済みジョブをアーカイブ作成時と同じ Fiery server に復元した場合、サーバープリセットはジョブセンターの処理中や印刷中ウィンドウのプリセットカラム見出しに表示されます。

## 編集されたプリセットの追跡

サーバープリセットが、待機ジョブ、印刷済みジョブ、またはアーカイブ済みジョブに適用された後で変更された場合、プリセット名にアスタリスク (\*) が付きます。つまり、そのプリセットは、ジョブが送信された後でシステム管理者によって編集されています。最新の設定を使用するには、プリセットをジョブに再適用します。

ジョブセンターのウィンドウのいずれか (印刷中、処理中、待機、印刷済み、またはアーカイブ済み) にプリセットカラム見出しが追加された場合、アスタリスクとジョブ名はプリセットカラムに表示されます。

## サーバープリセットの編集、削除、非公開

サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで、サーバープリセットの編集、削除、または非公開ができます。

これらの操作を行うには、Fiery server にシステム管理者としてログオンする必要があります。

現在使用中のサーバープリセットを編集または削除する場合、その変更は以降のジョブにのみ適用されます。変更したプリセット設定は、そのサーバープリセットを使用するすべての Fiery Hot Folders または仮想プリンターに直ちに適用されます。

既存のサーバープリセットは、コンピューター上のファイルを上書きするのと同じ方法で上書きできます。サーバープリセットは、ジョブのプロパティから上書きできます。

すでに Fiery server の待機または印刷済みキューにあるジョブには、このプリセットへの編集内容が自動的に反映されません。Fiery server のキュー内のジョブを、新たに編集したプリセットで更新する場合は、ジョブのプロパティを使用してジョブにプリセットを再適用する必要があります。

## サーバープリセットの編集

システム管理者はサーバープリセットを編集することができます。サーバープリセットは、Command WorkStation（サーバー>デバイスセンター>ワークフロー）、またはジョブのプロパティから編集できます。

- 1 デバイスセンターからプリセットを編集するには、編集したいプリセットを選択し、デバイスセンター>ワークフロー>ジョブプリセットのツールバーから編集をクリックします。
  - a) 変更内容の説明を入力します（オプション）。
  - b) 定義をクリックして印刷設定を変更します。
  - c) OK をクリックします。
- 2 ジョブのプロパティからプリセットを編集するには、待機または印刷済みキューでジョブを右クリックし、ジョブのプロパティを選択します。
  - a) ジョブに対して、プリセットリストからサーバープリセットを選択します。
  - b) プリセットに適用したい、ジョブのプリセットに変更を加えます。
  - c) プリセットリストで、プリセット保存、続いてサーバープリセットを選択し、プリセットの名前を正確に入力します。
  - d) 保存をクリックし、次に OK をクリックして既存のプリセットを上書きします。

## サーバープリセットの削除

システム管理者はサーバープリセットを削除できます。

- 1 リストからプリセット（非公開または公開）を選択し、ツールバーから削除をクリックします。
- 2 はいをクリックします。

削除されたプリセットと関連付けられていた Fiery Hot Folders および仮想プリンターとの接続は切断されます。ただし、削除されたプリセットの設定は保持されます。

## サーバープリセットを非公開

非公開のプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウでは使用できません。サーバープリセットを非公開にした後、そのエントリを再度公開することができます。

- 1 公開済みアイコンを持つサーバープリセットをリストから選択します。
- 2 ツールバーで非公開をクリックします。  
サーバープリセットに非公開アイコンが表示されます。
- 3 はいをクリックします。

非公開にされたサーバープリセットに関連付けられていた Fiery Hot Folders と仮想プリンターは切断されます。ただし、Hot Folders および仮想プリンターは非公開にされたプリセットのプリセット設定を保持します。

## ロック済みサーバープリセットについて

サーバープリセットの印刷設定をサーバー >> デバイスセンター >> ワークフロー >> ジョブプリセットでロックまたはアンロックできます。

これらの操作を行うには、システム管理者として **Fiery server** にログオンする必要があります。

サーバープリセットの設定をロックすることにより以下の操作が可能になります。

- プリセットを使用して **Command WorkStation** にインポートされるすべてのファイルに設定が適用されません。
- **Fiery Hot Folders** ジョブも同じロック済み設定を継承します (**Fiery Hot Folders** がサーバープリセットを使用すると仮定した場合)。
- 仮想プリンターでは設定がロック済みとして表示されます。

**Fiery server** は常にデフォルトでジョブ定義設定を使用に設定されているため、出力プロファイルはロックできません。

ロックはジョブの送信時にのみ適用されます。ジョブが **Fiery server** にある場合は、**Command WorkStation** のジョブのプロパティウィンドウでロック済み設定を編集できます。

## サーバープリセットのロック/アンロック設定

サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで印刷設定をロックまたはアンロックするには、**Fiery server** にシステム管理者としてログオンする必要があります。

- 1 編集するプリセットを選択し、ツールバーから**編集**をクリックします。
- 2 変更内容の説明を入力します (オプション)。
- 3 **定義**をクリックして印刷設定を変更します。
- 4 次のいずれかを行います。
  - **すべてロック**をクリックして、すべての印刷設定をロックします。
  - 特定の印刷設定をロックするには、**ロックアイコン**をクリックします。
  - **すべてアンロック**をクリックしてすべての印刷設定をアンロックします。
  - 特定の印刷設定に対して、**ロックアイコン**をクリックして、**アンロックアイコン**に変えます。
- 5 **OK**をクリックします。

## サーバープリセットのエクスポートとインポート

Fiery server からサーバープリセットをファイル（エクスポート済みプリセット.fjp）にエクスポートし、別の同種の Fiery server のファイルにインポートすることができます。これを行うには、サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットを使用します。

また、保管のために、バックアップ/復帰ツール（サーバー > デバイスセンター > 一般 > ツール）を使用してサーバープリセットをエクスポートすることもできます。プリセットバックアップファイルは、異なるモデルの Fiery server には復帰できません。

プリセットファイルをインポートした場合、その新しいプリセットを既存のプリセットとマージしたり、既存のプリセットを置き換えたりすることができます。

サーバープリセットをエクスポート/インポートするには Fiery server にシステム管理者としてログオンする必要があります。

### サーバープリセットをエクスポートする

システム管理者はサーバープリセットをエクスポートして、別の Fiery server で使用できます。

- 1 ツールバーからエクスポートをクリックします。
- 2 エクスポート済みプリセット.fjp ファイルの保存場所を選択します。
- 3 保存をクリックします。

### サーバープリセットをインポートする

システム管理者は Fiery server からサーバープリセットをエクスポートした後、インポートして別の同種の Fiery server で使用することができます。

- 1 ツールバーからインポートをクリックします。
- 2 既存とマージまたは既存を置換を選択します。

サーバープリセットをマージする場合、インポートしたファイルのプリセットは Fiery server の既存のプリセットに追加されます。重複した同じ名前が存在する場合、インポートしたプリセットの名前の末尾には数字の接尾辞が付きます（たとえば、FirstTest-1）。

サーバープリセットの既存のプリセットを置き換える場合、現在のすべてのサーバープリセットは削除され、新しくインポートした Fiery ジョブプリセットファイルに含まれるサーバープリセットに置き換えられます。

- 3 エクスポート済みプリセット.fjp ファイルの場所を選択します。
- 4 開くをクリックします。

## デフォルト設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。

## Job Editor

Job Editor は、印刷前に個々のジョブのプレビューと編集を行う事前処理ワークフローで使用されます。

**メモ：**Job Editor は一部の Fiery servers でサポートされていない場合があります。

Job Editor は次のタスクの実行に使用されます。

- ネスティングジョブの編集
- ステップと反復（パターン反復）の作成
- ジョブの拡大縮小
- ジョブの反転と回転
- サブストレートでのジョブの配置
- ジョブ固有のサブストレートの選択
- 印刷設定の定義

スプール済みジョブは、Fiery Command WorkStation 待機リストに一覧表示されます。Job Editor では、最大 5 つのジョブを同時に開くことができます。各ジョブは Job Editor の別のタブに表示されます。

## Job Editor を開く

Job Editor で、待機リスト内のスプール済みジョブまたは処理済みジョブをプレビューして、編集することができます。

- ジョブセンターで、次のいずれかを行います。
  - ジョブを右クリックして、**編集**をクリックします。
  - ジョブを選択して、**アクション>編集**を選択します。
  - ジョブを選択して、ツールバーの**編集**アイコンをクリックします。
  - 選択したジョブのサムネイル画像をダブルクリックします。

ジョブが Job Editor ウィンドウで開きます。

## Job Editor ウィンドウ

Job Editor で印刷前にジョブをプレビューして編集することができます。

メニューバーには、次のメニューが表示されます。

- **ファイル**：ジョブを保存、処理、キャンセルするオプション。このメニューから Job Editor を閉じることもできます。
- **編集**：実行したアクションを元に戻すまたはやり直しをするオプション。測定単位を選択し、測定単位を変更して一時的にデフォルトの測定単位を上書きします。

**メモ：**デフォルトの測定単位を、ジョブセンター > 編集 > 環境設定 > 地域 > 測定単位で設定します。

- **表示**：イメージの表示を拡大縮小するオプション。また、これらの表示オプションに対応するアイコンがウィンドウの右下隅にあります。サブストレートでジョブ調整するのに役立つ**固定先**や**表示オプション**などの設定も使用できます。
- **ヘルプ**：『Job Editor のヘルプ』が開きます。

Job Editor ウィンドウの右側には、次のタブがあります。

- **ジョブ情報**：ジョブ固有の情報を取得できる**ジョブ注釈メモ**領域が含まれます。
- **レイアウト**：**ステップ**と**反復**パネルでは、ジョブの複数のコピー（クローン）を作成し、フリップ、オフセット、回転、ドロップ設定を適用して、線維産業で要求されるシームレスな反復パターンを作ることができます。
- **サブストレート**：**サブストレート設定**パネルで、ジョブのプロパティで行われた設定を上書きするジョブ固有のサブストレートを選択できます。
- **プリンター**：**印刷設定**パネルで、必要な印刷部数、印刷長さ、または印刷範囲を指定できます。

**メモ**：印刷範囲の設定は、複数ページのジョブでのみ使用できます。

ツールバーには、次のコントロールが含まれています。

- **保存**：現在の設定でジョブを保存します。
- **変換ツール**：拡大縮小、配置、回転、反転、マージン設定を有効にします。
- **クロップツール**：画像の焦点を選択し、画像周囲の不要なスペースを除去できる設定をアクティベートします。
- **パンツール**：ウィンドウの周りにジョブを移動します。
- **ズームツール**：ズームイン/ズームアウトします。
- **元に戻す**：最後に実行したアクションをキャンセル/復帰します。
- **やり直し**：最後に元に戻したアクションを実行/繰り返します。

ステータスバーには、次のコントロールが含まれています。

- **接続先**：接続されている Fiery サーバーの IP アドレスが表示されます。
- **ジョブ情報**：ジョブに指定された詳細と設定を簡単に確認できます。
- **ページナビゲーション**：ジョブのページ間の移動を制御します。
- **拡大縮小オプション**：表示を必要なサイズに拡大縮小します。

ウィンドウに合わせる、幅に合わせる、選択範囲に合わせるなどのズームコントロールとアイコンが含まれます。

## Job Editor の表示オプション

表示オプションを使用して、サブストレートでジョブの位置揃えを行うことができます。表示オプションは、ジョブの印刷結果には表示されません。

次の表示オプションを使用できます。

- ルーラー-プレビューの上端と左端に沿ってルーラーを表示できます。編集メニューで測定単位を変更することができます。
- ガイド-印刷されない線です。現在の位置でガイドをロックすることができます。
- グリッド-印刷されない水平および垂直の線を表示します。グリッドの間隔は固定です。拡大/縮小を行うと、それに合わせて間隔も自動的に調整されます。吸着を有効にすると、近くのジョブがグリッドに吸着されます。
- プリンターのマージン-プリンターのファームウェアで定義されている印刷範囲外のマージンを表示します。ジョブが印刷不可能なマージン内に配置されていることを確認して、印刷物での不要なクロップを回避することができます。
- ページフレーム-各ジョブの周りに黒い境界線を表示します。これにより、ネスティングレイアウト内の他のジョブと重なっている余白がジョブにあるかどうかを確認できます。
- マウストラッカー-現在のカーソル位置を x/y 座標で表示します。
- ジョブロッカー-ネスティングジョブで使用できます。ジョブを手動で配置する場合は、所定の位置にロックできます。

## Job Editor での表示オプションを表示する

次の手順で、プレビューウィンドウの表示オプションの表示または非表示を選択できます。

- 表示 表示オプション > をクリックし、項目をクリックします。

## Job Editor でルーラー座標を設定する

デフォルトでは、ルーラーの 0,0 座標はシートの左上隅に配置されています。例えば、ジョブの隅などに 0,0 座標を移動することができます。

- ルーラー領域の左上隅から必要な位置までポインターをドラッグします。

ルーラーが交差する領域をダブルクリックすると、0,0 座標をリセットできます。

## Job Editor のガイドに従った操作

ガイドは、サブストレート上の正確な座標にジョブを配置するのに役立つ、印刷されない線です。現在の位置でガイドをロックすることができます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - ガイドの作成：水平または垂直ルーラーからポインタをドラッグします。
  - ガイドの移動：ガイドを新しい位置にドラッグします。

- ガイドの削除：水平のガイド線は上側のルーラーに、垂直のガイド線は左側のルーラーにドラッグします。
- ガイドのロック：次のいずれかを行います。
  - ジョブを選択します。ツールバーで、南京錠アイコンをクリックします。
  - ジョブを右クリックし、ロックされていますをクリックします。

## Job Editor での固定の有効化

表示オプションとして、吸着プロパティを割り当てることができます。これにより、近接するジョブを固定できます。グリッドまたはガイドに固定を適用できます。

- 表示 **固定先** > をクリックし、項目をクリックします。

## Job Editor でのジョブの編集

Job Editor で、ジョブの拡大縮小、クロップ、回転、反転、および調整をサブストレートで行うことができます。プレビューウィンドウのビジュアル支援機能を利用することでジョブを正確に配置できます。

**メモ：** Job Editor で作成した設定は、ジョブのプロパティで作成したものと同名前のデフォルト設定を上書きします。

## Job Editor でのジョブの拡大縮小

割合の変更、新しい寸法の入力、またはドラッグによりジョブを拡大縮小することができます。用紙の幅にジョブを拡大縮小することもできます。

用紙に収まりきらないジョブは赤枠で示されます。サイズの大きいジョブを印刷するには縮小する必要があります。

デフォルトでは、ジョブはオリジナルの縦横比を保持します。

- 1 ツールバーからジョブの変換ツールを選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
  - 自由に拡大縮小：ジョブの隅にポインタを置きます。ポインタが両方向矢印に変わります。ジョブを必要なサイズまでドラッグします。
  - 寸法を入力して拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**に幅と高さを入力します。
  - 割合で拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**から、%ボタンをクリックして、幅または高さのボックスにパーセントを入力します。
  - デフォルト拡大縮小率で拡大縮小：ジョブを右クリックし、**拡大縮小**をクリックしてから項目をクリックします。使用可能な拡大縮小率は、10%、25%、50%、100%、125%、150%、200%です。
  - 用紙幅に拡大縮小：ジョブを右クリックしてから、**幅に合わせる**をクリックします。ジョブは、サブストレートの印刷可能な幅に比例して拡大縮小されます。



## Job Editor のシート上でジョブを位置揃えする

ジョブをシート端に位置合わせしたり、x/y 座標の入力やドラッグによりマージンを追加することでジョブの位置を変更することができます。

デフォルトでは、ジョブはシートの左上隅に配置されており、プリンターのマージンが考慮されています。

- 1 ツールバーからジョブの変換ツールを選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ツールバーの位置からページの左上隅の x/y 座標を入力します。  
デフォルトでは、Job Editor がプリンターの印刷できない左および上マージンの x/y 座標を表示します。x/y 値に「0」と入力することで、Job Editor にプリンターのマージンを無視させることができます。
  - ツールバーの整列から、水平方向および垂直方向の位置揃えの種類をクリックします。
  - ツールバーのマージンで、上、下、左、右マージン幅を入力します（ステップと反復のみ）。  
すべてのマージンをリンクボタンをクリックし、上マージンのみを定義することで、すべての4つの辺に同じマージンを適用することができます。

## Job Editor でのジョブの回転

ジョブを 90 度、180 度または 270 度回転させることができます。

- 1 ツールバーからジョブの変換ツールを選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ツールバーで、時計回りに回転または反時計回りに回転をクリックします。ジョブが選択した方向に 90 度回転します。
  - ポインタが矢印付きの円に変わるまでポインタをページの隅の近く（隅ではなく、あくまでも周辺）にポインタを置いてください。次に、回転する方向にドラッグします。ジョブは、0 度、90 度、180 度、270 度のうち一番近いところに吸着します。

## Job Editor でのジョブの反転

水平または垂直軸に沿ってジョブを反転させることができます。

- 1 ツールバーからジョブの変換ツールを選択します。
- 2 ツールバーで水平に反転または垂直に反転をクリックします。

## Job Editor でのジョブのクロップ

画像周辺の余計な背景要素を除去することにより、画像の焦点を強調することができます。

- 1 ツールバーからジョブのクロップを選択します。

- 2 プレビューでは、クロップするセクションを選択するためにポインタをドラッグします。  
Esc キーを押して選択したクロップ領域をキャンセルできます。
- 3 次のいずれかの方法で、選択したセクションを微調整します（オプション）。
  - クロップボックスの位置変更：ALT キーを押したまま、クロップボックスの中心からポインタをドラッグします。
  - クロップボックスのサイズ変更：クロップボックスの端をドラッグします。
  - ジョブの端とクロップボックスの間のマージン幅の調整：ツールバーで、新しいマージン幅を入力します。
- 4 ENTER を押します。  
ツールバーのクロップリセットボタンをクリックして、クロップ済みのジョブを元の状態に戻すことができます。

## Job Editor でのステップと反復

ステップと反復は、サブストレート上に配置された 1 つのパターンファイルと複数の部数（複製）で構成されており、テキスタイル印刷用のシームレスパターンを繰り返し作成します。

複数ページのジョブではなく、単一ページのジョブからステップと反復を作成することができます。

## ステップと反復の作成

ジョブのコピー（複製）を複数作成し、反転、オフセット/ドロップ、回転の設定を使用してシームレスなパターンを作成できます。

ステップと反復を作成する前に、すべてのジョブ設定を行います。ステップと反復を作成した後に、元のジョブを修正できません。元のジョブを修正する場合、すべてのコピーを最初に削除する必要があります。

- 1 Job Editor のレイアウトタブで、ステップと反復パネルを展開します。パネルのヘッダーバーで、設定をアクティベートするチェックボックスをオンにします。  
設定をアクティベートできない場合は、ジョブの幅が素材の幅より小さいことを確認します。選択した素材の幅と同じかそれよりも広い幅のジョブからステップと反復を作成することはできません。この場合、ジョブを縮小するか、ジョブの幅よりも幅が広い素材を選択します。
- 2 オフセット/ドロップで、水平方向または垂直方向にどれくらいシフトするかを定義します。次のいずれかを行います。
  - ドロップサイズ：画像の幅または高さの分数としてドロップ量を選択します。例えば、1/1 はシフトなし、1/2 は 50%シフト、1/4 は 25%シフトを表します。
  - パーセント (%)：固定ドロップサイズを使用しない場合、イメージの幅または高さの分数として必要なドロップ量を入力します。
  - カスタム：Job Editor に対して選択した測定単位で垂直または水平方向に必要なドロップ量を入力します。

**3** 繰り返しサイズで、水平方向および垂直方向で必要な部数を選択します。

- 垂直方向では、次のことが行えます。
  - 用紙幅を満たします。
  - 反復回数を入力します。
  - カスタム幅を定義します。
- 水平方向では、次のことを行えます。
  - 反復回数を入力します。
  - カスタム高さを定義します。

**4** 保存をクリックします。

## Job Editor でのステップと反復の変更

ステップと反復を変更するには、最初にすべてのコピー（複製）を削除する必要があります。

- 1** Job Editor のレイアウトタブで、ステップと反復パネルを展開します。パネルヘッダーバーで、チェックボックスをオフにして、設定を無効にします。
- 2** 元の画像に必要な変更を行います。
- 3** パネルヘッダーバーで、チェックボックスを再選択して、設定を有効にします。

## Job Editor でサブストレートを選択する

Substrate Catalog から別のサブストレートを選択するか、新しいカスタムサブストレートサイズを定義することにより、プロパティで選択されているデフォルトのサブストレートを上書きできます。

- サブストレートカタログで、次のいずれかを行います。
  - Substrate Catalog からデフォルトサブストレートを選択します。
  - 未定義を選択します。次に、サブストレートサイズで追加 (+) をクリックし、名前と必要なサブストレート幅を入力します。

後処理（加熱、洗浄）後のサブストレートのサイズが、参考として表示されます。ジョブのプロパティの縮小または伸張により、必要なサイズ補正の量を設定できます。

## Job Editor から印刷する

編集したジョブ、ステップと反復またはネスティングジョブを Job Editor から直接印刷できます。

印刷する前に、変更が保存されていることを確認します。

- 1** Job Editor の場合：プリンタータブで、印刷設定パネルを展開します。

2 次のいずれかを行います。

- 部数を選択し、必要な部数を入力します。

**メモ：**ステップと反復ジョブについては、1つのコピーがステップと反復パネルで設定された反復サイズと等しくなります。

- 印刷の長さを選択し、印刷するサブストレートの長さを入力します。
- 複数ページのジョブについては、範囲を選択し、印刷するページ番号の範囲を入力します。各ページ番号をコンマで区切って昇順に入力するか、ハイフンで区切ってページ範囲を入力します。

**メモ：**範囲オプションは、複数ページのジョブにのみ表示されます。

3 次のいずれかを行います。

- ファイル>処理後待機 を選択します。
- ファイル>割り込み処理後待機 を選択します。
- ファイル>準備完了へ送信 を選択します。

ジョブは対応するキューのジョブセンターに表示されます。

4 次のいずれかを行います。

- 処理済みジョブと待機ジョブ：ジョブを選択してから、アクション>準備完了へ送信を選択します。プレスソフトウェアで、印刷するジョブを取得します。
- 準備完了ジョブ：プレスソフトウェアで、印刷するジョブを取得します。

複数のジョブを印刷する準備ができていない場合、割り込みジョブはプレスソフトウェアの印刷キューのおもてに直接移動します。

## ジョブからラスターデータを除去する

ラスターデータの除去が必要なアクションを選択した場合（たとえば再処理が必要なジョブプロパティを変更した場合など）、ラスターデータはジョブから自動的に除去されます。

ラスターデータが生成され、処理済みジョブまたは処理済み/待機ジョブにリンクされます。

処理済みのジョブを選択し処理後待機を選択した場合は、ジョブがスプール済みジョブとして開かれるように、ラスターデータが自動的に除去されます。ディスク容量を節約する必要がない場合は、ラスターデータ除去を選択する必要はありません。



このアイコンは、ラスターデータが関連付けられた処理済みジョブを示しています。



このアイコンは、ラスターデータなしのスプール済みジョブを示しています。

ラスターデータを手動で削除する必要がある場合は、次の手順に従います。

1 待機リストから処理済みジョブまたは待機ジョブを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- 右クリックしてラスターデータ除去を選択します。
- アクション>ラスターデータ除去をクリックします。

## ラスター曲線エディター

ラスター曲線エディター機能を使用すると、ジョブ内のカラー曲線を、Fiery ImageViewer を開かなくても編集できます。

ラスター曲線エディターを使用すると、ジョブ内のすべてのカラーの組み合わせと各色分解の応答曲線をカスタマイズすることができます。ラスター曲線エディターはジョブのプロパティ機能であり、Fiery ImageViewer がない場合に使用できます。

ラスター曲線エディターは、A10 プラットフォームの Fiery servers ではサポートされていません。

ジョブのプロパティウィンドウで、**カラータブ**を開き、**カラー設定**でラスター曲線エディターをクリックします。

曲線の編集をクリックすると、**曲線表の編集**ウィンドウから曲線をインポートできます。インポートする曲線の種類については、[Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する](#) (221 ページ) を参照してください。

ラスター曲線エディターウィンドウでは、新規のプリセットを作成したり、既存のプリセットを編集または削除できます。

プリセットを作成するには、[カラー編集をプリセットとして保存する](#) (220 ページ) を参照してください。

**メモ:** プレビューオプションは、ラスター曲線エディターウィンドウでは使用できません。

## 最後に印刷されたページの特定

ジョブがキャンセルまたは正常に印刷されなかった場合は、最後に印刷されたシートを特定できるので、ジョブの印刷を簡単に再開できます。

- 1 CWS で列見出しを右クリックします。
- 2 **新規追加...** > **その他** > **印刷済みページ数**を選択します。  
この情報はジョブログにも表示されます。

# ジョブを管理する

## ジョブを検索する

接続している Fiery server で、ジョブのタイトルやユーザー、日付などの検索パラメーターを使用してジョブを検索することができます。

検索機能を使用すると、現在選択している Fiery server 上でジョブをすばやく見つけることができます。この機能はジョブセンターツールバーにあり、表示中のジョブに適用されます。待機、印刷済み、アーカイブ済み、処理中またはすべてのジョブのキューにあるジョブを検索できます。

以下のいずれかの方法でジョブを検索できます。

- **簡易なジョブ検索** - 表示中のすべての列を対象にコンテンツの基本的な検索を実行するには、**検索フィールド**を使用します。スクロールバーの位置によって画面には表示されていない列も対象となります。たとえば、「レター」と入力すると、タイトルに「レター」という文字が含まれるジョブを検索できます。また、出力用紙サイズ列の用紙名に「レター」という文字が含まれるジョブも検索できます。
- **高度なジョブ検索** - 複数の条件 (列) を同時に検索するには、列見出しの上にあるフィルターの横にある矢印をクリックし、検索条件を指定します。

## 簡易なジョブ検索

任意の表示で**検索フィールド**を使用してジョブを検索します。表示を切り替えると、前回の検索条件はクリアされます。

- 1 ジョブセンターのツールバーアイコンの上にある**検索フィールド**に検索条件を入力します。
- 2 Enter キーを押すか、虫メガネのアイコン (検索アイコン) をクリックして、指定した検索条件に該当するジョブを検索します。

入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

指定した値の検索は、現在のビューにあるすべてのカラムを対象に実行されます。スクロールしないと見えない位置にあるカラムも含まれます。

- 3 検索を実行した後で、**クリア**をクリックして現在の検索条件をクリアしたり、別の表示に切り替えたりできます。こうすると、別の条件で検索することができます。

## 高度なジョブ検索

高度な検索機能を使用すると、現在のビューで複数の基準（列）による検索を同時に行うことができます。


- 1 左側のサーバーの一覧でビューを選択します。  
選択した Fiery server のすべてのキューのすべてのジョブを表示するには、すべてのジョブビューを選択します。
- 2 列見出しの上にあるフィルターの横の矢印をクリックします（ジョブ状況など）。
- 3 検索条件を選択し、適用をクリックします。  
1つの列で複数の選択を行うことができます。  
範囲は一部の列で選択できます。  
選択した Fiery server のすべてのキューのすべてのジョブのビューを復帰するには、すべてのジョブビューを選択します。
- 4 日付情報を表示する列では、次のいずれかを選択できます。
  - 今日 - 現在の日付のジョブを検索します。
  - 正確な日付 - 特定の日付のジョブを検索します。  
特定の日付の前または後に印刷するジョブを検索する前または後を選択します。
  - 開始日、終了日 - 連続する日付範囲内のジョブを検索します。
- 5 複数の列で検索するには、その他のフィルターの横にある矢印をクリックし、追加する列を選択します。
- 6 検索を実行した後で、消去をクリックして現在の検索条件を消去したり、別の表示に切り替えたりできます。これにより、別の条件で検索することができます。

## 高度な検索を保存する

- 1 左側のサーバーの一覧ですべてのジョブビューを選択します。
- 2 ジョブを検索します。
- 3 検索結果の上にある保存をクリックします。
- 4 検索する名前を入力し、OK をクリックします。  
詳細検索は、キューリストの下の左側に表示されます。

## ジョブサムネイルの表示

サムネイルビューには、各処理済みジョブの最初のページのプレビューが表示されるので、ジョブの視覚的な識別に役立ちます。

- ジョブセンターツールバーの右上隅にあるアイコンをクリックします。
- ジョブを並べ替えるには、背景の空白領域（つまりジョブ以外）を右クリックし、並べ替えの条件や順序（昇順または降順）を選択します。
- 複数ジョブの選択やコピーと貼り付けを行うには、一般的なキーボードショートカットを使用できます。
- 追加のジョブ情報を表示するには、ジョブのサムネイルアイコンの上にマウスを移動します。

## ジョブにジョブタグを割り当てる

ジョブに1つ以上のタグを追加することができます。これは、ジョブのソートや整理に役立ちます。タグを作成し、タグの名前とカラーを選択した後、ジョブに割り当てることができます。タグは特定の Fiery server のジョブと共に保存されます。ジョブにタグを割り当てた後、タグのカラーアイコンがジョブ状況列に表示されます。

ジョブごとに最大5つのタグを適用できます。Fiery server あたりの上限は50タグです。

- 1 ジョブにタグを割り当てるには、ジョブを選択し、次のいずれかを実行します。
  - a) アクション > タグ。
  - b) ジョブを右クリックし、タグを選択します。一度に複数のジョブを選択することもできます。
- 2 既存のタグを選択するか、新しく追加をクリックします。
- 3 すでにタグが割り当てられているジョブに別のタグまたは追加のタグを割り当てるには、最初にタグを割り当てたときと同じ方法を使用できます。または、ジョブ概要ペインで、タグセクションの横にある鉛筆アイコンをクリックします。
- 4 同じタグのあるすべてのジョブを表示するには、サーバーペインのキューリストにあるタグ名をクリックします。

作成された最初の10個のタグがそれぞれ Fiery server の下にタグ名、タグカラー、タグを使用するジョブ数で一覧表示されます。タグの順序を変更するには、タグの管理を選択します。

## ジョブタグの管理

- 1 サーバーペインのタグヘッダーの横にある右矢印をクリックします。



## 2 タグの管理を選択します。

リスト内のタグを上下に移動したり、お気に入りのタグやよく使用するタグを一番上にしたりすることができます。

デフォルトでは、**プライオリティ**という名前のタグが提供されています。このタグを使用するか、独自のタグを作成することができます。すでに他の1つ以上のタグを作成していない限り、**プライオリティ**タグは削除できません。

## 完了ビューの使用

完了ビューは、ジョブの場所に関わらず、Fiery server 内の印刷済みのすべてのジョブを一覧表示します。

たとえば、印刷後待機に送信されるジョブは、待機キューと完了ビューに表示されます。待機キューからジョブが削除されると、完了ビューからも削除されます。その逆も同様です。

印刷中にキャンセルされたジョブまたはエラーが発生したジョブは、完了ビューには表示されません。

このビューはデフォルトで追加されますが、完了ビューを選択して、ツールバーの上にある**非表示**ボタンをクリックすると、非表示にできます。完了ビューが非表示にされた後で、**サーバー > 完了ビューを表示**を選択して再度有効にすることができます。

## 現在のビューをエクスポート

Command WorkStation の任意のビューで、現在のジョブリストをテキストファイルとしてエクスポートできます。このテキストファイルには、通常のキュー（印刷済み、待機など）からそのビューに追加されたコンテンツなどの画面に表示されるすべての情報や、フィルターによって作成したカスタムビューが含まれます。

列の追加、列の削除、ジョブのフィルタリングを行うことで、ビューを作成します。

- 1 ファイル > 現在のビューをエクスポートを選択します。
- 2 テキストファイルの形式を選択します。

## 別のキューにジョブを移動する

待機およびアーカイブ済みキューにあるジョブを処理中キューに移動（ドラッグ）できます。

- 待機またはアーカイブ済みキューから任意のジョブを選択します。メニューから**アクション**をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

**メモ：**接続しているプレスで使用可能なジョブアクションが表示されます。

- **待機** - ジョブを待機キューに送信します。
- **処理後待機** - ジョブを処理しますが、印刷はしません。
- **アーカイブ** - ジョブをアーカイブし、アーカイブ済みキューに送信します。

キュー内のジョブを選択し、別のキューにドラッグすることもできます。

## ジョブを別の Fiery server に送信する

コピー先コマンドと移動先コマンドを使って、ジョブを接続された別の Fiery server に送信できます。

同じ Fiery server モデルとバージョンの Fiery サーバーにジョブを送信した場合は、ラスターデータが送信されます（使用可能な場合）。ジョブを別の Fiery server モデルに送信した場合、ソースファイルのみが送信され、ラスターデータは送信されません。そのため、印刷前に対象の Fiery server 上でジョブを再処理する必要があります。Fiery servers の動作はそれぞれ異なる場合があるので、ジョブを送信する場合は、ジョブのプロパティをすべて確認し、必要に応じて再指定してください。

1 次のいずれかを行います。

- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、サーバーの一覧に表示されている別の Fiery server にドラッグアンドドロップします。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、アクション > コピー先をクリックするか、ジョブを右クリックしてコピー先を選択します。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、アクション > 移動先をクリックするか、ジョブを右クリックして移動先を選択します（FS350 以降）。

2 Fiery server を選択します。

ジョブが選択したサーバーに送信されます。

## ジョブをアーカイブする

ジョブをアーカイブすると、ジョブの他に、後で使用できるようにジョブの設定も併せて保存されます。これにより、ジョブを再度インポートして設定しなくても、すぐにジョブを再印刷できます。ジョブを再処理しなくても再度印刷できるように、ラスターイメージを保存することができます。アーカイブジョブは、ネットワークフォルダーやローカルフォルダーなど、使用しているコンピューターからアクセスできる任意のフォルダーに保存できます。また、他のファイルと一緒にバックアップすることができます。

### アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

アーカイブマネージャーでは、アーカイブ済みジョブを Fiery server から、ユーザーが選択したフォルダーに移動します。これにより、Fiery server がアップグレードまたは再ロードされても、ジョブが確実に保護されます。

- すべての Fiery server ジョブに使用できるシンプルかつ安全なアーカイブソリューション
- Fiery server の外部にあるジョブをアーカイブ
- 複数の Fiery server でアーカイブジョブを容易に共有
- 複数の Command WorkStation ユーザーでアーカイブを共有
- Fiery server がオフラインでもアーカイブ済みジョブをすばやく検索
- すべてのアーカイブ済みジョブを1つのビューで一覧表示

アーカイブマネージャーでジョブをアーカイブしたら、アーカイブ済みキューは Fiery server の名前の下で一覧表示されなくなります。代わりに、アーカイブ済みジョブはすべて、このアーカイブマネージャーウィンドウで使用できるようになります。

## アーカイブマネージャーでの初回セットアップ

- 1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。
- 2 開始をクリックします。
- 3 参照をクリックして、アーカイブマネージャーがアーカイブ済みジョブを保存する場所を選択し、フォルダー選択をクリックします。
- 4 その場所のわかりやすい名前を表示名フィールドに入力します。
- 5 OK をクリックします。
- 6 移行をクリックします。
- 7 アーカイブジョブを移行ウィンドウで、ソースの場所が有効であることを確認します。

詳細は、[移行中にアクセスできないフォルダー](#) (77 ページ) を参照してください。

ウィンドウの上半分に表示される場所は、ソースの場所と、アーカイブ済みジョブが現在保存されているフォルダーです。ウィンドウの下半分で場所を 1 つだけ選択すると、それがアーカイブマネージャーでのジョブの移動先になります。ジョブを新しい場所に移動することで、ジョブをアーカイブマネージャーで管理したり、保管のために他のファイルやフォルダーと一緒にバックアップしたり、Fiery server が再ロードやアップグレードされても保護することができます。

- 8 移行をクリックします。  
(操作がスキップまたはキャンセルされたために) 移行するジョブが Fiery server に残っている場合は、Command WorkStation にまだアーカイブキューが表示されます。移行処理を再開するには、アーカイブ済みキューの青い移行ボタンをクリックします。

## アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

ジョブの移行は一度だけです。ジョブをアーカイブフォルダーに移動したら、それと同じ場所または別の場所に後続のジョブをアーカイブすることができます。

- 1 次のいずれかを行います。
  - 待機キューまたは印刷済みキューでジョブを選択し、アーカイブマネージャーにドラッグします。
  - ジョブセンターでジョブを選択し、アクション > アーカイブをクリックします。
  - ジョブセンターでジョブを右クリックし、アーカイブをクリックします。
- 2 アーカイブ先を選択します。  
サムネイルとプレビューを保存することもできます (存在する場合)。  
**メモ:** そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。
- 3 別の場所を指定するには、場所を編集をクリックし、場所の管理ウィンドウで追加をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択してフォルダー選択をクリックします。

## アーカイブ済みジョブの概要

アーカイブ済みジョブには、Fiery server で受信した元のソースファイルのほか、ジョブに設定されたジョブプロパティ（ジョブチケット）も含まれています。

ジョブチケットでは、カラープロファイル、Paper Catalog（または Substrate Catalog）のエントリ、キャリブレーション設定などのサーバーベースリソースを参照していることがあります。これらのサーバーリソースはアーカイブ済みファイルと一緒に保存されてはいませんが、ジョブチケットでそれらを参照します。使用できなくなったリソースをジョブチケットで参照している場合、ジョブではそのリソースのデフォルト設定が使用されます。

アーカイブにはサーバー固有の情報や設定が含まれており、それらは、ジョブの作成時に使用したのと同じサーバーにジョブを復元する場合にのみ、すべて適用されます。別のサーバーにアーカイブジョブを復元またはインポートすることができます。サーバーのモデルが異なる場合、両方のサーバーに共通するジョブチケット設定が保持され、それ以外の設定はサーバーのデフォルト設定で置き換えられます。


ジョブをアーカイブする際は、処理済みジョブのサムネイルやプレビューを保存できます。その場合、ジョブのラスターイメージも保存されるので、ジョブを後で処理する必要がなくなります。サムネイルやプレビューを保存すると、アーカイブ済みファイルのサイズが大きくなります。

## 移行中にアクセスできないフォルダー

場所が使用できない場合、ジョブはアーカイブマネージャーで移行できません。

- 使用しているコンピューターまたはネットワークで、そのフォルダーが使用可能であることを確認します。フォルダーが名前変更、移動、または削除されたために場所が使用できない場合があります。
- 読み取り/書き込みアクセスができることを確認します。アーカイブマネージャーでは、使用しているコンピューターのオペレーティングシステムを利用して、認証を処理します。Windows エクスプローラーまたは macOS Finder でフォルダーを開いてみます。
- 他のコンピューター上の場所が C:\users\admin\desktop などのよく知られたパスとして一覧表示されることがありますが、それは別のユーザーのコンピューターのパスである可能性があります。これらのジョブにアクセスするには、その他のコンピューターで Command WorkStation を使用します。

## アーカイブ先を管理する

- 1 Command WorkStation の左上隅で、ジョブペインのアーカイブマネージャーの上にある設定アイコン  をクリックします。

2 実行するアクションのアイコンをクリックします。

追加	既存のアーカイブ済みジョブのフォルダーをアーカイブマネージャーに追加するか、今後のアーカイブジョブを保存します。
除去	場所を除去します。
編集	場所ではなくフォルダーの表示名のみ変更できます。フォルダーが移動された場合は、新しいフォルダーとして再度追加します。
デフォルトとして設定	その場所を、ジョブがアーカイブされるデフォルトの場所に設定します。

## アーカイブを共有する

アーカイブマネージャーのフォルダーはネットワーク、クラウドレプリケーションサービス、使用しているローカルコンピューターのいずれに存在していてもかまいません。その他のあらゆるファイルやフォルダーに使用方法と同じように、アーカイブフォルダーをバックアップします。

ネットワークを介してアーカイブを共有する場合は、すべてのユーザーがアクセスできるネットワークフォルダーを使用します。まず、使用しているコンピューターでこのフォルダーを開いて、フォルダーが使用可能であることを確認します。Command WorkStation を使用するコンピューター-ごとに、このネットワークフォルダーをアーカイブマネージャーのアーカイブ先として追加します。ネットワーク管理者にアーカイブマネージャーのネットワークフォルダーをバックアップしてもらいます。

アーカイブジョブは、複数の Fiery server で共有できます。たとえば、Fiery server#1 でアーカイブしたジョブを Fiery server#2 で使用することができます。両方のサーバーがモデルもバージョンも同じである場合は、ジョブのすべてのプロパティが保持されます。アーカイブ先の Fiery server のモデルやバージョンが異なる場合は、ラスター画像は破棄され（存在する場合）、印刷前にジョブを再度処理する必要があります。アーカイブ先の Fiery server で使用できないジョブプロパティはすべて使用できなくなります。印刷前にジョブのプロパティを確認してください。

## アーカイブ済みジョブの検索

タイトル、ユーザー名、用紙サイズなど、列に表示されるあらゆる情報で、すべてのアーカイブ済みジョブを検索できます。

1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。

2 検索ボックスに検索条件を入力します。

最初の 50 件のジョブがアーカイブマネージャーに表示されます。さらにジョブを表示するには、>ボタンおよび>>ボタンをクリックします。

ジョブの属性をさらに表示するには、列見出しを右クリックし、列を追加します。

## アーカイブ済みジョブを使用する

ジョブをアーカイブしたら、まだ Fiery server 上に存在するかのように使用できます。

1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。

- 2 ウィンドウの左上隅のすべての場所メニューで、すべての場所または特定の場所を選択します。  
最大 50 件のジョブが表示されます。さらにジョブを表示するには、ジョブ一覧の右上隅にある矢印を使用します。
- 3 ジョブを右クリックし、アーカイブ済みジョブに対して実行するアクションを選択します。  
複数の Fiery server に接続している場合は、ジョブの送信先となる Fiery server を選択することもできます。ジョブのプロパティをすべてを保持するには、ジョブをアーカイブしたときに使用したのと同じ Fiery server をソースサーバー列の一覧から選択します。

## アーカイブマネージャーを無効にする

- 次のいずれかを行います。
  - a) 編集 > 環境設定 > アーカイブマネージャーを選択し、アーカイブマネージャーを使用の選択を解除します。
  - b) 紹介画面で、けっこうですをクリックします。

移行後にアーカイブマネージャーを無効にした場合、移行済みのジョブはアーカイブマネージャーで使用された場所またはフォルダーに残ります。これらのアーカイブ済みジョブを使用するには、ファイル > アーカイブ済みジョブのインポート選択し、フォルダーの場所を参照します。

## アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする

ジョブは、Fiery server のハードディスク内、または外部のリムーバブルメディアやネットワークドライブにアーカイブできます。

アーカイブされたジョブは、ジョブセンターのアーカイブ済みキューに表示されます。

- 1 次のいずれかを行います。
  - 待機キューまたは印刷済みキューでジョブを選択し、アーカイブ済みキューにドラッグします。  
**メモ：**ジョブをコンピューターからアーカイブ済みキューにドラッグすることはできません。Fiery server 上にすでにあるジョブに限り、アーカイブ済みキューにドラッグできます。
  - ジョブセンターでジョブを選択し、アクション > アーカイブをクリックします。
  - ジョブセンターでジョブを右クリックし、アーカイブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ディレクトリリストでデフォルト設定を選択します。
  - サムネイルとプレビューを保存することもできます（存在する場合）。  
**メモ：**そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。
  - アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示するように指定できます。
  - 別の場所を指定するには、追加をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択してフォルダー選択をクリックします。

- 3 OK をクリックして、ジョブをアーカイブします。
- 4 いつでもサーバーメニューからアーカイブ設定にアクセスしたり、サーバーリスト内のサーバー名の横にある詳細アイコンをクリックしたりできます。  
アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示チェックボックスが解除されている場合であっても、アーカイブ設定を編集できます。

## サーバーの初期化

サーバーの初期化を使用すると、Fiery server でさまざまな種類のジョブ、ログ、およびバリアブルデータ印刷リソースを消去して、空き容量を確保できます。サーバーの初期化は、Command WorkStation のサーバーメニューから使用できます。

**メモ：**この操作は取り消すことができません。

## ドラッグアンドドロップによるファイル管理

ドラッグアンドドロップ機能でファイルを移動します。

異なる複数の領域にファイルをドラッグアンドドロップできます。この機能を利用すると、ファイルをコンピューターから Command WorkStation に移動できます。これはファイルの管理やジョブのワークフローで簡単に使用できる機能です。

コンピューターから Command WorkStation へのドラッグアンドドロップがサポートされている領域は次のとおりです。

- 待機キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- 処理中キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- サーバーリスト内の、接続している Fiery servers の待機キュー
- ジョブセンター上部の処理中ペイン

次の領域では Command WorkStation 内でのドラッグアンドドロップがサポートされます。

- 待機キュー
- 処理中キュー
- アーカイブマネージャー
- アーカイブ済みキュー
- サーバーリスト内のサーバーの間で送信先コマンドを使用している場合（アクション > 送信先）

**メモ：**両方の Fiery servers にログオンしている必要があります。

- ジョブセンター上部の処理中ペイン

## インク使用量の推定

Command WorkStation では、ジョブに使用されるインクのコストのほか、インクの量や適用範囲を見積ることができます。見積りは、関連付けられたラスタデータを持つ処理済みのジョブに対してのみ提供されます。

### コストやジョブに関連する列を設定する

- 1 システム管理者としてログインします。
- 2 サーバーメニューからインク見積り設定を選択します。  
ウィンドウには、接続されているプリンターに現在インストールまたは設定されているインクだけではなく、Fiery server でサポートされているすべてのインクが表示されます。
- 3 通貨記号を選択します。
- 4 名前の横にある編集アイコン（鉛筆）をクリックし、コストを入力します。  
コストの見積りを受けるには、値を入力する必要があります。最新のコストについては、ベンダーまでお問い合わせください。特殊インクの見積りを受け取るには、個別に支払うインクのコストのみを入力します。メンテナンス契約によるものなど、すでに含まれているインクにはゼロを入力できます。
- 5 OK をクリックします。
- 6 関連する列をジョブセンターに追加するには、ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックし、該当する列（推定コスト、推定量、推定範囲）を選択します。  
推定範囲は、入力した書類サイズに基づいて決定されます。

### コストを見積もる

この機能は、Fiery server によってはサポートされていない場合があります。

- 1 ジョブ一覧の処理済みジョブを選択します。  
ジョブが処理されていない場合は、ジョブを右クリックし 処理後待機 を選択します。  
正確な見積りを得るには、ジョブの印刷時に使用するジョブプロパティ設定と同じ設定を使用する必要があります。
- 2 ジョブを右クリックしインク見積もりを選択するか、そのジョブを選択してから、アクション > インク見積もりを選択します。  
ジョブの見積りが行われている間、待機リストのジョブタイトルの横に見積りの進行状況が表示されます。
- 3 進行中の見積りをキャンセルするには、ジョブを右クリックしてコスト見積りのキャンセルを選択するか、進行状況バーの「X」をクリックします。
- 4 完了した見積りを表示するには、次のいずれかを行います。
  - ジョブ一覧の推定インク列を表示します。
  - ジョブ概要ペインの下部にある詳細リンクをクリックします。
  - ジョブを右クリックしてインク見積りの詳細を選択します。



- アクション コスト見積もりの詳細 > を選択します。
  - 完了した印刷済みジョブの場合は、ジョブログに列を追加します。
- 5 ジョブリスト内のすべてのジョブに対して完了した見積りを表示するには、ファイル > 現在のビューをエクスポートを選択してから、ファイルをコンピューターに保存します。

### 見積り後に部数を変更する

コスト見積りが完了した後でジョブの部数を変更すると、推定コストは自動的に更新されます。

### 見積り後にコストまたはジョブのプロパティを変更する

見積り後にコストを変更した場合は、ジョブの再処理と再見積りが必要です。見積り後に、ジョブの再処理が必要になるような変更をジョブのプロパティ（部数を除く）に加えた場合、現在の見積りは消去されるので、新しい見積りを要求する必要があります。

# Fiery JDF ジョブ

## Fiery JDF と JMF について

Fiery JDF では、さまざまな JDF インテント要素や JDF プロセス要素をサポートしています。Command WorkStation を使用して JDF の設定を表示したり、ジョブ処理中に用紙ミスマッチなどのエラーを解消することができます。

JDF（ジョブ定義形式）は、アプリケーション間におけるデータの受け渡しにより印刷プロダクションプロセスを自動化できるオープンスタンダードの XML ベースファイル形式です。JDF によりデータ交換が簡単になり、デジタルプロダクションが迅速化および効率化されると同時に、ジョブ詳細情報の受け渡しもすばやく行われるようになります。電子 JDF チケットは、ジョブがカスタマーの構想から完成までどのように扱われ、生産されるのかを指定します。

JDF ファイルを、個々のジョブのカスタマー仕様書を電子化したものと考えてください。たとえば、「10 ページの書類を 20#レターサイズの白色紙に白黒で 100 部両面印刷する」仕様のジョブをカスタマーが要求した場合のジョブチケットは、JDF 対応の機器で読み取り可能な標準化 XML 形式、つまり JDF チケットで表されます。

JMF（ジョブメッセージングフォーマット）は、JDF ワークフローで使用される通信プロトコルです。JMF メッセージには、イベント（開始、停止、エラー）、状況（使用可能、オフラインなど）、結果（数、消耗など）についての情報が含まれています。Fiery JDF は、JMF を使用して、JDF 送信アプリケーションと Fiery server 間における JDF インテントや JDF プロセスのジョブチケットの統合した双方向通信を可能にします。

JMF をサポートすることにより、Fiery server は JDF ジョブの状況とプロダクションデータ（配信または印刷の時刻やジョブの印刷に使用された用紙など）を JDF 送信アプリケーションにフィードバックとして送信することができます。

## Fiery JDF の設定

Fiery JDF を Configure でオンにして（ジョブ送信 > JDF 設定）、JDF ジョブを Fiery server に送信できるようにする必要があります。Fiery server を設定するときに、JDF パラメータを指定できます。

- **仮想プリンターからのジョブ設定を使用** - 必要に応じて仮想プリンターを選択します。
- **ジョブアクション** - 待機、処理後待機、準備完了へ送信、印刷キューへ送信のいずれかを選択します。
- **JDF ジョブを上記の設定で上書きする** - JDF ジョブチケットで指定された設定を上書きします。
- **ジョブ終了** - 印刷後、自動終了または手動終了を指定して JDF ジョブを終了し、送信元に返します。
- **終了に必要な項目** - 終了に必要な情報を指定します。
- **共通グローバルパス** - 共通リソースに対する SMB 経由のファイル検索パスを追加、編集、または除去します。

Configure で JDF の設定を指定する方法の詳細については、『Configure のヘルプ』を参照してください。

## JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する

Fiery JDF には、JDF 送信アプリケーションをチェックして認証する有効化メカニズムが含まれています。Fiery JDF で特定の JDF 送信アプリケーションを使用可能にするには、Fiery server で設定するか、または JDF 送信アプリケーションから送られた JMF（ジョブメッセージフォーマット）メッセージによって設定します。

JDF 送信アプリケーションが使用可能に設定されていない場合は、以下の表示が出て、アプリケーションからのジョブがテストおよびサポートされていないことをユーザーに警告します。

- 警告状況メッセージが Command WorkStation ジョブリスト内のジョブに表示されます。
- JDF 詳細ウィンドウに警告メッセージが表示されます。
- どのようにアプリケーションを認証するかの情報の JMF コメントが、JDF 送信アプリケーションに戻されます。

## Fiery JDF ワークフロー

Fiery server は、ジョブが処理されると、JMF（JDF のジョブメッセージフォーマット）を使用して、状況や監査情報を JDF ジョブ送信アプリケーションに返します。

JDF ジョブを Fiery server に送信すると、ジョブにエラーや競合がないかがチェックされます。エラーや競合がない場合、オペレーターは Command WorkStation のアクションメニューから追加の印刷アクションを選択できます。またはジョブを直接印刷することもできます。

エラーが生じた場合、ジョブのジョブ状況列にエラーが表示されます。

ジョブエラーウィンドウで、JDF チケットの競合を解消するか無視するかを選択できます。競合を無視した場合、ジョブは JDF 情報なしで印刷されることがあります。

Fiery server を自動終了に設定していた場合、JDF ジョブの印刷後に、ジョブの終了を知らせるメッセージが送信アプリケーションに自動的に返されます。手動終了の場合、オペレーターはジョブの印刷終了後、Command WorkStation ウィンドウからジョブを閉じる必要があります。

## JDF ジョブを送信する

Hot Folder フィルターを介して、または従来の JDF 送信アプリケーションで Fiery server の JMF URL を使用して、JDF チケットを送信できます。

- 1 JDF 送信アプリケーションから Fiery server にジョブを送信します。
- 2 ジョブは JMF（ジョブメッセージフォーマット）を介して送信されます。送信アプリケーションは、Fiery server の JMF URL にジョブを送信します。
- 3 Fiery server の JMF URL を次の形式で入力します。  
`http://<host>:<port>`（たとえば、`http://192.168.1.159:8010`）

## Command WorkStation の JDF 列見出しを表示する

JDF ジョブが Fiery server に受信され、Command WorkStation の待機または印刷済みキューに表示されると、列見出しの JDF セットを選択して、JDF ジョブに関する有益な情報を表示できます。

- JDF ジョブ用の列見出しを表示するには、列見出しバーを右クリックして、JDF セットを選択します。

デフォルトの JDF 見出しセットが追加されます。列見出しバーを右クリックし、**新規追加 > JDF** をクリックして追加の JDF カテゴリを表示します。

## Fiery JDF ジョブと仮想プリンター

仮想プリンターは、Fiery server 上で定義でき、JDF チケット内で **NamedFeature** として参照できます。

Fiery JDF の設定で、ジョブの送信先として仮想プリンターを選択することができます。Fiery server (**Configure** の JDF セクション) でそのように設定した場合、このジョブは仮想プリンターでのジョブ設定を使用します。JDF チケットの任意の設定は、仮想プリンターの「ロックされていない」設定を上書きします。

仮想プリンターの詳細については、[仮想プリンター](#) (170 ページ) を参照してください。

## ジョブの JDF 設定を指定する

待機キューまたは印刷済みキューから JDF ジョブを選択するときに、JDF 設定ウィンドウで JDF ジョブのオプションを設定できます。

- JDF 設定ウィンドウを開くには、右クリックして JDF 設定を選択するか、**アクション > JDF 設定** をクリックします。

JDF 設定ウィンドウでは、以下のタブが表示されます。

- **用紙** - 対応する **Substrate Catalog** エントリの隣に JDF ジョブの用紙属性が表示されます。JDF ジョブの用紙は、このタブの **Substrate Catalog** エントリに手動でマッピングできます。詳細は、[JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する](#) (84 ページ) を参照してください。
- **ジョブ情報** - JDF チケットの情報が表示されます。追加の **MIS** 詳細を入力したり、コメントを追加したりすることができます。
- **ランリスト** - JDF ジョブのコンテンツ生成に使用したカスタマー支給のファイルを表示します。ウィンドウのファイルを追加、編集、並べ替えることができます。
- **ジョブの終了** - オペレーターが手動でジョブを終了することができます。

以下のアクションはすべてのタブで使用できます。

- **ジョブの終了** - **Configure** で設定したパラメーターに従って、ジョブを閉じます。
- **用紙チケットの表示** - JDF 送信アプリケーションがオリジナルのジョブチケットの可視コピーを含んでいれば、このオプションは使用できるようになります。
- **OK** - この設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- **キャンセル** - 設定の変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

## ジョブ情報タブ

ジョブ情報タブは、送信されるジョブの JDF 情報を表示します。

ジョブ名、ジョブ ID、用紙フィールドは自動的に入力されます。

以下の領域は自動的に入力されますが、読み取り専用で編集はできません。

- ジョブヘッダー
- スケジュール
- カスタマー情報

## MIS 詳細

MIS 詳細領域で、メニューから以下の各カテゴリの設定を選択できます。

- 課金可 - 課金するジョブを指定します。
- 作業タイプ - ジョブを変更すべきか、また変更の方法を指定します。
- 作業タイプ詳細 - 変更の理由を指定します。作業タイプ詳細の値の中には、作業タイプが特定の値の場合にのみ有効となるものがあります。たとえば、作業タイプが原本の場合、作業タイプ詳細は無視されます。
- 動作モード - 動作モードのタイプを指定します。

## コメント

コメント領域には、読み取り専用の JDF コメントが入力されていますが、追加ボタンをクリックし、ブランクフィールドにコメントを入力することにより、コメントを追加できます。

コメントは、ジョブのプロパティウィンドウのジョブ情報タブのジョブ注釈メモ領域に表示されます。

## ランリストタブ

ランリストタブには、JDF ジョブ入力用のコンテンツページ（アートワーク）作成に使用する PDL ファイルの場所が表示されます。ファイルパスは、ジョブの印刷に受信した順番に表示されます。各パスは、1つのジョブに対して1つのファイルタイプをサポートします。さまざまな種類のプロトコルをサポートしています。

- サポートされているプロトコル：HTTP、FTP、SMB、MIME、ローカルファイル
- サポートされているファイルタイプ：PDF、PostScript、PPML、VDP、ZIP

**メモ：**同一のジョブで複数のファイルタイプをサポートすることはできません。最初の項目が PDF ファイルに関連付けられている場合、そのジョブで使用するファイルはすべて PDF にしてください。

パスの追加、パス名の編集、パスの削除を行うことができます。

**メモ：**ランリストのジョブに必要な認証済みパスを除去することはできません。少なくとも1件の有効な項目がジョブに必要です。

JDF ジョブにファイル名が付いていても、Configure で定義したパスでファイルが見つからない場合、アラートアイコンが表示されます。この場合は、編集を選択して、正しいパスを挿入します。

## ジョブの終了タブ

Configure で手動終了をオンにした場合、オペレーターはキャンセルされたジョブについてもジョブを終了して送信側のアプリケーションがジョブのプロダクション情報を受信できるようにする必要があります。

他のユーザーはジョブを終了することで、ジョブの実際の完了状況を記録し送信元に返すことができます。Print MIS Solution ユーザーは、実行中にプロダクション状況を受信します。また、Fiery server でのジョブの終了時に原価計算の監査詳細情報を受信します。

必要な情報がすべて提供されていれば、Fiery JDF ワークフローの実行途中でいつでもジョブを手動で終了することができます。

Fiery JDF 設定では、ジョブの終了方法（自動または手動）と、ジョブを終了するのに必要な情報（もしあれば）を指定できます。

ジョブの終了タブには、以下のフィールドが表示されます。これらのフィールドは自動的に設定されます。

- Substrate Catalog - JDF チケットで指定された用紙のリスト。使用する用紙が異なる場合は、このエントリを変更できます。
- 従業員 ID - Command WorkStation にログインしたときのログイン情報に基づく。
- 用紙製品 ID - Substrate Catalog の製品 ID。
- 印刷予定シート - JDF チケットに基づく。
- 実際のシート数 - Fiery server のジョブログに基づく。

用紙製品 ID、印刷予定シート以外のフィールドは、必要に応じて上書きできます。

## Substrate Catalog に JDF ジョブの用紙を追加する

Fiery server は、JDF チケットが送信されてくると、JDF ジョブに指定されている用紙を Fiery server 上の Substrate Catalog にある対応するエントリに自動的にマッピングしようとします。

自動用紙マッピングが失敗した場合は、JDF チケットの JDF ジョブ用紙が表示され、このジョブに対する Substrate Catalog の用紙エントリを手動で選択できます。

- 1 JDF ジョブで使用する用紙を追加する場合は、ジョブのプロパティウィンドウの用紙タブで、JDF チケットの用紙を選択し、Substrate Catalog に追加します。
- 2 サブストレートカタログへマッピングメニューからサブストレートカタログへ追加/マッピングを選択します。

Substrate Catalog に新しい用紙を追加する方法の詳細については、[Substrate Catalog エントリーを作成する](#)（182 ページ）を参照してください。

## JDF ジョブの用紙の競合を解決する

JDF チケットが Substrate Catalog へ自動的にマッピングできない用紙を使用している場合、Command WorkStation にはジョブのエラーが表示されます。問題を解決するには、JDF ジョブ用の用紙を既存の用紙エ

ントリにマッピングするか新しいエントリとして追加して、JDF ジョブ用の用紙を **Substrate Catalog** に追加します。

- 1 選択した JDF ジョブを右クリックし、JDF 設定を選択するか、アクション > JDF 設定をクリックします。
- 2 JDF チケットの競合を解消するを選択します。
- 3 JDF 設定ウィンドウの用紙タブで、サブストレートカタログへマッピングメニューから対応する用紙を選択するか、サブストレートカタログへ追加/マッピングを選択し、OK をクリックします。

JDF ジョブ用に指定した用紙のパラメーターは、選択した **Substrate Catalog** の用紙エントリのパラメーターの隣に表示されます。これで、ジョブの印刷準備が完了しました。

# カラーを管理する

## カラー印刷オプション

カラー印刷オプションは、印刷ジョブに適用されるカラー管理の制御を行います。

カラー印刷オプションは、**デバイスセンター > カラー設定 > カラー管理** Command WorkStation のデバイスセンター、カラー設定、カラー管理からアクセスできるカラー印刷オプションは、Fiery server のデフォルトカラー印刷設定を示します。デフォルトのカラー印刷設定は、ジョブに対してほかのカラー印刷設定が指定されていない場合に適用されます。ユーザーは、設定がロックされていない場合、ジョブのプロパティでジョブの設定を変更することでデフォルトの設定を上書きできます。

デフォルトジョブ設定の詳細は、[すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する](#) (53 ページ) を参照してください。

キャリブレーション内容は印刷オプションではなく、出力プロファイルによって決定されます。表示されているキャリブレーション設定は、選択した出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定です。

カラー印刷オプションを使用した印刷の詳細については、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種リソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション ([Learning@EFI](#))
- カラー設定のベストプラクティスに関する[フローチャート](#)および[動画](#)

## デフォルトのカラー設定を表示または編集する

ほとんどのカラー印刷オプションのデフォルト設定を表示または編集できます。

すべてのカラー印刷オプションは、1つのウィンドウに表示されます。一番上に一般設定が配置され、その下にカラー入力とカラー設定が表示されます。カラー設定は、上級ユーザーのために提供されています。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバー領域でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバー領域でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。



- 2 ワークフローでジョブプリセットまたは仮想プリンターをクリックした後に、デフォルト設定...をクリックします。
- 3 デフォルト設定ウィンドウで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。  
すべてロックまたはすべてアンロックを選択することもできます。
- 4 OK をクリックします。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種のリソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション ([Learning@EFI](mailto:Learning@EFI))
- カラー設定のベストプラクティスに関する [フローチャート](#) および [動画](#)

## カラーモード設定

カラーモード設定は、出力の色空間（CMYK など）を指定します。カラーモード設定を変更すると、カラー管理オプションはサーバーのデフォルト設定にリセットされます。

ジョブ全体はグレースケール、CMYK、または CMYK+ で印刷されます（使用可能な場合）。

**メモ：**CMYK の出力では、少なくとも 4 つのプロセカラーのプレス出力を参照します。使用しているプレスまたはプリンターが RGB 出力をサポートし CMYK 出力をサポートしない場合、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』における CMYK へのすべての参照は適用されません。RGB 出力だけをサポートするプレスまたはプリンターについては、製品ごとの取扱説明書を参照してください。

CMYK または CMYK+ の可能な設定は次のとおりです。

- CMYK - カラー書類で選択します。
- グレースケール - グレースケールまたは白黒の書類で選択します。
- CMYK+ - CMYK にプラスして 5 色目のインク/トナーを使用し、すべてのインク/トナーをプロセスカラーとして使用してカラー出力を行います。サポートされている場合は、Fiery server に 1~3 個の追加インク/トナーを使用できます。

**メモ：**Fiery servers では、CMYK+ は使用できません。

## 出力プロファイル

出力プロファイルプリントオプションでは、ジョブの処理に使用する出力プロファイルを指定します。印刷ジョブ内のカラーデータは、プリンターの色空間に変換されます。この色空間は、出力プロファイルに記述されています。

さらに、出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションが、印刷前にジョブに適用されます。

Fiery server にはデフォルトの出力プロファイルが 1 つ以上あります。各出力プロファイルは特定の用紙の種類のために作成されたものです。Fiery server に独自の出力プロファイルをインポートすることもできます。

## ジョブ定義設定を使用

ジョブに特定の出力プロファイルを選択するのではなく、Fiery server で出力プロファイルを自動的に選択することもできます。プロファイルは、印刷ジョブで使用されるカラーモードと用紙タイプによって決まります。

つまり、ジョブがサブストレートカタログの用紙を使用するなら、サブストレートカタログに指定された出力プロファイルが使用されます。

デフォルトの出力プロファイル詳細については、[デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する](#) (91 ページ) と [使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法](#) (91 ページ) を参照してください。

## デバイスリンクプロファイル

指定した出力プロファイルとソースプロファイルに、CMYK から CMYK へまたは RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルを使用できる場合、[選択されたデバイスリンクプロファイル](#)が出力プロファイルリストの下に表示されます。デバイスリンクプロファイルが選択されている場合は、特定のデバイスリンクプロファイル名がソースプロファイルリストの下に表示されます。他のソース設定は、デバイスリンクプロファイルのワークフローとは無関係のため、使用不可になっています。

この場合、デバイスリンクプロファイルが使用されるため、選択した出力プロファイルはカラー管理に使用されません。

デバイスリンクプロファイルに関する詳細については、[デバイスリンクプロファイル](#) (93 ページ) を参照してください。

## デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する

ジョブごとに出力プロファイルを手動で選択しない場合は、出力プロファイルをデフォルトとして指定することができます。特定のジョブのデフォルト設定を上書きすることもできます。

使用する出力プロファイルは、[ジョブ定義設定](#)を使用に従って指定する必要があります。

サブストレートカタログを使用しないジョブの場合またはサブストレートカタログでサーバーの初期設定が指定されている場合：

- [デバイスセンター](#) リソース > [プロファイル](#) > に移動します。出力プロファイルで、使用する出力プロファイルを選択し、使用可能なすべての用紙種類にその出力プロファイルを関連付けます。

**メモ：**出力プロファイルと用紙の関連付けは、Fiery server のワークフローがサポートする場合にのみ可能です。

ジョブのプロパティ > カラー > [出力プロファイル](#)を選択して、特定のジョブデフォルトを上書きすることができます。ジョブ定義設定を使用ではなく、一覧からプロファイルを選択します。Command WorkStation でサーバーメニューからデフォルト設定を選択して、特定の出力プロファイルをデフォルトとして設定することもできます。

**メモ：**デフォルト設定ウィンドウのカラータブに表示されるデフォルトの出力プロファイルは、Fiery server で設定されたものです。そこに表示される注釈メモ（注意：「ジョブ定義設定を使用」はプロファイルの設定で常にデフォルトで選択されています。）は、ジョブのプロパティの出力プロファイルメニューを指しています。

## 使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法

Fiery server は、ジョブに使用する出力プロファイルを決定するときに、さまざまな事項を考慮します。

これらの要因は、Fiery server 上のサブストレートカタログの実装によって異なります。これにより、ユーザーがジョブの用紙を選択する方法が決まります。

サブストレートカタログは、次の3つの方法のいずれかで実装されています。

- サブストレートカタログを用紙選択に使用する必要がある
- サブストレートカタログを用紙選択に使用しなくてもよい
- サブストレートカタログを用紙選択に使用できない

**メモ：**サブストレートカタログの実装は、Fiery server でサポートされている方法によって異なります。Fiery server は、次のテストを実行して、使用する出力プロファイルを決めます。

- 1 ジョブのプロパティで出力プロファイルは出力プロファイルの自動選択に設定されているか
- 2 サブストレートカタログが使用されているか
- 3 どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いか

### ジョブのプロパティで出力プロファイルは出力プロファイルの自動選択に設定されているか

自動プロファイル選択の場合は、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで出力プロファイルプリントオプションをジョブ定義設定を使用に設定する必要があります。用紙以外の設定も考慮されているため、このオプションは、ジョブ定義設定を使用として表示されます。たとえば、カラーモードが CMYK+に設定されている場合、プロファイルを決めるときに用紙だけではなく、カラーモード考慮する場合があります。

特定の出力プロファイルが選択された場合は、それが使用されます。自動選択では十分でない場合、または他のプロファイルを試す場合は、特定のプロファイルを選択します。

### サブストレートカタログが使用されているか

出力プロファイルの関連付けがは、サーバーの初期設定に設定されている場合、3番目のテストが使用されます。

### どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いか

使用可能な出力プロファイルとジョブの設定との関連付けを確認します。デバイスセンター>リソース>プロファイルを選択し、出力プロファイルのセクションを展開します。

プリントオプションは、接続されているサーバーに依存します。たとえば、用紙の種類プリントオプションを使用するときと使用できないときもあります。

Profile Manager の詳細列にあるオプション（デバイスセンター>リソース>プロファイル）は、数の多い同等のジョブ設定と1対1で一致しません。

たとえば、コート紙に関するオプションがジョブのプロパティに複数あっても、コート紙タイプに関連付けられている出力プロファイル設定が1つしかない可能性もあります。この場合、コート紙に関連付けられている出力プロファイルが、すべてのコート紙に使用されます。

用紙の種類でデフォルトで使用される出力プロファイルを変更する場合は、選択した出力プロファイルをダブルクリックし、そのプロファイルと互換性のある用紙の種類を確認します。単一の出力プロファイルを、ほとんどの使用可能な用紙設定に指定することができます。

## デバイスリンクプロファイル

デバイスリンクプロファイルを印刷ジョブで選択するには、そのプロファイルが **Fiery server** に存在することと、特定のソースプロファイルおよび出力プロファイルに関連付けられている必要があります。

デバイスリンクプロファイルと関連付けられているソースプロファイルおよび出力プロファイルの設定を選択すると、**Fiery server** では通常のカラー管理が無視され、ジョブのカラーデータへのデバイスリンク変換が適用されます。ソースプロファイルおよび出力プロファイルは使用されません。

**Fiery server** 上に存在していないプロファイルは、設定として表示されません。ソースプロファイルの設定や出力プロファイルの設定と関連付けられていないデバイスリンクプロファイルは、ジョブに対して選択できません。そのため、デバイスリンクプロファイルと関連付けられているソースプロファイルや出力プロファイルは、たとえカラー変換の計算には使用されなくても、**Fiery server** 上に存在している必要があります。

次の表に示されているカラー入力設定のいずれかが有効になっている場合、または指定されている場合、デバイスリンクプロファイルは無効になります。

RGB-CMYK デバイスリンク	CMYK-CMYK デバイスリンク
RGB 埋め込みプロファイルを使用	CMYK 埋め込みプロファイルを使用
RGB レンダリングインテント	CMYK レンダリングインテント
RGB グレーをブラックのみで印刷	CMYK グレーをブラックのみで印刷
	黒点の補正

## RGB ソース、CMYK ソース、グレースケールソース

RGB ソース、CMYK ソースおよびグレースケールソースプリントオプションを使用すると、書類の RGB データ、CMYK データ、およびグレースケールデータの色空間を定義して、**Fiery server** で適切な色変換を行います。

**Fiery server** には、よく使用される色空間が提供されています。その他の色空間では、CMYK および RGB カスタムプロファイルを **Fiery server** にインポートできます。カスタムのグレースケールプロファイルはインポートできません。

### RGB ソース

RGB ソースのプロファイルを指定した場合、**Fiery server** は、その他のカラー管理システムで指定されている可能性があるソース色空間の定義またはプロファイルを上書きします。たとえば、書類に RGB プロファイルが埋め込まれていても、RGB ソース設定で上書きされます。

RGB ソースプロファイルを指定すると、**Fiery server** からの出力はプラットフォーム間で一貫性が保たれます。RGB ソースには次のオプションがあります。

- **EFIRGB** - EFI 社指定のソース色空間を定義します。RGB データの詳細情報がない場合に最適です。
- **sRGB (PC)** - Microsoft 社および Hewlett-Packard 社推奨の色空間であり、一般的なホームおよびオフィスアプリケーション向けに定義されています。
- **Apple Standard** - 従来の Mac 対応モニター用の色空間を定義します。
- **Adobe RGB (1998)** - Adobe 社が定義した色空間であり、一部のプリプレスワークフローで Adobe Photoshop 用のデフォルト作業用色空間として使用されます。

- **eciRGB v2 - ECI** (ヨーロッパカラーイニシアティブ) 推奨の色空間であり、広告代理店、出版社、複製業、印刷所で RGB 作業用色空間およびカラーデータ交換形式として使用されます。
- **Fiery RGB v5 - Office** アプリケーションの使用時に適した EFI 定義の色空間です。この色空間は **EFIRGB** に類似していますが、より大きく、より適切な青色出力が得られます。

指定されている別のソース色空間を RGB ソースによって上書きしない場合は、**RGB 埋め込みプロファイル**を使用オプションを選択します。

**RGB 埋め込みプロファイル**を使用オプションが有効になっている場合、**Fiery server** で RGB プロファイルがある書類のオブジェクトが尊重され、プロファイルがないオブジェクトはジョブのプロパティで指定された RGB ソースプロファイルを使用してカラー管理されます。

## CMYK ソース

CMYK ソースオプションには、**Fiery server** 上の CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ICC プロファイルを使用して色分解された印刷イメージ内のカラーを適切に管理するには、同じプロファイルをイメージの印刷時に指定する必要があります。

CMYK ソースプロファイル設定に指定するプロファイルは、CMYK データが色分解されたときの CMYK プロファイルまたは印刷標準によって変わります。このオプションは、CMYK データのみに適用されます。

- カスタム色分解(たとえば、ICC プロファイル指定の色分解)を使用して色分解されている画像には、CMYK ソースが設定されている **Fiery server** で、プリプレスワークフローの RGB から CMYK への変換で使用されているプロファイルを選択します。
- 印刷標準用に色分解されたイメージには、印刷標準を CMYK ソース設定として選択してください。

ジョブに埋め込み CMYK プロファイルが含まれている場合は、**CMYK 埋め込みプロファイル**を使用オプションを選択します。埋め込みプロファイルは CMYK データに適用されます。

CMYK ソースオプションには、**Fiery server** 上に存在する任意の CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ジョブの CMYK データを出力カラー色空間に変換しない場合は、次の設定のいずれかを選択できます。

- **変換を省略** - これらの設定では、ジョブのオリジナルの CMYK データが変換なしにプリンターに送信されますが、キャリブレーションは適用されます。
- **ColorWise オフ** - この設定では、キャリブレーションの適用も CMYK データへの変換も行われることなく、ジョブのオリジナルの CMYK データがプリンターに送信されます。ただし、CMYK データはインク/トナー総量の制限の影響を受けます。

**ColorWise オフ**設定は特定のジョブで使用できますが、**Fiery server** でのデフォルト設定にはできません。この設定は特定のジョブでのみ選択してください。

**メモ** : **ColorWise オフ**設定で印刷する場合は、アプリケーションで選択するオプションによって CMYK データが変更されないようにしてください。**ColorWise オフ**設定で印刷する場合は、アプリケーションでカラー管理を使用しないように設定する必要があります。

## グレースケールソース

**Fiery server** では、デバイスグレーのジョブと ICC ベースグレースケールのジョブをそれぞれの色変換によって個別に処理できます。

グレースケールソースプロファイル設定は、ソースプロファイルから出力プロファイルへのカラー変換に使用するため、出荷時にインストールされたグレースケールプロファイルを提供します。ユーザーが任意のグレースケール ICC プロファイルをインポートすることはできません。

書類のグレースケールオブジェクトに関連付けられた埋め込みプロファイルがジョブに含まれている場合は、**グレー埋め込みプロファイル**を使用オプションを選択します。

グレースケールソースオプションには、Fiery server 上に存在する工場出荷時にインストール済みの任意のグレースケールソースプロファイルを設定できます。

## RGB/CMYK/グレー埋め込みプロファイルを使用

Fiery server で、プリント設定で指定されているソースプロファイルではなく、印刷ジョブに埋め込まれているソースプロファイル（RGB、CMYK またはグレースケール）を使用するかどうかを指定できます。

### RGB

RGB 埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server は RGB プロファイルがあるオブジェクトの埋め込み RGB プロファイルを使用し、RGB プロファイルがない RGB オブジェクトの RGB ソースプロファイルを使用します。このオプションをオンにした場合、Fiery server は RGB ソースオプションで指定されたプロファイルを使用します。

### CMYK

CMYK 埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server は CMYK プロファイルがあるオブジェクトの埋め込み CMYK プロファイルを使用し、CMYK プロファイルがない CMYK オブジェクトの CMYK ソースプロファイルを使用します。このオプションをオフにした場合、Fiery server は CMYK ソースオプションで指定されたプロファイルを使用します。

### グレー

グレー埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server はグレープロファイルがあるオブジェクトの埋め込みグレープロファイルを使用し、グレープロファイルがないグレーオブジェクトのソースグレープロファイルを使用します。

## 黒点の補正

黒点の補正オプションを使用して、CMYK ソースカラーのシャドウ部分の出力濃度を調整できます。

黒点の補正は、ソースプロファイルの最も暗い部分が出力プロファイルの最も暗い部分にマッピングされるように、ソースカラーをスケールリングすることによって機能します。CMYK ソース色空間がプリンターの色範囲よりも広い場合にシャドウの細部を強調するには、**黒点の補正**を使用します。校正のアプリケーションでは、CMYK ソース色空間がプリンターの色範囲よりも狭い場合にこのオプションを使用しないでください。

**メモ：**RGB ソースカラーの場合は、相対カラーメトリックに黒点の補正が常に適用されます。黒点の補正は、絶対カラーメトリックには適用されません。連続調では純色とシャドウ詳細が出力デバイスのカラー表現能力に合わせて調整されているので、黒点の補正は不要です。

## CMYK レンダリングインテント

CMYK レンダリングインテントオプションでは、CMYK 入力データを出力色空間の使用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラーイメージの種類に応じて、この変換を最適化することができます。

Fiery server は、第 5 のレンダリングインテントである純原色もサポートしています。

**メモ：**色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
<p>連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。この方法では、イメージの色調関係が保持され、ソースのグレースケール色調範囲が、出力デバイスで使用可能な色調範囲に拡大縮小されます。</p>	<p>写真画像（ストック写真やデジタルカメラからのスキャン画像やイメージを含む）</p>	<p>イメージ、コントラスト、知覚</p>
<p>ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似して、グレースケールコンテンツのコントラストを大きくするために使用できます。</p>	<p>プレゼンテーション用のアートワークやグラフ。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。</p>	<p>彩度、グラフィック</p>
<p>相対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点間の色変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。相対カラーメトリックは、グレースケールのデフォルトのレンダリングインテントで、グレーの外観を維持するのに最適です。</p>	<p>カラーのマッチングが重要であるが、書類の白色を紙地の白色として出力する場合の高度な方法です。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p>	<p>相対カラーメトリック</p>

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
絶対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の変換は定義されません。たとえば、青みがかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられません。この方法では、ハイライトやシャドウの細部で色域は一部切れて表示されることがあります。	<p>正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p> <p>CMYK レンダリングインテントを絶対カラーメトリックに設定すると、用紙の白色の領域が印刷されないことではなく、CMYK 値を使用して用紙の白色がシミュレートされます。これは、以前の用紙シミュレーション機能と同じ効果があります。</p>	絶対カラーメトリック
純原色 - インク/トナーを混ぜ合わせない。カラー機能の異なる画像システムの間で特定の色の見え方を一致させるためにカラー管理で行われるインク/トナーの混合を行わないようにします。	<p>ソースコンテンツが 1 つまたは 2 つのプロセスインク/トナーで構成されるとき、それらは最終印刷で 1 つまたは 2 つのプロセスインク/トナーとして残されます。このレンダリングインテントでは色の精度を達成できないので、他の印刷システムと色の精度が一致することは想定されていません。</p>	純原色

## グレースケールレンダリングインテント

グレースケールレンダリングインテントオプションは、グレースケール入力データを出力色空間で使用可能な色域に変換する方法を指定できます。印刷するグレーオブジェクトの種類に応じて、この変換を最適化することができます。

グレースケールのテキスト、グラフィック、および画像の見え方を制御するには、適切なレンダリングインテントを選択します。Fiery server では、現在業界標準の ICC プロファイルにある 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

**メモ：**色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域圧縮を実行する際に、画像のさまざまなカラー間の関係を保持します。	<p>特に小さな色域プリンター空間への変換時の高色域連続調画像に最適。通常、グレースケールの画像には必要ありません。</p>	知覚
プレゼンテーション - 色域圧縮を実行するときに、色の彩度が向上します。	<p>プレゼンテーション用のベクトルアートワークとグラフィックに最適。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。</p>	彩度



レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
相対カラーメトリック - 色域外圧縮を実行するときのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象の白色点にマッピング（「用紙シミュレーション」なし）	正確なベクトルアートとロゴのカラーマッピングを実現します。グレースケールのソースレンダリングに最適です。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック - 色域外圧縮を実行するときのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象白色点にマッピングされません（「用紙シミュレーション」）。	校正ジョブに最適。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。	絶対カラーメトリック

## RGB レンダリングインテント

RGB レンダリングインテントオプションは、RGB 入力データを出力の色空間で利用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラー画像の種類に応じて、この変換を最適化することができます。

アートワークの画像や Adobe Photoshop からの RGB 写真画像などの見せ方を制御するには、各画像に適したレンダリングインテントを選択する必要があります。Fiery server では、現在業界標準の ICC プロファイルに現在含まれている 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

**メモ：**色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。画像の正しい色よりも色調関係の保持を優先させます。	写真画像（写真やデジタルカメラからのスキャン画像を含む）	画像、コントラスト、および知覚
ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似しています。	プレゼンテーション用のアートワークやグラフィック。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。	彩度、グラフィック

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
相対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。	カラーのマッチングが重要であるときに、書類の白色を紙地の白色として出力する場合の高度な方法です。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の変換は定義されません。たとえば、青みがかかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられません。	正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。	絶対カラーメトリック

## RGB/CMYK グレーをブラックのみで印刷

RGB グレーをブラックのみで印刷オプションをオンに設定すると、R、G、B の値の等しい RGB カラーはすべて、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。同様に、CMYK グレーをブラックのみで印刷をオンに設定すると、C、M、Y が 0 で、K が任意の値の CMYK カラーは、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。

RGB グレーをブラックのみで印刷または CMYK グレーをブラックのみで印刷は、テキスト/グラフィックかテキスト/グラフィック/画像のどちらかについてオンに設定できます。「グラフィック」とはベクトルグラフィックを指します。「画像」とはビットマップ画像を指します。

**メモ：**また、テキスト/グラフィックとテキスト/グラフィック/画像には同じオプションを使用し、グレースケールソースプロファイルについてグレーをブラックのみで印刷するをオンに設定することもできます。

次の制限が適用されます。

- RGB グレーをブラックのみで印刷オプションと CMYK グレーをブラックのみで印刷オプションは、事前に色分解されたジョブには適用されません。
- CMYK レンダリングインテントが純原色に設定されている場合、CMYK グレーをブラックのみで印刷は出力に影響を及ぼしません。
- RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすると、RGB グレーをブラックのみで印刷はオフになります。同様に、RGB グレーをブラックのみで印刷をオンにすると、RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすることはできません。
- ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンまたはリッチブラック-オンに設定している場合、100%ブラックのテキスト/グラフィックには、RGB グレーをブラックのみで印刷および CMYK グレーをブラックのみで印刷の設定よりブラックテキスト/グラフィックでの設定が優先されます。
- スポットカラーとしてグレーが指定されている場合、そのグレーには RGB グレーをブラックのみで印刷および CMYK グレーをブラックのみで印刷は適用されません。

## RGB/Lab を CMYK ソースに分解

RGB/Lab を CMYK ソースに分解オプションは、RGB カラー（および L\*a\*b\*などのデバイスに依存しないカラー空間）を CMYK ソースに変換します。

- RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすると、ドキュメント内の元の RGB カラーが、ジョブのプロパティで選択されているソース CMYK プロファイルに変換され、その後、出力プロファイルのプリントオプションでの定義に従って、プリンターの出力プロファイルに変換されます。RGB カラーを CMYK ソースと出力色空間に変換する色再現は、RGB コンテンツをその CMYK ソースプロファイルに変換するのと類似しています。

たとえば、Fiery server で RGB カラーを CMYK ソースに変換して色再現を行うのは、Photoshop で RGB イメージを CMYK プロファイルに変換するのと類似しています。RGB/Lab を CMYK ソースに分解のもう一つの便利なテクニックは、別のプレス用の高品質な ICC プロファイルを使用して、それを Fiery server のソース CMYK プロファイルとして定義し、別のプレスによる RGB カラーの色の出方をシミュレーションすることです。

この機能は、すべての色空間が出力色空間に変換される前に CMYK ソースに変換される PDF/X ワークフローでも使用されます。これらのワークフローでは、ドキュメント内の CMYK コンテンツとの色の一致を実現するために、デバイスに依存する色（RGB、グレースケール）とデバイスに依存しない色（ICC カラー、L\*a\*b\*）が必要になります。PDF/X-4 の登場により、PDF/X 文書内で透明機能が利用可能となり、透過効果のあるデザインに含まれる CMYK のオーバープリントにも対応できるようになりました。透明効果をレンダリングするには、希望する外観を実現するために複雑な処理ポリシーが必要になるため、RGB/Lab を CMYK ソースに分解プリントオプションをオンにすることが、透明シートをレンダリングするための最良の方法です。

- RGB/Lab を CMYK ソースに分解プリントオプションにオフにすると、すべての RGB カラーが出力カラープロファイルで管理されます。このワークフローは、出力デバイスの全色域で RGB カラーをレンダリングするので、印刷システムで達成可能な最も鮮やかな色を必要とする場合にお勧めします。

## スポットカラーマッチング

スポットカラーマッチングオプションを使用すると、自動的なマッチングによってジョブ内のスポットカラーを最良の CMYK 値に変換できます。

- スポットカラーマッチングをオンにすると、Fiery server は内蔵の変換テーブルを使用して、プリンターが生成できるスポットカラーに最も近似する CMYK 値を生成します。（Fiery server に出力プロファイルを追加した場合は、その出力プロファイル用の新しい変換テーブルが自動的に作成されます。）

Fiery Spot-On を使用すると、Fiery server は Command WorkStation スポットカラーで決定された CMYK 値を使用します。

- スポットカラーグループを使用メニューを使用すると、Fiery server がファイルの処理中に最初にスポットカラー定義を検索するスポットカラーグループを選択できます。新しいスポットカラーグループがデバイスセンター > リソース > スポットカラーまたは デバイスセンター > リソース > Spot Pro に作成されている場合、新しいグループがスポットグループを使用メニューに一覧表示されます。スポットカラーが選択したリストにない場合、Fiery server は一致するスポットカラー名を他のすべてのスポットカラーグループで探します。名前が存在しなければ、そのスポットカラーは書類内で代替カラーを使用して表示されません。
- スポットカラーマッチングがオフの場合は、Fiery server はスポットカラーを CMYK データとして処理し、書類の代替色空間を使用します。デフォルトでは、ほとんどのアプリケーションで、PANTONE などのスポットカラーメーカーが定義した CMYK に相当する値が使われます。これらの CMYK 値は、スポットカラーライブラリを提供しているアプリケーションで使用されている CMYK 値と同じものです。

**メモ：**内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーは、書類の代替色空間を使用して処理されます。

スポットカラーを含むジョブは、オフセット印刷のシミュレーションを行う場合を除き、スポットカラーマッチングをオンに設定して印刷してください。この場合は、スポットカラーマッチングをオフに設定し、適切なCMYKソース設定を選択します。

内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーを含むPDFジョブやPostScriptジョブの場合、スポットカラーマッチングをオンにすると、代替色空間が使用されます。Fiery serverでは、内蔵の色分解表をもとにオリジナルのスポットカラーに最も近いCMYK値が生成されます。

**メモ：**スポットカラーマッチングは、コンポジット印刷でのみ使用し、分版の印刷には使用しません。

## ブラックテキスト/グラフィック

ブラックテキスト/グラフィックオプションでの設定は、ブラックのテキストおよびベクトルグラフィックに適用されます。このオプションを純ブラック-オンに設定すると、アプリケーションによって生成されるブラック（たとえば、RGB=0,0,0またはCMYK=0%,0%,0%,100%）はブラックのみを使用して印刷されます。

ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンに設定している場合は、1つのインク/トナーのみを使用するため、ブラックのテキストおよびラインアートで印刷ずれが生じることはありません。また、この設定では好ましくないブラスティング効果も回避できます。これは、特定の用紙へのインク/トナーの量が多すぎるために印刷オブジェクトの境界線をはみ出してしまう問題です。

ジョブによっては、ブラックテキスト/グラフィックを普通に設定することをお勧めします。たとえば、ブラックを使用したグラデーション塗りつぶしがジョブに含まれている場合は、普通の設定によって最適な結果が得られます。

オーバープリント（純ブラック）をテキストまたはテキスト/グラフィックに設定している場合は、ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンまたはリッチブラックを純ブラックに変換に設定する必要があります。

**メモ：**ブラックテキスト/グラフィックオプションは、コンポジット印刷でのみ使用し、分版の出力には使用しません。

次の表に、異なる色空間で定義されたブラックデータによるブラックテキスト/グラフィックオプションの動作を示します。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
RGB=0,0,0（その他すべてのRGB値はブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません）	出力プロファイル内のRGB=0,0,0の定義に従って印刷されます。出力プロファイルでリッチブラックが指定されている場合はリッチブラック（複数のインク/トナーを使用したブラック）になり、出力プロファイルでRGB=0,0,0に対してブラックのみが指定されている場合はブラックのみになります。出力はキャリブレーションの影響を受けません。	純ブラック-オンの場合はブラックのみで、リッチブラック-オンの場合はブラックおよびシアンを使用して、ブラック100%、シアン50%で印刷されます。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
<p>CMYK=0%, 0%, 0%, 100% (その他すべての CMYK 値はブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません)</p>	<p>CMYK ソースと CMYK レンダリングインテントの設定に応じて、ブラックのみまたは、すべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。</p> <p>CMYK レンダリングインテントを純原色に設定している場合は、CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は CMYK ソースプロファイルとキャリブレーションにより制限されます。</p> <p>CMYK ソースを変換を省略に設定している場合、CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は CMYK ソースプロファイルとキャリブレーションにより制限されます。</p> <p>CMYK レンダリングインテントが相対カラーメトリックに設定されている場合、CMYK=0%,0%,0%,100%は、出力プロファイルに従ってすべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。出力はキャリブレーションの影響を受けます。</p> <p><b>メモ：</b>CMYK ソースを ColorWise オフに設定すると、CMYK ソースプロファイルおよびキャリブレーションは適用されなくなります。この場合、ブラックはキャリブレーションによる制限を受けません。</p>	<p>CMYK ソースと CMYK レンダリングインテントの設定にかかわらず、純ブラック-オンの場合はブラックのみで、リッチブラック-オンの場合は、ブラックおよびシアンを使用して、ブラック 100%、シアン 50%で印刷されます。</p>
<p>スポットカラー（ブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません）</p>	<p>標準のスポットカラー処理</p>	<p>標準のスポットカラー処理</p>

**メモ：**PostScript アプリケーションの中には、印刷ジョブを Fiery server に送る前に、RGB=0, 0, 0 で定義されたブラックを 4 色の CMYK ブラックに変換するものがあります。これらのブラックは、ブラックテキスト/グラフィックオプションの影響を受けません。

### オーバープリント（純ブラック）

オーバープリント（純ブラック）オプションでは、RGB=0, 0, 0 または CMYK=0%, 0%, 0%, 100%で定義されたブラックのテキストのみまたはブラックテキスト/ベクトルグラフィックを、カラーの背景上にオーバープリント（重ね出力）するかどうかを指定します。このオプションをオフにすると、ブラックのテキストまたはテキストとグラフィックのカラーの背景はノックアウト（くり抜き）されて出力されます。ノックアウトの場合は、カラーの版ずれによってオブジェクトの周りに白い境界線が表示されることがあります。

**メモ：**オーバープリント（純ブラック）は、ブラックテキスト/グラフィックが純ブラック-オンに設定されている場合のみ選択できます。

オーバープリント（純ブラック）オプションには、次の設定があります。

- テキスト - ブラックのテキストはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- テキスト/グラフィック - ブラックのテキストとグラフィックはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- オフ - ブラックのテキストとグラフィックのカラーの背景部分はロックアウト（くり抜き）されて出力されます。

**メモ：**PostScript アプリケーションによっては、印刷前に独自のブラックオーバープリント変換が実行されることがあります。

この設定の使用法の例として、ブラックのテキストを淡いブルーの背景に表示するページを取り上げます。ブルーの背景は CMYK=40%, 30%, 0%, 0% です。ブラックのテキストは CMYK=0%, 0%, 0%, 100% です。

- オーバープリント（純ブラック）をテキストまたはテキスト/グラフィックに設定すると、ページの最終的なテキストまたはグラフィックの部分がオーバープリントされます（または背景色と組み合わせられます）。
- オーバープリント（純ブラック）をオフに設定すると、ブラックのテキストやグラフィックの境界線は、一方の側（テキストまたはグラフィックの外側）にシアンおよびマゼンタ、もう一方の側（テキストまたはグラフィックの内側）にブラックが使用されます。このため、プリンターの限界により、版ずれが起きることがあります。

**メモ：**CMYK が 0%, 0%, 0%, 100% でない場合、CMYK 各要素の再現は CMYK ソースの設定とキャリブレーションの影響を受けます。

## プロファイル

Command WorkStation の Profile Manager では、Fiery server 上の ICC プロファイルを管理できます。（Profile Manager の）Color Editor では、既存の CMYK プロファイルからカスタムプロファイルを作成したり、AutoGray 機能を使用して出力プロファイルのグレースケールを調整したりできます。

Fiery server では、カラー管理に次の種類のプロファイルを使用します。

- RGB ソースプロファイルは、印刷ジョブの RGB（および Lab）色のソース色空間を定義します。通常、RGB プロファイルを使用しているデバイスは、モニター、スキャナー、デジタルカメラなどです。Fiery server では、RGB ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの RGB 色をプリンターの CMYK 色空間に正確に変換できます。
- CMYK ソースプロファイルは、印刷ジョブの CMYK 色のソース色空間を定義します。通常、CMYK プロファイルを使用しているデバイスは、印刷機、デジタルプリンターなどです。Fiery server では、CMYK ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの CMYK 色をプリンターの CMYK 色空間に正確に変換できます。
- グレースケールソースプロファイルは、印刷ジョブのグレースケール色のソース色空間を定義します。通常、グレースケールプロファイルを使用しているデバイスは、印刷機、デジタルプリンターなどです。Fiery server では、グレースケールソースプロファイルを使用して印刷ジョブのグレースケール色をプリンターのグレースケール色空間に正確に変換できます。

- 出力プロファイルは、特定の種類の用紙に印刷する場合のプリンターの色特性を記述します。出力プロファイルには、プリンターの期待されるカラー出力濃度を記述するキャリブレーションが関連付けられます。出力プロファイルとその関連するキャリブレーションは、印刷ジョブのすべてのカラーデータに適用されます。
- デバイスリンクプロファイルは、特定のソース色空間から出力色空間への変換を記述します。デバイスリンクプロファイルには、変換元デバイスから変換先デバイスへの完全な変換が定義されているため、Fiery server は変換の計算を行いません。

Fiery server は、2 種類のデバイスリンクプロファイルをサポートします。RGB ソース色空間から CMYK 色空間と CMYK ソース色空間から CMYK 色空間への変換です。

デバイスリンクプロファイルには、ソースプロファイル設定（CMYK から CMYK へのデバイスリンクプロファイルの CMYK デバイスリンクと RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルの RGB/Lab デバイスリンク）と出力プロファイル設定を関連付ける必要があります。これらが関連付けられていないと、デバイスリンクプロファイルをジョブで選択できません。

## プロファイルプロパティを表示する

Command WorkStation の Profile Manager には、Fiery server 上のプロファイルに関する情報（デバイスや用紙タイプなど）が表示されます。

プロファイル名の左側にあるチェックマークは、このプロファイルが工場出荷時のデフォルトプロファイルであることを示しています。たとえば、RGB ソースプロファイルの sRGB (PC) プロファイルの横にあるチェックマークは、sRGB (PC) が RGB ソースオプションのデフォルト設定であることを意味しています。デフォルトプロファイルは、カラー管理ウィンドウで変更できます。

プロファイル名の左側にあるロックアイコンは、このプロファイルは工場出荷時にインストールされたもので、編集または削除できないことを示しています。

- 1 デバイスセンターのリソースでプロファイルをクリックします。
- 2 Profile Manager で、プロファイルをクリックして選択します。選択したプロファイルのプロパティが、ウィンドウの右側に表示されます。

## プロファイルの色の範囲を比較する

使用するコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して 2 つのプロファイルの色の範囲を比較できます。Profile Inspector には、色の範囲が 3 次元モデルで表示され、2 つの色の範囲で重なりのある色とそうでない色を確認できます。たとえば、プロファイル間で青の色相の範囲に違いがある場合があります。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブでプロファイルをクリックし、プロファイルを選択します。
- 2 Ctrl キーを押しながら、もう 1 つのプロファイルを選択します（両方のプロファイルが選択状態になります）。
- 3 いずれかのプロファイルを右クリックしてプロファイルを比較を選択します。

Profile Inspector が別ウィンドウで開きます。Profile Inspector のヘルプアイコンをクリックすると、詳細な情報が表示されます。

## プロファイルをインポートまたはエクスポートする

Command WorkStation の Profile Manager を使用すると、プロファイルを Fiery server にインポートして、Fiery server 上のジョブの印刷に使用することができます。Fiery server のソフトウェアの更新時などに、誤ってカスタムプロファイルを削除しないように、エクスポート機能を使用してプロファイルをバックアップしておいてください。

プロファイルをコンピューターにエクスポートして、Adobe Photoshop など ICC 対応のアプリケーションで使用することもできます。

### プロファイルをインポートする

ソースプロファイル (RGB または CMYK)、出力プロファイル、またはデバイスリンクプロファイルを Fiery server にインポートすることができます。グレースケールのプロファイルは、インポートできません。

**メモ：**Windows の場合は、プロファイルのファイル名に拡張子.icc または.icm が付いていないと、インポート用には選択できません。Mac OS の場合は、プロファイルのファイルの種類が「profile」でなければなりません。

- 1 デバイスセンターのリソースタブで、プロファイルをクリックし、インポートをクリックします。
- 2 場所リストでフォルダーを選択します。
- 3 インポートするプロファイルの場所を参照します。
- 4 プロファイルを選択し、開くをクリックします。
- 5 プロファイル設定ダイアログボックスが表示されたら、このプロファイル用の設定を選択し、OK をクリックします。

インポートしたプロファイルが、Fiery server にすでにあるプロファイルの置き換えではなく、新規のプロファイルである場合、プロファイル設定を設定します。

### プロファイルをエクスポートする

プロファイルを Fiery server からエクスポートして、バックアップ手段としたり、Adobe Photoshop などの ICC 対応アプリケーションで使用したりすることができます。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブで、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、エクスポートをクリックします。
- 3 コンピューター上の保存先を指定し、フォルダ選択をクリックします。

### プロファイルを作成または削除する

Command WorkStation の Profile Manager では、新しい出力プロファイルやデバイスリンクプロファイルを作成したり、不要になったプロファイルを削除したりできます。

新しいプロファイルを作成するには、コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている必要があります。



## 出力プロファイルを作成する

使用するコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Printer Profiler を使用して出力プロファイルを作成できます。

**メモ：**既存の出力プロファイルを Color Editor で編集して別名で保存することによって、出力プロファイルを作成することもできます。

Fiery Printer Profiler は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブで、プロファイルをクリックします。
- 2 新規をクリックし、出力プロファイルを選択します。

Printer Profiler が別のウィンドウで開きます。Printer Profiler を使用した出力プロファイル作成の詳細については、Printer Profiler のオンラインヘルプを参照してください。

**メモ：**新しいキャリブレーション設定を作成した後、Command WorkStation の Calibrator から Fiery Printer Profiler を起動できます。

## デバイスリンクプロファイルを作成する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Device Linker を使用してデバイスリンクプロファイルを作成できます。

Fiery Device Linker は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

- 1 デバイスセンターのリソースでプロファイルをクリックします。
- 2 新規をクリックし、デバイスリンクを選択します。

Device Linker が別のウィンドウで開きます。Device Linker を使用したデバイスリンクプロファイル作成の詳細については、Device Linker のオンラインヘルプを参照してください。

## プロファイルを削除する

不要になったプロファイルを削除できます。プロファイルを削除すると、Fiery server 上のディスク領域を解放できます。ロックアイコンの付いたプロファイルを削除することはできません。

- 1 デバイスセンターのリソースタブでプロファイルをクリックし、削除するプロファイルを選択します。
- 2 削除をクリックし、確認のためにはいをクリックします。

## プロファイル設定を編集する

プロファイル設定は、Fiery server のプロファイル使用方法を決定する属性です。たとえば、説明や用紙の種類をプロファイルに割り当てることができます。プロファイル設定が、プロファイルの内容に影響を与えることはありません。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。

- 2 プロファイルを選択し、設定をクリックします。
- 3 プロファイル設定ウィンドウで、必要なオプションを設定し、OK をクリックします。選択できるオプションは、プロファイルの種類と Fiery server のモデルによって変わります。

すべてのプロファイルに共通の設定：

- **プロファイルの説明** - プロファイルを識別する説明です。プロファイルがロックされている場合、説明は変更できません。

出力プロファイルにのみ適用可能な設定：

- **用紙の種類** - 出力プロファイルが関連付けられている 1 つまたは複数の用紙設定です。これらの設定は、特定の出力プロファイルが設定されたタイミングではなく、用紙設定によってジョブの出力プロファイルが決まったタイミングで使用されます。

用紙の種類が Fiery server で使用できない場合は、Substrate Catalog またはサブストレートカタログを使用して、メディア定義プロファイルを設定します。

- **キャリブレーション** - 出力プロファイルに関連付けるキャリブレーションです。

デバイスリンクプロファイルにのみ適用可能な設定：

- **CMYK ソースプロファイルまたは RGB ソースプロファイル** - デバイスリンクプロファイルに関連付けられているソースプロファイル設定です。特定のソースプロファイル設定と出力プロファイル設定の組み合わせによって、ジョブのデバイスリンクプロファイルが選択されます。CMYK から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、CMYK ソースプロファイル設定があります。RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、RGB ソースプロファイル設定があります。

**メモ：**CMYK ソースプロファイルを編集しても、CMYK ソースプロファイルに関連付けられているデバイスリンクプロファイルを使用する場合は、変更が適用されません。

- **出力プロファイル** - デバイスリンクプロファイルに関連付けられている出力プロファイル設定です。

## プロファイル内容を編集する

Command WorkStation には CMYK プロファイルを編集する Color Editor が用意されています。

Color Editor では、CMYK プロファイル (CMYK ソースプロファイルまたは出力プロファイル) を編集できます。プロファイルの濃度曲線を微調整するには、Color Editor を使用します。

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite オプションがインストールされている場合は、Command WorkStation から Fiery Profile Editor にアクセスしてプロファイルを編集できます。出力プロファイルの色域を定義するカラーデータを編集できます。

## Color Editor でプロファイルを編集する

Color Editor では、CMYK 濃度曲線やターゲット濃度などの機能を調整できます。

Color Editor で編集できるのは、Fiery server を使用する印刷だけです。それ以外のケースでプロファイルを使用する場合、プロファイルに影響はありません。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。

2 プロファイルを選択し、**編集**をクリックします。

3 **Color Editor** を選択します。

**メモ**：Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、次の手順に進みます。Color Editor が自動的に開きます。

4 **Color Editor** で、濃度曲線を調整します。微調整するには、一度に1つまたは2つのカラーのみを操作します。

Color Editor のグラフの曲線は、各カラーチャンネル（C、M、Y、K）の入力%と出力%を表しています。これらの%は、CMYK ハーフトーンドットのサイズを表しています。

- C、M、Y、K 曲線の表示/非表示を切り替えるには、各カラーの眼のアイコンをクリックします。
- 曲線を手前に表示するには、眼アイコンの横にあるカラーバーをクリックします。
- 表示している曲線の明るさを調整するには、プラスとマイナスのボタンを使用します。
- 曲線を調整するには、曲線上の点をドラッグするか、点をクリックして入力フィールドと出力フィールドに新しい値を入力するか、または、点をクリックして矢印キーで移動します。

**メモ**：明るさを調整してから、曲線を調整してください。

5 出力プロファイルの場合：Fiery server によってキャリブレーションターゲットが出力プロファイル内に保存されている場合は、各カラー（C、M、Y、K）のキャリブレーションターゲットの最高濃度（D-Max 値）を変更することができます。

D-Max 値が表示されていない場合、使用している Fiery server ではキャリブレーションターゲットが出力プロファイルとは別に保存されることを示しています。この場合は、D-Max 値をキャリブレーターで表示して調整することができます。

**警告** 最高濃度値（D-Max 値）を変更することはできますが、D-Max 値は表示し確認するだけにしておくことをお勧めします。キャリブレーションターゲットは、キャリブレーションの理想的な値を表し、出力プロファイルはその値を含んでいます。キャリブレーションターゲットの値は、特に理由がない限りは変更しないでください。

6 テストページを印刷します（オプション）。

7 操作が終了したら、**保存**をクリックし、新しいプロファイル用の名前を入力します。

**注意** 新しいプロファイル用の名前を入力しない場合は、編集済みのプロファイルがオリジナルを上書きしてしまいます。ロックアイコンの付いたプロファイルを編集して保存する場合は、それをコピーとして保存することしかできません。ロックアイコンの付いたプロファイルを上書きすることはできません。

## Fiery Profile Editor でプロファイルを編集する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Editor を使用して出力プロファイルを編集することができます。Profile Editor を使用すると、レンダリングインテント、CMYK 濃度曲線などの全体的なカラー機能を調整できるだけでなく、特定の色相、カラー、またはプロファイル全域の中の特定のデータ点を調整することもできます。

1 「デバイスセンター」のリソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。

2 出力プロファイルを選択して、**編集**をクリックし、Fiery Profile Editor を選択します。

「Fiery Profile Editor」を使用したプロファイルの編集の詳細については、Profile Editor 画面上のヘルプアイコンをクリックしてください。

## テストページを印刷する

Color Editor でプロファイルを編集した後、編集前後の画像を示すテストページを印刷できます。テストページは、独自のサンプル画像、または Fiery server で提供される比較ページのどちらかです。

## 比較ページを印刷する

Fiery server が提供する比較ページを印刷することができます。比較ページには、プロファイル編集を行った場合と行わなかった場合で、印刷される画像やカラーパッチの違いが表示されます。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、編集をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、Color Editor を選択します。
- 3 Color Editor で、印刷テストをクリックします。
- 4 比較ページを選択し、用紙サイズと給紙トレイについて必要な設定を選択して、印刷をクリックします。

## サンプル画像を印刷する

サンプル画像を作成してテストページを印刷することができます。サンプル画像ページは、待機キューにあるユーザー定義の CALIB.PS ファイルです。

- 1 グラフィックアプリケーションで、サンプル画像として使用するファイルを作成します。
- 2 サンプル画像を「CALIB.PS」の名前で、PostScript または EPS ファイル形式で保存します。
- 3 Command WorkStation で、ファイルを Fiery server の待機キューにインポートします。
- 4 ジョブセンターで、CALIB.PS ジョブをダブルクリックし、ページの印刷に使用するジョブのプロパティを設定します。
- 5 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 6 プロファイルを選択し、編集をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、Color Editor を選択します。
- 7 Color Editor で、印刷テストをクリックします。
- 8 サンプル画像ページを選択し、印刷をクリックします。

## Calibrator 3

Fiery 搭載プレスおよびプリンターには異なるタイプがあります。レーザーまたはインクジェット、モノクロ、CMYK または拡張色域、特殊インクの有無などです。Calibrator は、各テクノロジーのさまざまなキャリブレーションニーズに対応できるように設計されています。

Command WorkStation および Fiery Color Profiler Suite は、システムに最適なバージョンの Calibrator を自動的に起動します。Calibrator は、接続している Fiery server に合わせて自動的に設定されます。すべてのプレスにすべての機能が必要なわけではありません。たとえば、ほとんどのレーザープリンターでは、個々のインクのトナー量を制限する必要はありませんが、インクの場合は様々なサブストレートによるインク吸収率の変動がトナーの場合よりはるかに大きくなるため、インクプレスではこの設定が必要となります。

ほとんどの Fiery 搭載モノクロプレスおよび CMYK プレスは濃度測定値を使用してキャリブレーション CMYK + は通常、L\*a\*b\*測定値を使用してキャリブレーションされます。

Calibrator を使用すると、Fiery server で新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定をアップデートできます。

Command WorkStation の Calibrator と同様に、Fiery Color Profiler Suite の Calibrator では、新しいキャリブレーション設定を作成したり、既存の設定の再キャリブレーションを行うことができます。ただし Command WorkStation で使用できないさまざまな測定器のサポートが必要です。

Calibrator の 2 つの主な機能は次のとおりです。

- **再キャリブレーション** - キャリブレーションを新しい測定値でアップデートします。多くのプレスの出力は時間によって変化します。Fiery server でこのような変動を補正するには、補正テーブルを新しい測定値でアップデートする必要があります。
- **キャリブレーションの作成** - 新しいキャリブレーションを作成します。Fiery Color Profiler Suite がインストールおよびライセンスされている場合は、新しいプロファイルを作成します。このタスクが必要になるのは、特定の印刷条件（インクセット、ハーフトーン、サブストレートなどの組み合わせ）の場合に既存のキャリブレーションで容認できる出力が得られない場合です。たとえば、グラデーションやインクの付着が悪いといった場合です。カラー管理で正確なカラーを実現するため、多くの場合、新しいキャリブレーションでは新しいプロファイルが必要です。

ウィンドウの左下にある 2 つのアイコンから、2 つの管理機能にアクセスできます。これらの設定は、個々の Fiery server に固有のもので、それぞれのサーバーに保存されます。これらはすべてのユーザーに影響するため、次の機能は Command WorkStation から Fiery システム管理者としてログインした場合にのみ使用できます。

- **Calibrator 設定** - 各プレスの環境設定に使用します。ここでは、一部のプレスモデルで使用可能なキャリブレーション前およびキャリブレーション後の設定を指定できます。また、すべてのモデルでは、システム管理者が指定した時間内に適用可能なキャリブレーションが再キャリブレーションされていない場合に、警告を表示したり、さらにはジョブの印刷を防止したりすることもできます。
- **キャリブレーションマネージャー**は、Fiery server で使用可能なキャリブレーションを表示するために使用されます。最新のアップデート日や測定値やプロパティが表示されます。ユーザーが追加したキャリブレーションは削除でき、その名前も変更できます。

接続されている Fiery server の Calibrator は、次のワークフローで使用できます。Calibrator 3 では、従来の CMYK 製品とキャリブレーションセットを使用して、濃度ベースのキャリブレーションワークフローを自動

的に選択します。Calibrator 3 は、展開されたインクセットで面付けされるときにはいつも、L\*a\*b\* ベースのキャリブレーションワークフローに従います。

- [濃度ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (112 ページ)
- [L\\*a\\*b\\*ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (124 ページ)
- [インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (136 ページ)

## 分光測色計を使用してパッチを測定する

分光測色計を使用して、手動でカラーパッチを測定します。

分光測色計は、以下の手順で使用します。

- 分光測色計をキャリブレーションします。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページを測定します。
- 測定値を表示および保存します。

Fiery Calibrator は通常、次のような EFI ブランド測定器を標準サポートしています。

- EFI ES-2000
- EFI ES-3000

その他のタイプの測定器の中には、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものもあります。

## 分光測色計のキャリブレーション

分光測色計のキャリブレーションを行ってキャリブレーションページの測定に備える

ドックの白色タイルと測定器のアパーチュアが両方とも汚れていないことを確認してください。白色タイルにカバーがかけられている場合は、必ずカバーを開けてください。

白色点キャリブレーションを使用し、分光測色計の時間の経過に伴う測定の変動を調整します。分光測色計をドックに設置し、サンプルアパーチュアがキャリブレーションドックの白色タイルに完全に接触するようにしてください。キャリブレーションドックに正しく配置しないと、分光測色計は正確な測定を行うことができません。

正確なキャリブレーションを行うには、分光測色計のシリアル番号とドックのシリアル番号が一致している必要があります。

- 1 キャリブレーションページを印刷後、分光測色計をキャリブレーションドックに配置します。
- 2 続行をクリックするか、分光測色計のボタンを押します。

分光測色計のキャリブレーションが成功したら、キャリブレーションページの測定に進みます。

## キャリブレーションページの測定

分光測色計を使用し、パッチの各ストリップを順番にスキャンすることによって、カラーパッチを測定します。

ストリップのスキャンが正しく行われると、ディスプレイインジケーターが緑に変わり、画面の矢印が次のストリップに移動します。ストリップのスキャンが正常に完了しない場合、ディスプレイインジケーターは赤色で表示され、再試行を指示するメッセージが表示されます。

- 1 正確な測定結果を得るには、キャリブレーションページの下に白い紙を数枚敷くか、使用可能な場合は、板を当てます。
- 2 ストリップが水平で、スキャン方向が左から右になるように、キャリブレーションページの方向を調整します(スキャン方向は、画面またはキャリブレーションページのストリップの端に矢印で示されています)。
- 3 分光測色計をスキャン方向に対して垂直に持ち、サンプルアパーチュアの先端を、指定したストリップの開始地点にある白いスペースに配置します。
- 4 分光測色計のボタンを押したままにして、信号(画面上のメッセージまたはビープ音)を待ちます。
- 5 信号を確認したら、ゆっくりとした一定の速さで分光測色計をストリップの上でスライドさせます。
- 6 1つのストリップをスキャンするには、約5秒かかります。
- 7 ストリップ内の全パッチをスキャンし、ストリップの端の白い部分まで来たら、ボタンから指を離します。
- 8 画面に表示した順番で、すべてのストリップに同じ手順を繰り返します。  
モノクロプリンターの場合、ストリップは1つです。
- 9 全ストリップのスキャンが完了したら、**続行**をクリックして、測定結果を確認します。

## 濃度ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションを行う際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトで様々なカラー(または白黒プリンター用グレースケール)のパッチを含みます。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。  
プリンターからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー(キャリブレーションターゲット)で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

## タスクの選択

キャリブレーターを起動すると、Fiery server 用に新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートできます。

- 1 キャリブレーターを起動します。
- 2 Fiery server からキャリブレーターを開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバーの選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
  - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
  - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

**メモ：**選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

## サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery server やプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

- 1 任意のキャリブレーション名を入力します。

**メモ：**キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。
- 2 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。
  - CMYK
  - CMYK + N

**メモ：**ここで、N はプリンターにライセンスされている追加カラーモードです。
- 3 オプション：G7 グレーバランスキャリブレーションターゲットチェックボックスを選択します。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

**メモ：**G7 グレーバランスを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしライセンスを取得する必要があります。そうしないと、オプションはグレー表示されています。



- 4 オプション：コメントフィールドに、用紙名、用紙の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

**メモ：**キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要な用紙の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することをお勧めします。

- 5 オプション：次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのもので、必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。
- 6 次へをクリックします。

## G7 キャリブレーションのワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery server プロファイリング測定パッチのキャリブレーションと印刷を行います。

G7 キャリブレーションはキャリブレーションの Fiery server 上部に適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット (P2P ターゲット) の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。任意の対応測定器で測定することができます。

- 1 パッチレイアウトウィンドウで、使用するパッチセットを次から選択します。

- P2P51 (新しいターゲット、オリジナルのリビジョン)
- P2P25Xa (オリジナルのターゲット)
- P2P51 ランダム
- P2P51 ランダム 2-up (カットシートトナープレスに推奨)

**メモ：**ターゲットで実際に使用される値は同じですが、新しいバージョンは、G7 仕様のより正確なバージョンです。

- 2 印刷をクリックしてパッチページを測定します。

- 3 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a^*b^*$  としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

- 4 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

- 5 OK をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

- 6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

- 7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、次へをクリックします。結果が失敗の（赤で強調表示されている結果）場合は、**反復** をクリックして処理を繰り返します。G7 準拠に合格するために処理を2~3回繰り返す必要があることもまれではありません。

## キャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、まずキャリブレーション設定（カラープリンター）、給紙方法、測定方法を指定します。

**メモ：**分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

- 特定のジョブに対してキャリブレーションを開始すると、ジョブの印刷に使用されたキャリブレーション設定のみが表示されます。複数のキャリブレーション設定は、通常、用紙種類の混合ジョブで使用されません。

選択したキャリブレーション設定に関連付けられている最新のキャリブレーション測定の推奨用紙および日時が表示されます。日付と時刻が表示されない場合は、Fiery server がキャリブレートされていないことを示します（このキャリブレーション設定の場合）。

- 給紙トレイには、キャリブレーション設定に合った適切な用紙が含まれていることを確認してください。給紙方法設定で警告メッセージが表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。他のキャリブレーション設定を選択するか、他の給紙方法を選択してください。

お使いの用紙と完全に一致するキャリブレーション設定がない場合は、似た用紙で利用可能な設定を試すことができます。満足できる結果が得られない場合は、用紙に合わせて新しいキャリブレーションとプロファイルを作成する必要があります。

- 1 次のオプションを設定します。

- カラープリンターの場合、キャリブレートリストでキャリブレーション設定を選択します。
- 給紙方法リストから、使用する給紙トレイを選択します。
- 測定方法リストで方法を選択します。

キャリブレーターは、複数の種類の分光測色計（EFI ES-3000 や X-Rite i1Pro3 など）をサポートしています。

選択した機器を使用したキャリブレーションで測定オプションを使用できる場合、測定器の近くに**設定**ボタンが表示されます。

その他のタイプの測定器の中には、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものもあります。

- 2 **続行** をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定手順に進みます。

## キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite がキャリブレーターと同じコンピューターにインストールされ、ライセンスされている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する際、分光測色計が測定方法として自動的に選択されます。ColorCal はカラリメトリック測定デバイスを使用しないため、測定方法としては使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。


新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足いく結果を得られない場合があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。
  - 新しいカスタム出力プロファイルを作成すると、プロファイリング用測定ページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery server にインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。
- 1 Fiery server 上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。  
キャリブレーターが出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。
  - 2 テスト ページをクリックします。  
テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
  - 3 Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、新規プロファイル作成をクリックして、新しいカスタム出力プロファイルを作成します。

## 測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されます。

- 1 キャリブレーションマネージャー で、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線を表示または非表示にするには、 該当するラベルの横のアイコンをクリックします。
  - 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
  - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
  - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

**メモ：** Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、キャリブレーターで G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的なものです。

- 3 オプション：測定値の保存 をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 テストページを印刷するには、テストページをクリックします。  
テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を既存の出力プロファイルに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 5 オプション：最新の測定結果で得られた結果が満足のいくものでない場合は、デフォルト測定値にリセットをクリックして、キャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

## テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。また、オプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む2番目のコピーも印刷できます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 テストページをクリックします。
- 6 給紙方法を選択し、印刷をクリックします。  
必ず、キャリブレーションと互換性のある用紙のトレイを選択してください。

## キャリブレーターテストページ

テストページを使用すると、現在のキャリブレーションとデフォルトのキャリブレーションで生成された出力を検証できます。デフォルトのキャリブレーションは、キャリブレーション設定の作成時に取得された測定データを使用して印刷されます。

テストページに含まれる一部の画像が満足のいく状態に表示されない場合は、キャリブレーション設定に関連付けられている出力プロファイルが用紙設定および印刷設定に適合していない可能性があります。

## 測定データをエクスポートする

カラープリンターの場合は、特定のキャリブレーション設定の測定データを.cm0 ファイルにエクスポートできます。

- 1 測定データをエクスポートするには、次のいずれかを行います。
  - キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
  - Command WorkStation で、サーバー> デバイスセンターをクリックします。一般で、ツール、キャリブレーターをクリックしてキャリブレーションマネージャーを開きます。

- 2 キャリブレーション設定を選択し、測定値を表示をクリックします。  
また、新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定した後で測定値の表示を開くこともできます。
- 3 測定値をエクスポートをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、必要に応じてファイル名を変更して保存をクリックします。

## 測定データのリセット

特定のキャリブレーション設定の測定データを、デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回測定データ）にリセットできます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータに設定されている場合は、使用できません。

## カラープリンターの測定データをリセットする

カラープリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つ以上存在する可能性があります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセットをクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

## キャリブレーターの環境設定

環境設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

**メモ：**環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

- Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- キャリブレーターウィンドウで、画面の左下隅にある設定（ギア）アイコンをクリックします。

## キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションに時間制限を設定した場合、期限切れのキャリブレーションにより Command WorkStation では状況メッセージが表示され、ジョブが一時停止される可能性があります。

Command WorkStation では、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが30分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合にジョブの印刷を試みると、Fiery server はジョブを一時停止させます。ジョブは印刷されず、一時停止の状態です印刷中キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止されません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレーションを行うことをお勧めします。

一時停止状態のジョブを再確認してから、以下のいずれかを行うことができます。

- Fiery server をキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を開きます。キャリブレーションの測定値を更新した後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 「期限切れ」のキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

### キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブのタイプ

Fiery server は、次のジョブに対して、キャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE によってアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF ジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）。

Fiery server ではキャリブレーションが期限内であるか検出できず、次のジョブについてはジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PDL ジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また Fiery server は、「強制印刷」コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーション状況を確認しません。「強制印刷」コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できない）のために一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーション状況は確認できません。

### キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止を設定する

キャリブレーションの時間制限を設定し、キャリブレーションの制限時間が経過した場合に Command Workstation でジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

- キャリブレーションの「環境設定」ダイアログボックスで、次のいずれか操作を実行します。
  - 有効期限を設定するには、時間制限を設定してジョブセンターに状況を表示するを選択して、時間（1～23 時間、または 1～200 日）を指定します。
  - ジョブの一時停止を有効にするには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。

## キャリブレーション設定

Fiery server がカラー印刷をサポートしている場合は、複数のキャリブレーション設定にアクセスできます。通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは、特定の用紙および印刷条件に適しています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

特定の出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定を確認するには、Command WorkStation のプロファイル設定を確認してください。

### キャリブレーション設定の測定データを表示する

特定のキャリブレーション設定でキャリブレーションを行うと、測定データが保存されます。測定データは、キャリブレーションターゲットデータと共にグラフに表示することができます。それによって、測定したプリンター出力とキャリブレーションターゲットの一致の程度を確認できます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。
- 5 測定値の表示 をクリックします。

### キャリブレーションターゲットを編集する

特定のキャリブレーション設定に関連付けられているキャリブレーションターゲットの最大濃度 (D-Max 値) は、キャリブレーション設定の作成時に編集できます。インク/トナー (C、M、Y、K) ごとに新しい値を入力するか、ファイルからキャリブレーションターゲットをインポートできます。

編集されたターゲットデータは、現在の測定データを適用する際に、このキャリブレーション設定に現在関連付けられているターゲットデータを上書きします。

この Fiery サーバーで使用する既存のプロファイルとキャリブレーションターゲットが別の Fiery サーバーにある場合は、ファイルからターゲットデータをインポートします。ただし、最良の結果を得るには、この Fiery サーバーおよびそのプリンター専用で作成したプロファイルとキャリブレーションデータを使用します。

最大濃度値は編集できますが、編集の際は注意が必要です。キャリブレーションターゲットはキャリブレーションの理想的な値を表しており、不必要に変更しないでください。

- 1 新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定できたら、測定値の表示をクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ターゲットに D-Max 値の新しい値を入力します。
  - ターゲットインポートをクリックし、ファイルの場所を参照してファイルを選択し、開くをクリックします。  
単調な測定値を含んだファイルのみ、インポートされたターゲットとして許容されます。

3 キャリブレーション設定の作成を続行します。

## 再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータが得られたら、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようにアップデートされます。

- 1 開始 キャリブレーター。
- 2 キャリブレーターを Fiery Color Profiler Suite から開始した場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーの選択をクリックし、リストから Fiery server を選択します。Fiery server が一覧にない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
  - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションを更新します。
  - キャリブレーションを作成：Fiery server 上でのカラー動作または新しい印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

## サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。
- 2 次へをクリックします。

## 測定用のキャリブレーションページを印刷する

再キャリブレーション用にキャリブレーションページを印刷する場合は、測定方法、パッチセット、給紙方法を指定します。

**メモ：**分光測色計をキャリブレートして、キャリブレーションページの測定準備を行います。



1 パッチレイアウトウィンドウで、以下のオプションを設定します。

- 測定方法リストから測定器を選択します。
- パッチセットリストからパッチセットを選択します。
- 給紙方法リストから目的の給紙方法を選択します。

**メモ：**給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。給紙方法の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。別のキャリブレーション設定を選択するか、別の給紙方法を選択することができます。

2 次へをクリックし、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

## キャリブレーション結果を表示する

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ターゲット」が生成されます。

ターゲットとは、定義した印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレートする場合は、指定されたキャリブレーション設定の元のターゲットをプリンターがまだ実行しているかを、再キャリブレーションの結果で確認するようにします。


**メモ：**ファイルから測定値をロードを使用する場合は、表示されるオプションが少なくなります。

- 1 印刷テストをクリックします。テストページを印刷すると、現在のキャリブレーション設定を使用するか、新しい設定を作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 2 オプション：印刷テストの横の下矢印を選択し、デフォルトキャリブレーションを使用を選択して、比較のためにデフォルト測定値を使用して印刷テストを行います。
- 3 次のいずれかを行います。
  - 適用/閉じる をクリックして、キャリブレーション設定を保存します。
  - キャンセル をクリックして、再キャリブレーションをキャンセルします。このアクションを実行すると、キャリブレーション設定は更新されません。

## キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション設定**：サーバー内の完了したキャリブレーションの名前別一覧表。
- **最終キャリブレーション日時**：最後にキャリブレーションを行った日時。
- **カラーモード**：キャリブレーション設定に使用されるカラーモード。

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示強調**表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。  
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**選択したキャリブレーションセットを除去します。  
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

## キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。


キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 **キャリブレーションマネージャー**で、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 2 以下の設定を指定します。
  - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
  - **コメント** - （オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

## 測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線を表示または非表示にするには、該当するラベルの横のアイコンをクリックします。
  - 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
  - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
  - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

**メモ：** Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、キャリブレーターで G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的なものです。

- 3 オプション：測定値の保存をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 テストページを印刷するには、テストページをクリックします。  
 テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を既存の出力プロファイルに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 5 オプション：最新の測定結果で得られた結果が満足のいくものでない場合は、デフォルト測定値にリセットをクリックして、キャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

## L\*a\*b\*ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションを行う際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。  
 プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する  
 測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

## タスクの選択

キャリブレーターを起動すると、Fiery server 用に新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートできます。

- 1 キャリブレーターを起動します。
- 2 Fiery server からキャリブレーターを開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバーの選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
  - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
  - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

**メモ：**選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

## キャリブレーター環境設定を設定する

Command WorkStation から開くときは、選択した Fiery server の一般的な環境設定をキャリブレーターで設定できます。

- 1 キャリブレーターウィンドウで、画面の左下隅にあるギアアイコンをクリックして、キャリブレーター設定ウィンドウを開きます。
- 2 プリンター機能が表示されている場合は、選択を行います。  
プリンター機能に表示されるオプションは、接続している Fiery server によって異なります。
- 3 キャリブレーション状況には以下を指定します。
  - 新しいキャリブレーションが必要になるまでの日数または時間数を指定します。キャリブレーション状況はジョブセンターに表示されます。  
指定する数は、印刷するジョブの種類や、プリンターの安定性および環境によって異なります。Fiery server をカラー重視のアプリケーションに使用する場合は、1日1回以上の頻度を選択します。Fiery server をEメールのような基本書類の印刷に使用する場合は、それより低いキャリブレーション頻度でもかまいません。
  - 新しいキャリブレーションが完了するまで印刷ジョブを停止するには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。
- 4 環境設定を元のデフォルトにリセットするには、出荷時のデフォルトをクリックします。
- 5 保存をクリックして、環境設定を保存します。

## サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery server やプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

**メモ：**キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

**メモ：**ここで、N はプリンターにライセンスされている追加カラーモードです。

3 オプション： G7 グレーバランスキャリブレーションターゲットチェックボックスを選択します。

G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

**メモ：**G7 グレーバランスを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしライセンスを取得する必要があります。そうしないと、オプションはグレー表示されています。

4 オプション： コメントフィールドに、用紙名、用紙の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

**メモ：**キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要な用紙の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することをお勧めします。

5 オプション： 次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。

6 次へをクリックします。

## チャンネルごとのインクリミット測定値の取得

キャリブレーションのために取得した測定値により、各チャンネルで推奨されるインクリミットが提供されます。パッチページでチャンネルあたりのインクリミットを測定します。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

**メモ：**テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

## 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

## チャンネルごとのインクリミットの設定

チャンネルごとのインクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

各チャンネルごとに、インクリミットが表示されます。

スライダを表示するには、各チャンネル名の隣にある矢印をクリックします。インクリミットを変更するには、スライダを動かします。

次へをクリックしてリニアリゼーションを測定します。

## リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

### 1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

**メモ：**テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

## 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

**メモ：**再キャリブレートしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

## 合計インクリミット測定値の取得

合計インクリミット測定値は、プリンターが用紙で対応可能な量以上のインクを使用しないように、または目的のジョブに必要な以上のインクを使用しないようにするのに役立ちます。

### 1 合計インクリミットを指定するには、次のいずれかを選択してください。

#### • 測定チャートを印刷

表示されている初期のインクリミットは、プリンターで推奨されているデフォルト値です。新しい値を入力して推奨値を上書きし、チャートを印刷します。印刷しようとしているチャートには、この値より多くのインクを指定するパッチは含まれません。

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従ってパッチページの印刷および測定を行い、実際の用紙の種類に合わせて最適化された値がシステムにより推奨されるようにします。パッチページを印刷する前に、選択したパッチ測定器の設定を変更し、チャートのカスタム用紙サイズを指定できます。

#### • 数値を入力

表示される値はプリンターで推奨されているデフォルト値で、追加測定は必要ありません。この値は特定の用紙に合わせて最適化されません。設定が高すぎる場合、用紙はインクの多さに対応できない可能性があります。設定が低すぎる場合、特定の用紙でプリンターの色域が制限されています。

#### • ファイルから測定値をインポート

**メモ：**テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択すると、以前に保存された測定データから値が読み込まれます。

このオプションを選択する場合は、カラーベンチマークの測定値の取得に進みます。

## 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

## 合計インクリミットの設定

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくつかの調整を行うことができます。

### 1 次のいずれかを選択します。

- 測定結果を使用

表示される値はプリンターで推奨されている値です。この値は最新の測定値から計算されます。

- 数値を入力

表示される値はプリンターで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- 印刷されたビジュアルチャートから値を選択

このオプションでは、測定チャートを印刷するときにビジュアルチャートを含めるを選択したかどうかのみが表示されます。表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプリンターで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出ることが許可されている場合、用紙を浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

### 2 次へをクリックします。

## G7 グレーバランスの測定値を取得する

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

### 1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート



**メモ:** テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

## 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

## G7 グレーバランスの測定結果の概要

G7 グレーバランス測定値の概要を表示します。

### 1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a*b^*$ としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

- 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。
- 戻るをクリックして、初回の測定値を破棄します。
- 反復をクリックし、処理を繰り返します。

## 修正オプション

出力補正曲線を確認します。

### 1 さまざまな補正オプションを設定できます。

- グレーバランスのフェード: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用されたグレーバランス補正を低減させます。
- 色調調整のフェード: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用された色調調整を低減させます。
- フェード調整値: 指定したパーセントドット値を上回る色調調整やグレーバランスを低減させます。
- スムージング追加: ノイズが発生するまたは不規則なキャリブレーションデータでキャリブレーション曲線を滑らかにします。

### 2 変更を承諾するには OK、デフォルト値に戻すにはデフォルトを選択します。

## G7 グレーバランスの測定結果

G7 グレーバランス測定値の結果を表示します。

### 1 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a^*b^*$ としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

### 2 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

### 3 反復をクリックして、その G7 キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

### 4 戻るをクリックして、反復測定値を破棄します。

### 5 その結果を容認できる場合には、承認をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

## カラーベンチマーク測定値の取得

これらの最終測定値により、プリンターのターゲットにする色域が確立されます。

### 1 次のいずれかを選択します。

#### • 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

#### • ファイルから測定値をインポート

**メモ:** テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

### 2 次へをクリックします。

## カラーベンチマークの設定

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー マネジメントするために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

## 出力プロファイルの設定

Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。
  - a) 出力プロファイル作成を選択します。
  - b) 次へをクリックします。

完了したキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが Fiery Printer Profiler により作成されます。

あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

    - a) キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成を選択します。
    - b) 完了をクリックします。

キャリブレーションは Command WorkStation Profile Manager で表示可能な一時出力プロファイルとともに保存されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

## 再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータが得られたら、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようにアップデートされます。

- 1 開始 キャリブレーター。
- 2 キャリブレーターを Fiery Color Profiler Suite から開始した場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーの選択をクリックし、リストから Fiery server を選択します。Fiery server が一覧にない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
  - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションを更新します。
  - キャリブレーションを作成：Fiery server 上でのカラー動作または新しい印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 次へをクリックします。

## サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレーションを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 次へをクリックします。

## リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

**メモ：**テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

**メモ：**再キャリブレーションしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

## キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

## キャリブレーションの検証

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー マネジメントするために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

1 結果を表示します。

カラーベンチマークとキャリブレーションされた結果を比較することができます。また、各チャンネルアイコンの隣にある眼のアイコンをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

2 適用して閉じるをクリックし、キャリブレーションセットをプリンターに適用してキャリブレーターを閉じます。

## キャリブレーションの適用準備ができています

測定値のセットがある場合、キャリブレーションの適用準備ができています。キャリブレーションの検証を行うか、プリンターへのキャリブレーション設定の適用を行うかを選択できます。


- 検証をクリックし、オンライン指示に従います。

プリンターのキャリブレーションを検証すると、キャリブレーションされた状態が、現在のキャリブレーション設定のカラーベンチマークにどれほど近いかを比較できます。

## キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション設定**：サーバー内の完了したキャリブレーションの名前別一覧表。
- **最終キャリブレーション日時**：最後にキャリブレーションを行った日時。
- **カラーモード**：キャリブレーション設定に使用されるカラーモード。

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示強調**表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。  
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**選択したキャリブレーションセットを除去します。  
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

## キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 2 以下の設定を指定します。
  - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
  - **コメント** - （オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

## 測定値の表示

L\*a\*b\*測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定のキャリブレーション設定の測定データをデフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータになっている場合には使用できません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。キャリブレーションの詳細が表示されます。
- 2 キャリブレーションデータをリセットするには、デフォルト測定値にリセットをクリックします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

## インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。  
プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する  
測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

## Fiery サーバーを選択する

Calibrator を起動して、Fiery server 用の新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートします。

- 1 Calibrator を起動します。
- 2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバー選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
  - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
  - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

#### 4 次へをクリックします。

**メモ：**選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

## サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。

#### 1 任意のキャリブレーション名を入力します。

**メモ：**キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

#### 2 次へをクリックします。

## キャリブレーション設定

キャリブレーションページを印刷する場合は、必要に応じて、使用するインク、プリセット、その他の詳細を指定して、キャリブレーション設定を指定します。

#### 1 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

**メモ：**N はここではプレスでライセンスされている追加カラーモードです。

#### 2 サーバープリセットを選択します。

カラーモード、サブストレート、解像度など、選択したサーバープリセットに関する情報が表示されます。

#### 3 オプション：新規プリセットを作成するには、設定 をクリックして、サーバープリセットのジョブのプロパティを指定します。

サブストレートカタログのサブストレートと、ジョブのプロパティウィンドウの用紙タブのサイズ ID からサブストレートサイズを定義することが重要です。

カラー設定は、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで指定できます。カラーモードと出力プロファイルは、キャリブレーション設定によって上書きされます。

解像度は、ジョブのプロパティウィンドウの画像タブで指定できます。



- 4 オプション：予備インク値を適用 チェックボックスを選択し、設定をクリックしてインク限度を定義し、OKをクリックします。  
リンクをクリックしてすべてのインク制限をリンクし、1つのインク値のみ変更できます。サブストレートのインクの100%のみに問題が発生している場合は、このオプションを使用してください。それ以外の場合はこの手順は省略します。オプションを使用して再印刷します。  
リセットをクリックするとデフォルト値に戻ります  
**メモ：**Fiery server がライトインクをサポートしている場合、通常のインク制限に応じて、ライトのインク制限が自動的に計算されます。
- 5 ページの印刷をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

### 測定用のキャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、測定器とチャートサイズを指定します。

**メモ：**分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

- 1 パッチレイアウトウィンドウで、以下のオプションを設定します。
  - 測定器を計器リストで選択します。
  - チャートサイズリストでパッチページサイズを選択します。  
カスタムをクリックして、カスタムパッチページサイズを指定します。
- 2 印刷をクリックしてパッチページを印刷し、測定に進みます。  
画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

### インクコントロールの設定

パッチを測定した後、プレスをリニアリゼーションする際に適用されるインク使用量とインク消費量を表示できます。

また、各カラーチャンネルのタブをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

- 1 オプション：表示される設定のインク使用値を指定します。  
リセットをクリックして元のインク値に戻します。
- 2 次へをクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

## リニアリゼーションの合計インク制限を設定する

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

1 次のいずれかを選択します。

- 合計インク制限の値を選択します。

表示される値はプレスで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- 印刷されたビジュアルチャートから値を選択します。

表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプレスで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出るものが許可されている場合、サブストレートを浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

2 オプション：ビジュアルチャートを印刷します。

FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。印刷をクリックして続行します。

3 ベンチマークを印刷をクリックします。

[ここで](#)、合計インク制限を設定する方法についてのビデオをご覧ください。

## キャリブレーションの概要

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプレスで期待されるカラー出力です。プレスを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プレスが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

## 出力プロファイルの設定

Fiery Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。

a) 出力プロファイル作成を選択します。

b) 次へをクリックします。

Fiery Printer Profiler により、完了したばかりのキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが作成されます。

あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

a) キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成を選択します。

b) 完了をクリックします。

キャリブレーションは Command WorkStation で表示可能な一時出力プロファイルとともに保存されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

## 再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

**メモ：**再キャリブレーションは、ライトインクやインクが重複しないプレスでのみ使用できます。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバー選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 次へをクリックします。

**メモ：**選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプレスによって異なります。使用しているプレスのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

## サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレーションを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプレスではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

- 2 オプション：次へのボタンで下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プレスの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプレスで印刷して測定することをお勧めします。
- 3 次へをクリックします。

## リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プレスの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

**メモ：**この手順は、ライトインクおよびインクの複製がないプレスに適用されます。

- 1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

**メモ：**テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プレスの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

- 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

**メモ：**再キャリブレーションしている場合は、キャリブレーションの作成時に使用されたサブストレートの種類とよく似た種類のサブストレートを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

## キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

## キャリブレーションの検証

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプレスで期待されるカラー出力です。プレスを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プレスが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

1 結果を表示します。

カラーベンチマークとキャリブレーションされた結果を比較することができます。また、各チャンネルアイコンの隣にある眼のアイコンをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

2 適用して閉じるをクリックし、キャリブレーションセットをプレスに適用して Calibrator を閉じます。

## キャリブレーションの適用準備ができている

測定値のセットがある場合、キャリブレーションの適用準備ができています。キャリブレーションの検証を行うか、プレスへのキャリブレーション設定の適用を行うかを選択できます。


- 検証をクリックし、オンライン指示に従います。

プレスのキャリブレーションを検証すると、キャリブレーションされた状態が、現在のキャリブレーション設定のカラーベンチマークにどれほど近いかを比較できます。

## キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション設定**：サーバー内の完了したキャリブレーションの名前別一覧表。
- **最終キャリブレーション日時**：最後にキャリブレーションを行った日時。
- **カラーモード**：キャリブレーション設定に使用されるカラーモード。

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示強調**表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。  
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**選択したキャリブレーションセットを除去します。  
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

## キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 2 以下の設定を指定します。
  - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
  - **コメント** - （オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

## 測定値の表示

DeltaE 測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定のキャリブレーション設定の測定データをデフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータになっている場合には使用できません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。キャリブレーションの詳細が表示されます。
- 2 キャリブレーションデータをリセットするには、デフォルト測定値にリセットをクリックします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

## Spot Pro のスポットカラー

Spot Pro は、スポットカラーの作成、管理および編集を行うための包括的なプログラムです。Spot Pro を使用して、Fiery server でスポットカラーの定義を編集したり、カスタムスポットカラーの定義を作成したりすることができます。スポットカラーは、Spot Pro 機能の一部です。お使いの Fiery server で Spot Pro が使用可能であり、有効になっている場合は、スポットカラーとそれと等価の CMYK 値のリストを調整や管理できます。

Command WorkStation は、すべての主要なスポットカラーメーカーのスポットカラーを自動的に管理する内部スポットカラーライブラリを備えています。不明なスポットカラーが含まれるジョブを Command WorkStation に読み込む場合は、ジョブを正しく印刷する前に定義する必要があります。

Spot Pro は、PANTONE、HKS、TOYO、DIC などから名前付きのカラーの Fiery server ライブラリを事前に読み込みます。スポットカラーライブラリには、オリジナルのスポットカラー値とそれに対応するデバイス独自の定義（L\*a\*b\*値）が含まれています。Fiery server 上の各出力プロファイル用に、Spot Pro は各スポットカラーに最も近い CMYK 値を算出します。新しいプロファイルが生成または更新されるたびに、Spot Pro は同等の CMYK 値を自動的に再計算し、L\*a\*b\*値を変換します。

「代替」カラーのリストを作成できます。このリスト内のカラーが、その RGB 値または CMYK 値で書類内で使用されている場合は、Spot Pro のカラー定義に従って、書類での定義とは異なる CMYK 値のカラーに代替されます。これにより、正確なカラー出力が可能になり、個々の RGB および CMYK カラーが上書きされます。

## Spot Pro を起動する

Command WorkStation のデバイスセンターから Spot Pro を起動できます。

新規または既存のカスタムカラーグループにスポットカラーを追加できます。新しいスポットカラーをシステムグループに追加することはできません。

- 1 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。
  - ジョブセンターで、ツールバーから Spot Pro をクリックします。
  - サーバー Spot Pro > をクリックします。
  - サーバーペインでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
  - デバイスセンターで、リソース > Spot Pro をクリックします。

**メモ:** Command WorkStation における 1 つまたは複数の Fiery servers に接続されている場合は、Spot Pro の 1 つのインスタンスのみを開くことができます。これにより、Command WorkStation のジョブセンターまたはデバイスセンターのジョブを引き続き使用できます。

2 Spot Pro を起動をクリックします。

3 次のいずれかを行います。

- 新しいスポットカラーを作成するには、ツールバーで **新規 > スポットカラー** をクリックします。

Spot Pro は、接続されているプリンターから情報を取得し、その情報を使用して新しいスポットカラーを正確に再現できるかどうかを確認します。

- 既存のスポットカラーグループを開くには、ツールバーの **開く** をクリックし、スポットカラーグループを参照します。Spot Pro は、Adobe Swatch Exchange (.ASE)、CXF、ICC および ICM のファイルフォーマットでスポットカラーをインポートできます。

**メモ:** macOS Mojave 10.14 の場合は、**オプション** をクリックし、ファイルフォーマットを選択して開きます。

同じスポットカラーの複数のコピーを含む CXF ファイルをインポートすると、ファイルに重複が含まれていることを示すエラーメッセージが表示されます。スポットカラーの最初のインスタンスのみが使用されます。.CXF ファイルは、ファイルを作成した元のアプリケーション内で修正することができます。

## Spot Pro ワークスペース

メインウィンドウには、スポットカラーグループのリストと、各グループ内の名前付きスポットカラーのリストが表示されます。名前付きスポットカラーを選択すると、スポットカラーのプレビューが表示されます。

Spot Pro メインウィンドウには以下の領域が含まれます。

- Spot Pro グループウィンドウ

スポットカラーグループの順序は、Fiery server のスポットカラーの検索順序を定義します。

Spot Pro カラーグループは、名前、タイプまたはロック状態で自動的に並べ替えられません。

最新のグループがリストの一番上 (または最初) に追加されます。

デフォルトでは、Fiery server は一覧の先頭からカラーを検索し、最初に一致した名前付きスポットカラー定義をジョブに適用します。ジョブのプロパティウィンドウで別のグループを選択して、この検索設定をジョブごとに上書きすることも可能です。

リスト上で各スポットグループを手動で上下に移動させて、カラー検索順序を変更できます。

グループ名を右クリックして、**上へ移動** または **下へ移動** を選択して一度に 1 ステップずつ移動させるか、**最上部に移動** または **最下部に移動** を選択して、検索順序を変更するリストの一番上または一番下にグループ名を移動させることができます。

- Spot Pro カラーウィンドウ

列幅を調整することができます。

最新のカラーがリストの一番上 (または最初) に追加されます。

スポットカラー名を右クリックして、**上へ移動** または **下へ移動** を選択して一度に 1 ステップずつ移動させるか、**最上部に移動** または **最下部に移動** を選択して、検索順序を変更するリストの一番上または一番下にスポットカラー名を移動させることができます。




- **Spot Pro カラープレビューウィンドウ**


選択したスポットカラーのオリジナルスポットカラーと変換したスポットカラーのプレビューが表示されます。

色域警告と $\Delta E$ は、選択したスポットカラーにも表示されます。

オリジナルと変換された  $L^*a^*b^*$ 値は選択した出力プロファイルに基づいて計算されます。

選択したスポットカラーの分解値が表示されます。

スポットカラーを編集するには、編集アイコン (  ) をクリックして **Spot Pro エディター**ウィンドウを開きます。

1つまたは複数のスポットカラーを選択し、複製アイコン (  ) をクリックして **Spot Pro 複製**ウィンドウを開きます。複製されたスポットカラーは全く新しいグループに保存することができます。その場合、新しいグループ名を指定したり、既存のカスタムグループに追加したりすることができます。

- **Spot Pro カラーエディターウィンドウ**

選択したスポットカラーを編集できます。スポットカラーは、選択されている出力プロファイルとバージョンに基づいて  $L^*a^*b^*$ 値、LCH 値、デバイス分解を変更して、編集することができます。

## Spot Pro グループタイプ

**Spot Pro** には、2つのカラーグループタイプ (システムカラーおよびカスタムカラー) と代替カラーグループがあります。

### スポットカラーグループ - システムカラー

システムスポットカラーグループおよびグループ内のすべてのカラーは、ロックされています。編集はできませんが、削除したり名前を変更したりすることはできません。スポットカラーの名前を編集するには、カラーを複製してカスタムスポットカラーグループに保存します。

### スポットカラーグループ - カスタムカラー

少なくとも1つまたは必要な数のカスタムスポットカラーグループを作成できます。

カスタムグループのスポットカラーには編集、コピー、カット、削除などをおこなえます。同じカスタムスポットグループ内のカラーには、一意の名前が必要です。ただし、異なるカスタムスポットカラーグループのカラーに同じ名前がついている場合があります。

### 代替カラーグループ

カスタム代替カラーに代替カラーグループを作成できます。

### 特殊カラーグループ

プリンターでサポートされている特殊カラーによっては、1つ以上の特殊カラーグループがデフォルトで使用できます。

**Spot Pro** には、エイリアス機能を使用して、異なるまたは複数のスポットカラーを1つのスポットカラーにリンクまたは関連付けする別の方法があります。

## Spot Pro カラータイプ

ユーザーが定義した出力プロファイルは、色分解値とカラースウォッチの表示に使用されます。

Spot Pro は、カラーを作成または複製するときに、すべての分解値を自動的に生成します。別の出力プロファイルを選択して、それぞれの分解値を表示したり、1つ以上の出力プロファイルの分解値を変更したりすることができます。また、1つの出力プロファイルの色分解を複数またはすべての出力プロファイルに適用することもできます。

### 1つの出力プロファイルの分解値を他の出力プロファイルに適用する

以下の点に留意してください。

- 分解値を他の出力プロファイルに適用すると、カラーメトリックスポットカラーが正しく再現されないことがあります。
- 分解値が異なる色空間、用紙または素材に適用されると、結果が不正確または望ましくないものになることがあります。

1 Spot Pro で、次のいずれかの操作を行います。

- グループを右クリックし、**適用**を選択します。
- カラーを右クリックまたは **Shift** キーを押しながら複数のカラーをクリックして、**適用**を選択します。
- 出力プロファイルフィールドの隣にある**適用**アイコンをクリックします。

2 分解値を適用する出力プロファイルを選択します。

3 保存をクリックします。

## Spot Pro のカスタマイズ

### Spot Pro 環境設定

Spot Pro の環境設定を行うことができます。

1 Spot Pro 環境設定ウィンドウを開くには、**環境設定**ツールバーアイコンをクリックします。

2  $\Delta E$  許容値を指定します。

3  $\Delta E$  形式を指定します。

- **dE 2000** - CIE が 2000 年に推奨した CIELAB の一種です。この方法では、 $KL = KC = KH = 1.0$  を使用します。
- **dE CIE76** - 1976 年に CIE（国際照明委員会）が規定した、色差を距離で表すための式です。

- dE CMC - 色度と色相に対する明度の相違率（ISO 標準 ISO 105-J03 に基づいて計算）です。明度と色度の加重は、知覚データとともに使用する場合、1.0 です。
  - dE 94 - CIE TC1-29 が色差式として推奨する CIELAB の一種です。グラフィックアートアプリケーションの場合、この方法では  $K1 = 0.045$  と  $K2 = 0.015$  を使用します。
- 4 デフォルトの環境設定を使用するには、工場出荷時のデフォルトをクリックします。

## Spot Pro 列を管理する

システムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーの列見出しをカスタマイズすることができます。これらの列の順序を変更したり、グループ内のスポットカラーに関連する情報を追加/削除したりすることができます。

### 列の表示を変更する

列を追加または削除できます。

- 1 Spot Pro カラーペインで列を右クリックします。
- 2 列のオプションは次のとおりです。
  - システムスポットカラーの場合、カラーズウォッチを表示、Lab（オリジナル）、Lab（変換）、分解または  $\Delta E$  を選択します。
  - カスタムスポットカラーの場合、カラーズウォッチを表示、Lab（保存）、Lab（変換）、分解または  $\Delta E$  を選択します。

**メモ：**  $\Delta E$  列を追加すると、 $\Delta E$  の値が Spot Pro の環境設定ウィンドウで設定されている許容範囲を超えた場合に警告アイコンが表示されます。

**メモ：** パッチ&名前列を削除したり、移動させたりすることはできません。
- 3 メニュー内の項目を選択して、列の追加/削除を行います。

### 列の幅を調整する

Spot Pro 列の幅を変更できます。

- そのためには、列の境界を左または右にドラッグします。

### 列の順序を変更する

Spot Pro 列の幅を変更できます

- 列を右クリックしてその列をドラッグし、Spot Pro カラーペインの列の位置を変更します。
- メモ：** パッチ&名前列を削除したり、移動させたりすることはできません。

## Spot Pro ツールバーアイコン

Spot Pro のツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

新規	<p>現在選択されているグループに応じて、利用可能なオプションと共にサブメニューが表示されます。</p> <p><b>メモ：</b>スポットグループオプションは、システムスポットグループ、カスタムカラーグループ、および代替カラーグループで使用できます。</p>
スポットカラー	<p>現在選択されているスポットカラーグループに新しいスポットカラーを作成します。</p> <p><b>メモ：</b>スポットカラーオプションは、システムスポットグループ、特殊カラーグループ、およびカスタムカラーグループで使用できます。</p>
代替グループ	<p>代替スポットカラーのグループを作成します。</p> <p><b>メモ：</b>代替グループオプションは、システムスポットグループ、特殊カラーグループ、カスタムカラーグループ、および代替カラーグループで使用できます。</p>
代替カラー	<p>現在選択されている代替カラーグループに新しい代替カラーを作成します。</p> <p><b>メモ：</b>代替カラーオプションは、代替カラーグループでのみ使用できません。</p>
削除	<p>選択したカラーグループまたは名前付きスポットカラーをカラーグループから削除します。</p>
印刷/印刷準備完了/印刷キューへ送信	<p>Fiery server に応じて、選択したスポットカラーまたは選択したスポットカラーグループに対し、印刷、印刷準備の完了、印刷キューへの送信を開始できます。</p>
最適化	<p>選択した用紙または素材および出力プロファイルに対して、選択したグループの選択したカラーまたはすべてのカラーを最適化します。</p>
開く	<p>ユーザーが指定した場所からスポットカラーまたはスポットカラーグループを開きます。また、Adobe アプリケーションとの間でカスタムまたはユーザーが作成したライブラリを開くこともできます。</p>
名前を付けて保存	<p>スポットカラーまたはスポットカラーグループを Fiery server からユーザーが指定した別の場所に保存します。また、カスタムライブラリまたはユーザーが作成したライブラリを Adobe アプリケーションに/から保存することもできます。</p>
環境設定	<p>Spot Pro の環境設定ウィンドウを開き、そのウィンドウで<math>\Delta E</math> 許容範囲と<math>\Delta E</math> フォーマットを設定できます。</p>

## スポットカラーを検索する

スポットカラーが存在するさまざまなライブラリを検索してスポットカラーを見つけたり、表示したりすることが容易に行えます。

検索カラーフィールドを使用して、検索基準に基づいて名前付きスポットカラーまたはスポットカラーのリストを検索することができます。スポットカラーの結果は、スポットカラー名の横に小さなスウォッチのあるグループ名の下に表示されます。

## スポットカラーを検索する

カスタムスポットカラーや内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを検索できます。

- 1 **Spot Pro** ツールバーアイコンの隣にある検索カラーフィールドに検索条件を入力します。

名前付きスポットカラーを部分検索できます。たとえば、「レッド」を検索する場合、**Spot Pro** は名前の中に「レッド」のある全てのスポットカラーを検索します。

- 2 **Enter** キーを押すか、虫メガネのアイコン（検索アイコン）をクリックして、指定した検索条件に該当するスポットカラーを検索します。入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

検索条件が3文字未満の場合、検索結果は現在選択されているグループに制限されます。すべてのスポットカラーライブラリを検索リンクをクリックして、すべてのグループを検索することができます。検索条件が3文字以上の場合、すべてのスポットカラーグループ全体で検索が行われます。ページに表示される結果は、一回に500件までに制限されます。

- 3 検索結果でスポットカラーを選択できます。検索用語は、検索カラーフィールドで「X」アイコンが表示されたままになります。

検索カラーフィールドを再度クリックすると、検索結果が再度表示されます。検索の絞り込みまたは一覧から別の結果を選択できます。

- 4 検索を実行した後、現在の検索条件を消去するには、「X」アイコンをクリックして検索フィールドと検索結果を消去します。もしくは、ツールバーアクション、スポットカラーの編集、または**Spot Pro** ウィンドウを閉じるなど、別の主なアクションを選択すると、自動的に検索結果が消去されます。これにより、別の条件で検索することができます。

## スポットカラーを編集する

スポットカラーのL\*a\*b\*値、CMYK値を定義するには、数値を入力するか、カラースウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、または測定器を使用して対象物の色を測定します。

スポットカラーマッチング印刷オプションを選択すると、スポットカラーは自動的にそのスポットカラーに対応する最良のCMYK値またはL\*a\*b\*値に変換され、CMYKのインク/トナーを使用してスポットカラーをシミュレートすることができます。ただし、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るためにデフォルトのCMYK値またはL\*a\*b\*値を調整する必要が出てくる場合があります。**Spot Pro** を使用して、スポットカラーの定義を変更することができます。

システムスポットカラーとカスタムスポットカラーの両方を編集することができます。システムスポットカラーの名前は変更または削除できないことがあります。

**1** 次のいずれかの方法で **Spot Pro** を起動します。

- ジョブセンターのツールバーで **Spot Pro** をクリックします。
- サーバー >> **Spot Pro** をクリックします。
- サーバーウィンドウでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- デバイスセンターのリソースで **Spot Pro** をクリックします。

**2** **Spot Pro** を起動をクリックします。**3** スポットカラーを特定し、編集アイコン (✎) をクリックします。

カスタムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーグループの名前を変更することができます。

**4** 次のいずれか（または複数）の操作を行います。

- **L\*a\*b\***値を直接編集するには、**L\***、**a\***または**b\***フィールドをクリックし、新しい値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。変換したカラーのプレビューがオリジナルの隣に表示されます。

**メモ：****L\*a\*b\***の隣にある矢印をクリックして、編集モードを **CIE LCH** に切り替えて、**LCH** 値を直接編集することができます。**LCH** モードでは、選択したスポットカラーの明度、色相または **Chroma** を変更できます。

- 測定をクリックして **L\*a\*b\***値を測定し、画面の指示に従います。

**Spot Pro** は、**ES-2000** および **ES-3000** の測定器をサポートしています。

- **CMYK** のパーセンテージの値を直接編集するには、**C**、**M**、**Y**、**K** の各フィールドをクリックして新しい値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。変換したカラーのプレビューがオリジナルの隣に表示されます。

分解値は、指定された用紙またはサブストレートの選択された出力プロファイルに基づいて計算されます。これは、スポットティングなどの異物や視覚的な不自然さをなくす場合や、ブラックまたはシアン のドットにより不鮮明になる場合に特に便利です。**CMYK+プロファイル**では、それぞれのインクの色分解を編集できます。たとえば、**CMYKOV** 出力プロファイルが選択されている場合、**CMYK**、オレンジ、バイオレットの色分解値を編集できます。

- スポットカラーを視覚的に編集するには、現在選択されているカラーが **Spot Pro** カラーエディタペインの下部にある中央六角形の中央パッチに反映されます。

多六角形でカラー変更を制御できます。ターゲットカラーがハイライト表示されます。左右の六角形は、彩度または明るさの次のバリエーションを表します。カラーバリエーションの矢印（レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、イエロー）は、中央パッチから色相がシフトする方向を示します。矢印をクリックすると、矢印の方向に対象カラーが移動します。

隣接パッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを弱（より小さなバリエーション）または強（より大きなバリエーション）の方向にスライドさせます。弱または強スライドバーでは、クリックするごとに度合いが変わります。デフォルト設定ではスライドバーは中央に位置します。

**メモ：**特定のカラーを選択すると、! ポイントアイコンが **Spot Pro** カラーエディタウィンドウの右上に表示されます。このアイコンは、1つ以上のインク/トナーがその最大値に達していることを示しています。

- 5 テストページを印刷するには、バリエーションの隣にある矢印をクリックして印刷を選択します。  
バリエーションのパッチレイアウトを選択して、用紙またはサブストレートソースを選択することも可能です。  
モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。
- 6 次のいずれかを行います。
  - 完了をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディタウィンドウを終了します。
  - キャンセルをクリックして編集を中止し、Spot Pro カラーエディタウィンドウを閉じて Spot Pro カラープレビューウィンドウに戻ります。
  - 保存をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディタウィンドウを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。
  - リセットアイコン (↺) をクリックして、オリジナルに表示されるスポットカラーのオリジナルの値に戻します。

## スポットカラーのバリエーション

オリジナルのスポットカラーから、色相や彩度または明度レベルが若干異なる選択したスポットカラーと 20 の隣接カラーを印刷できます。スポットカラーのバリエーションを選択して、ジョブのオリジナルスポットカラーを置き換えることができます。

これはスポットカラーのバリエーションを印刷する際に便利です。L\*a\*b\*色空間の不統一により、 $\Delta E$  が完全に一致しても、ビジュアルが完全に一致するとは限らないためです。ある用紙で正確なカラーに見えるスポットカラーが、別の用紙では明らかに間違ったカラーで出力される場合があります。

スポットカラーのバリエーションを作成する場合、Spot Pro は 7 つのカラーパッチの 3 つのグループをハニカム型パターンで表示します。中央グループの中央パッチが、オリジナルのスポットカラーです。周囲の 6 つのカラーパッチはそれぞれ、オリジナルスポットカラーのバリエーションで、シアン、グリーン、イエロー、レッド、マゼンタ、ブルーの色相で各方向に位置します。

カラーパッチの外側にある 2 つのグループは、彩度と明度のいずれか選択した方の増減を表します。

## スポットカラーのバリエーションを作成する

スポットカラーの外観を変更し、色相と彩度/明度レベルが若干異なる 20 の隣接カラーの再現を印刷して比較し、使用するカラーを選択できます。

バリエーションを印刷するには、少なくとも 20cm (8 インチ) 幅の用紙サイズが必要です。

デフォルトでは、スポットカラーバリエーションは Command WorkStation ジョブセンターにインポートされ、ジョブはインポート時に自動的に印刷されます。

**1 Spot Pro のグループで、カスタムスポットカラーを選択します。**

現在選択されているカラーは、バリエーションの Spot Pro カラーエディターウィンドウの下部にある中央六角形の中央パッチに反映されます。

多六角形でカラー変更を制御できます。ターゲットカラーがハイライト表示されます。左右の六角形は、彩度または明るさの次のバリエーションを表します。カラーバリエーションの矢印 (レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、イエロー) は、中央パッチから色相がシフトする方向を示します。矢印をクリックすると、矢印の方向に対象カラーが移動します。

**2 彩度または明るさのチューニングモードを選択します。**

微調整モードを使用すると、明るさまたは彩度に基づいてスポットカラーを変更できます。

下げる矢印または上げる矢印を動かして、彩度または明るさの割合を上げ/下げします。

**3 隣接パッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを細 (より小さなバリエーション) または粗 (より大きなバリエーション) の方向にスライドさせます。**

細または粗スライドバーでは、クリックするごとに度合いが変わります。デフォルト設定ではスライドバーは中央に位置します。

**メモ:** 特定のカラーを選択すると、!ポイントアイコンが Spot Pro カラーエディタペインの右上に表示されます。このアイコンは、1つ以上のインク/トナーがその最大値に達していることを示しています。

**4 テストページを印刷するには、バリエーションの隣にある印刷アイコンをクリックします。**

バリエーションのパッチレイアウトを選択して、用紙またはサブストレートソースを選択することも可能です。

モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

**5 次のいずれかのパターンレイアウトを選択します。**

- **カラー検索パターン-**ハニカムパターンと同じように配置されているカラーパッチの3つのグループを印刷します。
- **隣接カラーパターン-**カラーパッチを3x7グリッドで印刷します。上段の中央のパッチにはオリジナルのスポットカラーが表示されます。さらに、グリッドパターンには、各カラーパッチのカラー値の詳細が示されます。

**6 用紙またはサブストレートソースを選択します。**

**7 OK をクリックします。**

反復を複数回実行するために隣接カラーパターンを印刷してから、必要なカラー値を入力して、使用するカラーパッチを各チャートから選択することができます。

**メモ:** カラー検索パターンを印刷する場合は、チャートを印刷し、使用するカラーパッチを選択するまで、Spot Pro を終了しないでください。



8 カラーが最もよく再現されているスポットカラーパッチを識別して、次のいずれかを行います。

- 対応するパッチで1回クリックする。

この手順により、スポットカラーの定義が100%で更新されます。

**メモ：**選択したカラーパッチがその後のスポットカラーバリエーションの新しい基準になることに注意してください。したがって、カラーパッチを誤って複数回クリックすると、そのカラーパッチに基づいて、その後のスポットカラーバリエーションは作成されます。リセットアイコン (🔄) をクリックすると、オリジナルのスポットカラーとそのバリエーションに戻ります。

- 対応するパッチのカラー値を入力する。

この手順は、隣接カラーパターンを印刷した場合にのみ実行できます。

## スポットカラーまたはカラーグループを削除する

スポットカラーやカラーグループ（およびそのグループ内のスポットカラー）は、ロックされていない限り削除できます。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバー領域でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバー領域でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

2 リソースで Spot Pro をクリックし、Spot Pro を起動をクリックします。

3 スポットカラーまたはグループを右クリックし、削除を選択します。

4 はいをクリックして確定します。

## スポットカラーまたはスポットカラーライブラリの複製またはエクスポート

スポットカラーライブラリを複製すると、選択した出力プロファイルの元の L\*a\*b\*値と変換された値のみが複製されます。他の出力プロファイルについては、Spot Pro は元の L\*a\*b\* 値を使用して複製されたライブラリを再計算します。


スポットカラーまたはスポットカラーライブラリに加えられた変更は、このシナリオでは複製されません。

- スポットカラーまたはスポットカラーライブラリを変更した後に、別の出力プロファイルが選択されます。
- スポットカラーまたはスポットカラーを含むライブラリが複製されます。

個々のスポットカラーを使用する場合、スポットカラーライブラリを使用する場合と同じ再計算動作が実行されます。この動作は、スポットカラーとスポットカラーライブラリのエクスポートにも適用されます。

## ジョブのスポットカラーを編集する

Command WorkStation 待機リストからジョブのスポットカラーを編集できます。  
 Fiery server は、スポットカラーを含むジョブを検出します。

- 1 待機リストからスプール済みジョブを選択し、右クリックして**スポットカラー編集**を選択するか、アクション>**スポットカラー編集**で選択するか、またはジョブ概要ウィンドウで**編集アイコン** (  ) をクリックして Spot Pro を開きます。

**メモ:** スポットカラー編集オプションは、スポットカラーを含む PDF ジョブでのみ使用できます。

ジョブ概要ウィンドウには、スポットカラーのジョブの使用可能なスポットカラー数が一覧表示されます。

- 2 ジョブのスポットカラーを編集するには、次のいずれかの操作を行います。

**メモ:** ジョブの使用可能なスポットカラーが一覧表示され、正しいスポットカラーライブラリ、スポットカラーグループまたは名前付き ICC プロファイルに関連付けられています。

- 欠落しているスポットカラーを、Fiery server に追加するか、Fiery server 上の既存のスポットカラーにエイリアスして解決します。

欠落しているスポットカラーを追加するには、L\*a\*b\*、LCH またはデバイスの CMYK 値を定義し、それを既存のグループに追加するか、新しいグループを作成して追加します。

**メモ:** CMYK+設定をサポートしているプリンターの場合は、CMYK と追加のインク/トナーを定義することができます。

- すべてのスポットカラーを既存のカスタムグループまたは新しいカスタムグループに追加できます。欠落しているスポットカラーは、定義またはエイリアスによって 1 つずつ追加できます。
- 保存するスポットカラーの 1 つと同じ名前のスポットカラーが既存のグループにすでにある場合、重複するスポットカラーを解決します。

既存のグループに同じ名前のスポットカラーが存在する場合は、新しい編集で既存のスポットカラーを置換しないようにすることができます。

- エイリアススポットカラーを管理します。サーバーに存在するすべてのエイリアスマッピングが表示されます。すべてのエイリアス編集は「アップデート」する必要があります。サーバーでの更新に時間がかかる場合があります。
- 特殊カラーをサポートしているプリンターの場合は、スポットカラーに特殊カラーを追加できます。

**メモ:** 特殊カラーは、ジョブベースのスポットカラーエディターでオンまたはオフにすることはできません。ジョブのプロパティからオンまたはオフにする必要があります。

- ジョブのすべてのスポットカラーを印刷して、スウォッチブックを印刷します。欠落しているスポットカラーは、印刷時に十字記号で「空」のパッチとして識別されます。

- 3 保存をクリックして変更を保存し、完了をクリックして変更を保存してジョブに適用し、スポットカラー編集ウィンドウを閉じるか、キャンセルをクリックして保存せずに終了します。

## Spot Pro スポットカラーのエイリアス

Spot Pro は、Fiery server 上のスポットカラーのマッピングまたはエイリアスをサポートしています。任意のスポットカラーを、既存のスポットカラーへの固定リンクを作成するエイリアスにマッピングすることで、2つのスポットカラー名が異なっても、同じカラー値を使用できます。

上級ユーザーは、エイリアス機能を使用して、異なるまたは複数のスポットカラーを1つのスポットカラーにリンクまたはマッピングできます。

Spot Pro のエイリアス機能を使用すると、次の操作を行うことができます。

- 1つの Pantone スポットカラーと別の Pantone スポットカラーの間で、または HKS スポットカラーから Pantone スポットカラーに対してエイリアスを作成します。
- Fiery server 上で任意のカスタムスポットカラーのエイリアスを作成します。
- 複数のエイリアススポットカラーを Fiery server に追加するのではなく、Fiery server 上にあるオリジナルのスポットカラーに複数のエイリアススポットカラーを作成します。
- エイリアスまたはスポットカラーを削除しても、オリジナルのスポットカラーは削除されません。
- エイリアスが削除された場合は、1つまたは複数のオリジナルスポットカラーの間のエイリアスリンクを削除します。
- リンクされているスポットカラーの番号と名前をオリジナルのスポットカラーに表示します。
- エイリアスリンクを使用してオリジナルのスポットカラーを編集すると、オリジナルのスポットカラーへのすべてのリンクが更新されます。

### メモ：

Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS 400 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

## エイリアススポットカラー

Fiery server でエイリアススポットカラーをオリジナルのスポットカラーにマッピングまたはリンクするには、いくつかの手順が必要です。





エイリアススポットカラーを作成する際は、次の点に注意してください。

- エイリアススポットカラーは、すべてのスポットカラーグループで一意的な名前にする必要があります。
- 2つの異なるスポットカラーグループに、同名のエイリアススポットカラーを使用することはできません。
- オリジナルのスポットカラーを変更すると、その他のエイリアススポットカラーへのリンクが更新されません。
- 同じ名前のスポットカラーは、スポットカラーグループが異なる場合でも、異なる2つのスポットカラーにリンクすることはできません。スポットカラー用にエイリアスリンクが作成されている場合、複数のグループにまたがっていても、同じ名前のスポットカラーはすべて同じエイリアスリンクになります。同様に、1つのスポットカラーのエイリアスリンクが削除されると、同じ名前のすべてのスポットカラーのエイリアスリンクも削除されます。
- スポットカラーとそれにマッピングされているスポットカラー両方のエイリアススポットカラーには、スポットカラー名に「@」文字を付けないでください。

- ユーザーが出力プロファイルを切り替えると、エイリアス情報の更新に時間がかかることがあります。更新操作が完了するまで、更新されたエイリアス情報は表示されません。
- エイリアスリンクを使用したスポットカラーのインポートとエクスポートは、.ASE および.CXF ファイルフォーマットではサポートされていません。エイリアスリンクを使用してスポットカラーをエクスポートする場合、リンクはエクスポートもインポートもされません。

## オリジナルのスポットカラーへのエイリアスリンクの作成

エイリアスによって、名前が異なる 2 つのスポットカラーの間の固定リンクが作成され、両方で同じカラー値が使用されるようになります。

- 1 Spot Pro で、ツールバーのエイリアスアイコン () をクリックします。
- 2 オリジナルのカラーをオリジナルカラー領域に入力し、プラス記号をクリックして追加します。  
一度に 1 色以上のオリジナルカラーを追加できます。オリジナルカラーには既存のカラーまたは既存以外のカラーを指定することができます。  
カラーが Fiery server に存在する場合、カラーは存在タグと明るいグリーンの背景色とともに表示されます。カラーが存在しない場合、カラーは不在タグと明るいレッドの背景色とともに表示されます。
- 3 エイリアス先検索フィールドにスポットカラーの名前を入力し、虫メガネ () をクリックして検索を実行します。
- 4 結果リストで、目的のカラーを選択します。  
エイリアスとして選択されているスポットカラーは、オリジナルのスポットカラーの代わりに再現されます。これは、変換されたカラーとして表示され、スポットカラーへのリンクが一覧表示されます。エイリアススポットカラーを含むジョブは、オリジナルのスポットカラーの色分解値を使用して印刷されます。  
**メモ:** L\*a\*b、色分解、バリエーションに関連付けられている情報とフィールドは、エイリアススポットカラーでは無効になっています。
- 5 エイリアスカラーを選択した後、エイリアス追加をクリックします。  
オリジナルのカラーには、テーブルでマッピングされているエイリアスカラーが表示されます。
- 6 エイリアススポットカラーを編集または削除する必要がある場合は、次のいずれかを実行します。
  - エイリアススポットカラーの横にある編集アイコン () をクリックします。  
オリジナルのカラー領域では、エイリアススポットカラーにマッピングされているスポットカラーの既存のリストにスポットカラーを追加することや「X」をクリックしてスポットカラーを削除することができます。  
エイリアススポットカラーは、エイリアス先フィールドで変更できます。  
作業が完了したら、エイリアス更新をクリックします。
  - テーブル内のエイリアススポットカラーの横にある削除アイコン () をクリックして、ジョブから削除します。
- 7 適用して閉じるをクリックして、Fiery server に情報を保存します。

## エイリアスを使用してスポットカラーを表示する

Spot Pro ウィンドウでは、指定されたスポットカラーのエイリアスが存在する場合、エイリアス列が表示されます。

スポットカラーにその他のスポットカラーがエイリアスとしてリンクされている場合は、そのスポットカラーがエイリアス列の感嘆符アイコンのポップアップメニューに表示されます。感嘆符アイコン (❗) をクリックまたはホバーすると、カラー数とそれにマッピングされているスポットカラーの一覧を表示できます。Spot Pro プレビューペインには、選択したスポットカラーへのエイリアスリンクも表示されます。

指定されたスポットカラーのエイリアスが存在する場合、エイリアス列に一覧表示されます。

スポットカラーにエイリアスがない場合、エイリアス列にはなしが表示されます。

## スポットカラー間のエイリアスリンクを削除する

- 1 Spot Pro で、ツールバーのエイリアスアイコン (🔗) をクリックすると、エイリアスウィンドウが開き、エイリアススポットカラーを削除したり管理したりできます。
- 2 削除アイコン (🗑️) を選択すると、エイリアスリンクを削除できます。
- 3 完了をクリックして、Fiery server に情報を保存します。

**メモ：**スポットカラーは、オリジナルの色分解値に戻ります。

## 特殊なカラーとエイリアススポットカラー

Spot Pro では、特殊カラー編集のあるスポットカラーにエイリアスを行う場合、特殊カラーはサポートされません。

たとえば、スポットカラー A がスポットカラー B にエイリアスされ、スポットカラー B がそれぞれ値 50 と 20 を伴うゴールドとシルバーの特殊カラー編集を有している場合、スポットカラー A は、ゴールドとシルバーの値のためにスポットカラー B からの特殊カラーの値で更新されます。

## 特殊カラーとスポットカラーのミックス

Spot Pro は、特殊カラーの追加、編集、ミックスによるスポットカラーの処理をサポートしています。特殊カラーは、一部の Fiery server ではサポートされていません。プリンターまたはプレスの機能に応じて、複数の特殊カラーを追加または編集できます。

スポットカラーと混合した特殊カラーは、サポートされているどのファイル形式 (Adobe Swatch Exchange (.ASE)、CXF、ICC または ICM) でも保存できません。

上級ユーザーは、スポットカラーを編集または作成し、特殊カラーを追加して、シンボルやモノグラムを印刷するためのシルバー、ゴールド、ネオンピンクなどを使用して、独自の効果を生成することができます。

Spot Pro では、次の 2 種類の Fiery サーバーで特殊カラーを使用した編集をサポートしています。

- Spot Pro で使用できるようにするには、プリンターまたはプレスに特殊カラーをインストールする必要があります。
- Spot Pro で使用できるようにするには、特殊カラーにライセンスが必要ですが、特殊カラーをプリンターまたはプレスにインストールする必要はありません。

Spot Pro を起動すると、特殊カラー機能はデフォルトで無効になります。Fiery server で特殊トナーをロードして設定する必要があります。また使用するには、Spot Pro で特定のカラーグループの特殊カラー機能を有効にする必要があります。

#### メモ：

Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS 400 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

## 特殊カラーとスポットカラーをミックスする

特殊カラーコンポーネントを使用してスポットカラーを編集できます。たとえば、CMYK+シルバーのスポットカラーを編集/定義するには、特殊カラーの%を指定します。

- 1 Spot Pro で、スポットカラーを選択し、編集アイコン (✎) をクリックします。
- 2 カラー定義タブを選択します。
- 3 スポットカラー色分解 (%) 値を編集します。

プレビューパッチでは、パッチにいくつかのシルバー/ゴールド/特殊カラーが含まれていることを視覚的に示す感嘆符 (❗) アイコンが表示されます。

特殊カラー値を編集すると、新しいカラーが変換済みパッチカラーとして表示されます。これは特殊カラーとミックスされたオリジナルカラーのプレビューパッチです。

#### メモ：

特殊カラーが 1 つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオンになっている場合、スポットカラーグループ名の横に緑色のチェックマーク (☑) が表示されます。特殊カラーが 1 つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオフになっている場合、スポットカラーグループ名の横にイエローの感嘆符 (❗) が表示されます。

- 4 リセットアイコン (↺) をクリックして、オリジナルに表示されるスポットカラーのオリジナルの値に戻します。

## 特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査

特殊カラーを含むスポットカラーの目視点検を行うことができます。

特殊カラーを使用してスポットカラーを表示するには、次の 2 つの方法があります。

- スウォッチブックを印刷します。パッチを印刷することで、ユーザーが特殊カラー定義した方法 (たとえばシルバーまたはゴールド) の視覚的な表示を確認し、スポットカラーを確認することができます。
- ジョブには、Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウで特殊カラーオプションをオンにする必要があるスポットカラーが含まれています。

## 特殊カラーミックスおよび出力プロファイル

特殊カラーを使用した編集は、すべてのスポットカラーグループ（カスタムと工場出荷時）で提供されていますが、1つのグループに制限されていません。代替カラーグループではサポートされていません。

出力プロファイルごとに特殊カラー値を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 特殊カラーの値は、特定の出力プロファイルで維持されます。たとえば、ユーザーがシルバーを使用してスポットカラーを編集し、出力プロファイルを変更した場合、そのプロファイルのシルバーは保持されません。特殊カラー情報は出力プロファイル固有のもので、ユーザーが出力プロファイルを変更すると、特殊カラー情報が変更されます。
- 特殊カラー情報は、出力プロファイルごとに **Fiery server** で保持され、対応する出力プロファイルが選択されている場合に取得されます。
- 特殊カラー印刷はスウォッチブックでのみサポートされており、バリエーション印刷には使用できません。
- ライセンスされた特殊カラーをサポートする **Fiery server** では、1つまたは2つの特殊カラーがライセンスされてインストールされている場合に、書類内で1つまたは2つの特殊カラーを使用することができます。ライセンスされている特殊カラーは、ゴールド、シルバー、蛍光ピンク、蛍光イエロー、クリアまたはホワイトです。特殊カラーがライセンスされていてもインストールされていない場合は、処理することはできませんが、印刷はできません。スポットカラーエディターを使用して特殊カラーを編集すると、特殊カラーが有効になっているすべての出力プロファイルにも編集が含まれます。

**Fiery server** が CMYK に加えて2つのカラーステーションを持てるように2つの特殊カラーをサポートしている場合は、CMYK より前にホワイトなどの1つの特殊カラーを印刷し、CMYK に重ねてまたは CMYK の後にクリアなどの1つの特殊カラーを印刷することができます。特殊カラー、シルバー、ゴールドは、1番目または最後のステーションにインストールして印刷することができます。

**メモ**：2つのカラーステーションでゴールドとシルバーを同時にサポートすると、プリンターでサポートされている場合は、最初または最後のステーションで印刷できるようになります。

## 制限

- 1 特殊カラーコンポーネントを含むスポットカラーのバリエーションでは、特殊カラーコンポーネントは再現されません。
- 2 特殊カラーコンポーネントを使用したスポットカラーの最適化では、信頼性の高い測定値が返されないため、測定デバイスの限界により、特殊カラーコンポーネントは再現されません。スポットカラーは、特殊カラーコンポーネントが含まれていない場合でも、可能な限り正確に再現できるよう最適化されます。
- 3 インストールされている特殊カラーの場合、複数の特殊トナーロットが有効になっており、トナーロットに同じ特殊トナーが設定されている場合は、**Spot Pro** は両方の特殊トナーロットを表示しますが、値はユーザーインターフェイスの1つの特殊トナーロットのみに保存されます。
- 4 ライセンスされた特殊カラーでは、2つの特殊トナーロットが有効で、トナーロットに共通の特殊カラーが含まれている場合、ロット2の固有の特殊カラーのみが一覧表示されます。

たとえば、2つのスロットがある場合、S1とS2が有効になり、

- S1とS2の特殊カラーのリストが同じ場合、Spot Proでは1つのスロットのみが表示されます。
- S1とS2に次のような共通の特殊カラーが含まれている場合、
  - S1 - ホワイト、ゴールド、シルバー
  - S2 - ホワイト、シルバー、ピンク、ゴールド

S1スロットにはホワイト、ゴールド、シルバーが表示され、S2スロットにはホワイト、シルバー、ピンク、ゴールドが表示されるように、Spot Proはすべての色が表示されます。両方のスロットで同じカラーを選択して編集することはできません。

- S1とS2の両方に異なる特殊カラーが含まれていて、共通する項目がない場合、両方のスロットは設定されているすべてのカラーと共に表示されます。

## スポットカラーを最適化する

Spot Proは、特定の用紙またはサブストレートおよび出力プロファイルに対して、1つ以上の選択されたスポットカラーを最適化します。最適化することで、カラーの違い ( $\Delta E$ ) を低減し、より最適なカラーメトリックマッチングを実現することができます。

開始する前に、測定器をコンピューターに接続します。

Spot Proは、FieryMeasureのすべての測定器をサポートしています。

- 1 Spot Proで、1つ以上のスポットカラーを選択します。
- 2 最適化をクリックします。
- 3 リストから測定計器を選択します。

### メモ：

サポート対象のインライン測定器のみが表示されます。

- 4 次へをクリックして、ジョブのプロパティウィンドウを開きます。
- 5 用紙またはサブストレートソースを設定します。

メモ：カラー設定を変更しないでください。

- 6 印刷をクリックして、最適化するスポットカラーのチャートを印刷します。
- 7 画面の指示に従ってチャートを測定します。
- 8 次へをクリックします。

Spot Proは、実際の平均 $\Delta E$ と最大 $\Delta E$ を表示します。

- 9 反復をクリックして、それ以上最適化できなくなるまで最適化手順を繰り返します。  
最適化テーブルで最後の反復結果が表示されたら、完了をクリックして最適化を保存します。  
特定の反復を選択し、最適化テーブルから削除することができます。



## 色域警告

色域は、プリンターが再現できる全範囲のカラーを示します。ジョブの処理中、色域以外のスポットカラーは、利用可能な色域にある最も近いカラーにマップされます。色差は $\Delta E$  値で表示されます。ユーザーが指定した許容範囲内でスポットカラーを再現できない場合は、色域警告が表示されます。

Spot Pro は、この許容範囲内にあるスポットカラーを「色域内」として認めることで、さまざまな $\Delta E$  式 ( $\Delta E2000$ 、 $\Delta E76$ ) での許容値の指定に対応しています。

Spot Pro は、ユーザーが指定した $\Delta E$  形式で、各スポットカラーのカラー等級 $\Delta E$  を表示します。

$\Delta E$  列には、スポットカラーを正確に再現できるかどうかを示されます。グリーンは「色域の範囲内」にあることを示します。黄色は「色域の範囲外」を示します。スポットカラーの $\Delta E$  が、そのカラーの定義された許容制限範囲を超えていても、プリンターの色域の範囲内である可能性があることに注意してください。

スポットカラーが色域の範囲外にある場合は、 $\Delta E$  値を減らすことができます。次を参考にしてください:

- 別の用紙またはサブストレートに切り替えます。これにより、最良の結果が得られる組み合わせをすばやく見つけることができます。
- スポットカラーを最適化します。

## 階調曲線編集によるスポットカラー

スポットカラーグラデーションエディター機能を使用すると、スポットカラーのグラデーションをさまざまなパーセント (%) で編集できます。スポットカラー再現曲線を定義して、100%以外の正確なスポットカラーが得られるようになります。

スポットカラーグラデーションでは、すべてのスポットカラーがサポートされます。

デフォルトでは、スポットカラーは 100%と 0%のカラー値で定義されています。フルトーンカラーは 100%で表されます。用紙のカラーは 0%で表されます。デフォルトでは、下地ホワイトの未測定値は 0%と同じです。

ジョブでスポットカラーのグラデーションを印刷する必要があり、印刷時に明るすぎるまたは薄すぎると見られる場合は、グラデーション曲線に沿ってスポットカラーの色調値を加算または減算することによって、強度を変更することができます。


### メモ:


Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS 400 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

## カラーグラデーションエディターを使用する

スポットカラーグラデーションエディターでは、スポットカラーのグラデーションの明るさを変更します。

**メモ:** スポットカラーに特殊カラーコンポーネントが含まれている場合は、プロセスカラーと特殊カラーコンポーネントの両方がグラデーション曲線の影響を受けます。

- 1 Spot Pro で、スポットカラーを選択し、編集アイコン (  ) をクリックします。
- 2 グラデーションタブを選択します。

- 3 入力および出力テーブルに、1~99 の範囲内でグラデーションを入力します。  
テーブルの値は、カラーティントの割合を表しています。値 0（ゼロ）と 100 は変更できません。  
値は、プライマリプロセスカラーと特殊カラーに適用され、色調曲線に表示されます。  
**メモ：**0（ゼロ）および 100 を含む最大 15 の値を持つことができます。「+」アイコンの付いた行を追加します。15 行目を追加すると、「+」アイコンが使用できなくなります。
- 4 曲線に沿ってグラデーションポイントを変更するには、ポイントを上（色を追加）または下（色を削減）にドラッグしてください。また、必要な座標をテーブルに直接入力することもできます。
- 5 グラデーションを削除するには、テーブルで行を選択し、Delete キーを押します。
- 6 グラデーション曲線をリセットするには、リセットアイコン（) をクリックして、0（ゼロ）および 100 の元の値に戻します。

## カラーズウォッチページとズウォッチブック

スポットカラーとその隣接スポットカラーを含むズウォッチページを印刷することができます。カラーグループ内のすべてのスポットカラーまたは選択されたカラーが含まれるカラーグループのズウォッチブックを印刷することもできます。

### スポットカラーマッチング

スポットカラーズウォッチまたはズウォッチブックを印刷する場合、出力プロファイルと用紙または素材ソースの組み合わせは、正確に印刷するために必要な主なジョブプロパティです。Spot Pro カラーペインウィンドウで出力プロファイルを選択し、次にツールバーまたは右クリックメニューで印刷をクリックしてから、ズウォッチブックの印刷ワークフローで用紙トレイまたは給紙を選択します。残りの設定にはデフォルトのジョブプロパティが使用されるため、カラーの精度にはほとんど影響しません。

### キャリブレーション

Fiery server のキャリブレーションを行うことにより、一貫した信頼性のあるカラー出力が可能となります。キャリブレーションは、時間の経過や印刷状況の変化によるプリンターのカラー出力の変動を調整します。

## カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する

単一のスポットカラーのカラースウォッチページを印刷します。スポットカラーのグループのスウォッチブックを印刷します。

### 1 つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷する場合は、1 つ以上のスポットカラーと 1 つのレイアウトを選択します。

**1** Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーを選択します。

Shift キーを押しながら連続するカラーを選択するか、Ctrl キーまたはコマンドキーを押しながら特定のカラーを選択または選択解除することができます。

複数のスポットカラーライブラリからスポットカラーを選択するには、内部スポットカラーライブラリからカスタムスポットカラーセクションにスポットカラーをドラッグします。

**2** 印刷をクリックするか、右クリックしてメニューから印刷を選択します。

**メモ：** Fiery server により、印刷、キューに印刷または印刷へ送信オプションがあります。

**3** パッチサイズを選択します。

サイズは、Command WorkStation の地域設定に従い、mm またはインチで表示されます。

**4** チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0~39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

**5** 用紙またはサブストレートソースを選択します。

**6** カスタマー名と連絡先情報を指定します。

「カスタマー名と連絡先情報」フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。最初の行はカスタマー名用です。

EFI ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

**7** ジョブのプロパティをクリックして、追加の印刷設定を指定します。

**8** OK をクリックして、スポットカラースウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、OK{2} ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数の PDF ファイルページとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

## グループ内のすべてのスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷するときには、スポットカラーグループとレイアウトを選択します。

- 1 Spot Pro で、1 つのカラーグループを選択します。

**メモ：**一度に印刷できるカラーグループは1つだけです。

- 2 印刷をクリックするか、右クリックしてメニューから印刷を選択します。

**メモ：**Fiery server により、印刷、キューに印刷または印刷へ送信オプションがあります。

- 3 パッチサイズを選択します。

サイズは、Command WorkStation の地域設定に従い、mm またはインチで表示されます。

- 4 チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0~39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

- 5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

- 6 カスタマー名と連絡先情報を指定します。

「カスタマー名と連絡先情報」フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。最初の行はカスタマー名用です。

EFI ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

- 7 ジョブのプロパティをクリックして、追加の印刷設定を指定します。

- 8 OK をクリックして、スポットカラーのスウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、OK{2} ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数の PDF ファイルページとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

## 代替カラー

代替カラー機能は、ジョブ内のカラーを印刷されたジョブの別のカラーにマッピングするために使用されません。

代替カラーはテキスト、ベクトルグラフィック、ラインアートのみに影響します。ラスター画像には適用されません。

カラーが代替カラーとして定義されている場合、RGB カラー用の設定 (RGB ソースなど) や CMYK カラー用の設定 (CMYK ソース) は無効になります。代替カラーはスポットカラーと同様のプロセスでカラー変換されます。

**注意** 代替カラー機能と Postflight 機能を同時に使用することはできません。これらの印刷オプションには制限があります。

代替カラーは、CMYK + カラーモードおよび関連付けられている出力プロファイルをサポートしていません。

代替カラー機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- Command WorkStation で代替カラー値を設定します。
- 代替カラー印刷オプションをオンにして書類を印刷します。

## 代替カラーの作成や編集を行う

代替カラーは、代替グループと呼ばれる特殊なタイプのスポットカラーグループ内に存在します。代替カラーでは、オリジナルカラーの CMYK 値とそのカラーの代替カラーの CMYK 値を指定します。

1 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。

- ジョブセンターのツールバーで Spot Pro をクリックします。
- 次に、サーバー > Spot Pro をクリックします。
- サーバーペインでサーバー名の隣にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- デバイスセンターのリソースで Spot Pro をクリックします。

2 Spot Pro を起動をクリックします。

3 新規をクリックし、代替グループを選択します。

代替グループの場合は、グループ名を入力して OK をクリックします。

代替グループがすでに存在する場合は、代替グループを選択し、5 に進みます。

4 カラーの一覧で、新しい代替カラーを配置する場所を選択します。

5 新規をクリックし、代替カラーを選択して代替カラーを作成します。

6 オリジナルのカラー値を指定するカラーモードを選択します。

7 オリジナルカラーの許容値を選択します。

許容範囲はカラーがオリジナルカラーにどの程度近くなければならないかを決定します。許容範囲での「小」または「大」は、次のように定義されています。

カラーモード	小さい許容範囲	大きい許容範囲
CMYK (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%
RGB (デバイスコード 0-255)	+/-0.25	+/-1
RGB (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%


**メモ：**許容範囲の設定は、変換後のカラーには影響を及ぼしません。

8 オリジナルカラーの値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。

9 変換されたカラーの値を入力します。

**10** 次のいずれかを行います。

- **完了**をクリックして編集を終了し、**Spot Pro** カラーエディタペインを終了します。
- **保存**をクリックして編集内容を保存し、**Spot Pro** カラーエディタペインを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。

**11** 代替カラーを編集するには、**Spot Pro** カラーエディタペインで、**編集アイコン** () をクリックします。必要な変更を行い、次のいずれかを行います。

- **完了**をクリックして編集を終了し、**Spot Pro** カラーエディタペインを終了します。
- **保存**をクリックして編集内容を保存し、**Spot Pro** カラーエディタペインを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。

# サーバーリソースを管理する

## Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ

Command WorkStation には、Fiery システムソフトウェアおよび Fiery API のアップデートやパッチをインストールする Fiery アップデート機能が含まれています。そのため、システムソフトウェアのアップデートは、Fiery server とリモートコンピューターのどちらかからでもインストールできます。また、Fiery server をインターネットに接続しなくてもアップデートやパッチをインストールできます。

Fiery アップデートにアクセスするには、Command WorkStation を開始します。

Command WorkStation を実行しているコンピューターは、次の条件を満たす必要があります。

- インターネットに接続されている
- Fiery server と同じネットワーク上にある

Fiery server へのアップデートやパッチのインストールは、1 度に 1 台のコンピューターからしか行うことができません。パッチをインストールする場合は、システムアップデートを無効にする必要があります。

## Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート

クライアントコンピューターまたはローカルで Fiery server を使用して、Fiery システムソフトウェアをアップデートできます。

Command WorkStation で Fiery server に接続するには、Fiery server の名前または IP アドレスが必要です。

**メモ：**クライアントコンピューターには、Fiery server システムアップデートを実行するための有効なインターネット接続が必要です。

**メモ：**最良の結果を得るためには、Fiery server や Command WorkStation でジョブやアクションが処理中でないときにアップデートやパッチをインストールしてください。

- 1 Command WorkStation を起動します。
- 2 サーバー デバイスセンター > Fiery アップデート > アップデート > を選択します。
- 3 利用可能なアップデートを表示してインストールするには、Fiery アップデートの下のアップデートをクリックし、次に右ペインでインストールするアップデートのそれぞれについてアップデートをクリックします。
- 4 利用可能なパッチを表示するには、Fiery アップデートの下のパッチを選択します。
- 5 インストールするパッチを選択してください。  
パッチを選択すると、必要となる以前のパッチも自動的に選択されます。

- 6 Fiery API についてのメッセージが表示されたら、OK をクリックして Fiery API をインストールします。Fiery アップデートを使用したパッチのインストールには、Fiery API が必要です。
- 7 アップデートをクリックして、選択したパッチをインストールします。  
すべての排他的パッチをインストールした後、Fiery server をリブートする必要があります。  
**メモ：**各排他的パッチと一緒に複数の非排他的パッチをインストールすることができます。
- 8 アップデートやパッチがインストールされたら、OK をクリックして Fiery server をリブートします。  
**メモ：**リブートが完了したら、システム管理者は Command WorkStation で Fiery server に再接続する必要があります。  
**メモ：**パッチのインストールが進行中の場合は、Fiery server に接続した Command WorkStation に通知が表示されます。
- 9 インストール済みのアップデートやパッチの一覧を表示するには、Fiery アップデートの下の履歴をクリックします。

## サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる

Fiery ヘルスモニターを使用すると、システム全体の健全性を常に把握し、予防措置リストを表示することで、プロダクション印刷環境に関する要求に応えるための最も効率的な状況で、Fiery server が安全かつ確実に動作するよう維持できます。

## サーバーを最適な稼働状態で維持する

- 1 次のいずれかの方法で、Fiery ヘルスモニターを起動します。
  - ジョブセンターの右上隅、パートナーロゴの下にある Fiery ヘルスモニターリンクをクリックする。
  - サーバー Fiery ヘルスモニター > を選択する。
  - Fiery server 名を右クリックして、ヘルスモニターを選択する。
- 2 いずれかのツールをクリックします。
  - Fiery アップデート (Fiery server でサポートされている場合) が Fiery システムソフトウェアおよび Fiery API のアップデートとパッチをインストールします。[Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート](#) (168 ページ)
  - ディスク容量からサーバーの初期化機能にアクセスして、ジョブ、ログ、VDP リソースを消去できます。[サーバーの初期化](#) (80 ページ)
  - Fiery 再起動はパフォーマンスを最適化するために定期的に Fiery server を再起動するようにシステム管理者に促します。



- アーカイブマネージャーは、Fiery server の外部ジョブをアーカイブします。[ジョブをアーカイブする](#) (75 ページ)  
**メモ:** アーカイブマネージャーが Command WorkStation > 環境設定 でオフになっている場合、Fiery ヘルスマニターでは表示されません。
- Fiery バックアップスケジュール (Fiery server でサポートされている場合) は毎日または週ごとの自動バックアップのスケジュールを設定します。これにより、デフォルトブラウザウィンドウで WebTools が開きます。ブラウザでセキュリティエラーが表示された場合、そのエラーを無視して続行できます。

## 仮想プリンター

仮想プリンターを使用すると、事前に定義されたジョブ設定を使用して Fiery server で印刷が行えます。仮想プリンターはネットワーク上に公開されているので、ユーザーは仮想プリンターをコンピューター上のプリンターとして設定できます。

システム管理者は、仮想プリンターを Command WorkStation で管理できます。印刷を複製し、仮想プリンターを待機させて設定を変更できます。システム管理者は、新しい仮想プリンターを作成することもできます。

リストから仮想プリンターを選択すると、ジョブのプロパティがデバイスセンター > ワークフロー > 仮想プリンターの右側のパネルに表示され、さまざまなタスクにアクセスするためのツールバーが追加されます。

システム管理者は、ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開できます。詳細については、[プリセットのプリント設定](#) (54 ページ) を参照してください。

## デフォルト設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。

## 仮想プリンターを作成、編集または複製する

システム管理者だけが仮想プリンターを作成、編集、複製できます。また、システム管理者はジョブプリセットを仮想プリンターとして公開することもできます。

### 1 次のいずれかを行います。

- 仮想プリンターを作成するには、ツールバーの新規をクリックします。
- 仮想プリンターを編集するには、ツールバーの編集をクリックします。
- 仮想プリンターを複製するには、ツールバーの複製をクリックします。

### 2 以下を指定します。

- プリンター名 - 仮想プリンターの名前 (英数字で指定)。

**メモ:** 仮想プリンターの作成または複製後はその名前を変更できません。ただし、印刷設定は変更できます。

- 説明 - 仮想プリンターをユーザーに説明するためのコメントを追加または変更します (例: 「会社案内用」)。

- ジョブアクション - Fiery server アクションのいずれか1つ（待機や処理後待機など）を選択します。
- ジョブのプロパティ - 定義を選択してジョブのプロパティにアクセスし、印刷設定を指定します。サーバープリセットも選択肢として表示されます。

**メモ：**ロックアイコンをクリックすると、該当するジョブ設定をロックできます。

### 3 必要に応じて、プリフライトを選択し、設定を編集します。

- デフォルトプリセット - 編集を行わない限りデフォルトのプリフライト設定が使用されることを示します。
- 編集 - 他のプリセットを選択したり、プリフライト設定をカスタマイズしたりできます。

**メモ：**カスタマイズしたプリフライト設定をプリセットとして保存することもできます。

- 重大エラー発生の場合 - 重大エラーが発生した場合に実行するアクションを指定します。ジョブアクションを使用は、仮想プリンター用に指定されたジョブアクションを示します。

## ロックされたジョブ設定

ジョブ設定をロックすると、他のユーザーはその設定を変更することができません。

次の点に注意してください。

- 仮想プリンターを使用して **Command WorkStation** にジョブをインポート - インポートされたジョブは、Fiery server のロックされた設定を使用し、ジョブに指定されている競合する設定を上書きします。
- ロックされていないジョブ設定 - ユーザーはジョブ設定を変更できます。ジョブはこれらの設定に従って印刷されます。ただし、ジョブ設定が指定されていない場合は、ジョブは仮想プリンター設定を使用します。

## ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開する

サーバージョブプリセットは仮想プリンターとして公開できます。

- 1 デバイスセンターでワークフローをクリックし、ジョブプリセットをクリックします。
- 2 プリセットを選択し、仮想プリンターとして公開をクリックします。
- 3 新規仮想プリンターダイアログボックスで設定を指定します。

**メモ：**ジョブのプロパティを除くすべての設定を指定できます。ジョブのプロパティには、サーバープリセットで指定された設定が使用されます。

## 仮想プリンターを管理する

Fiery server のシステム管理者は、仮想プリンターの公開、非公開、削除ができます。

- リストから仮想プリンターを選択し、ツールバーから次のいずれかのボタンをクリックします。
  - 公開をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワーク上に公開できます。  
サーバー設定で SMB 印刷が有効になっている場合、仮想プリンターはネットワーク上で共有されます。
  - 非公開をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワークから削除できます。  
以降、この仮想プリンターは共有プリンターとして表示されません。また、ジョブをインポートできるプリンターとして **Command WorkStation** でも表示されなくなります。
  - 削除をクリックすると、選択した仮想プリンターを削除できます。

## バリエブルデータ印刷リソース

バリエブルデータ印刷 (VDP) ジョブでは、グローバル/再利用可能リソースのバリエブルデータを使用してジョブを構成します。

グローバルリソースとは、バリエブルデータと一緒にバリエブルデータ印刷 (VDP) ジョブのために **Fiery server** にダウンロードする必要がある画像のことです。これらのグローバルリソースは、各プロジェクト内の 1 つのグループとして **Fiery server** に格納されます。

バリエブルデータ印刷リソースを使用した場合、システム管理者は **Fiery server** のディスク容量を次のように管理できます。

- グローバルリソースの表示と削除
- 将来のバリエブルデータ印刷 (VDP) ジョブのためのグローバルリソースの作成と保存
- グローバルリソースの **Fiery server** へのアーカイブと復元

バリエブルデータ印刷リソースにアクセスするには、**Fiery server** に接続し、詳細アイコン (縦に並んだ 3 つのドット) をクリックし、**デバイスセンター > リソース > バリエブルデータ印刷リソース** を選択します。

## バリエブルデータ印刷リソースをバックアップする

グローバルリソースをバックアップできます。

## プロジェクトのグローバルリソースをバックアップする

デバイスセンターのバリエブルデータ印刷リソース機能を使用すると、プロジェクトを別のファイルにバックアップできます。

PDF/VT ジョブではバックアップ/復帰を実行できません。

- 1 必要な Fiery server に接続し、デバイスセンター>リソース>バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。
- 2 バリアブルデータ印刷フォルダーをクリックし、利用可能なプロジェクトのリストを表示します。
- 3 アーカイブするプロジェクトを選択し、バックアップをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定し、OK をクリックします。

## バリアブルデータ印刷リソースを復帰させる

アーカイブ済みのグローバルリソースを復帰させることができます。

## プロジェクトのアーカイブ済みグローバルリソースを復元する

アーカイブ済みのジョブは、ファイルがアーカイブされたオリジナルの Fiery server にのみ復元できます。

**メモ：**グローバルリソースを持たないバリアブルデータ印刷（VDP）言語は、バリアブルデータ印刷リソースに表示されません。グローバルリソースを復元したバリアブルデータ印刷（VDP）言語のみが、バリアブルデータ印刷リソースに表示されます。

- 1 復帰をクリックします。
- 2 アーカイブ済みファイルを保存した場所を検索し、ファイルを選択し、復帰をクリックします。

## グローバルリソースを表示および削除する

グローバルリソースや、プロジェクトのジョブ名情報を表示できます。

- 1 必要な Fiery server に接続し、デバイスセンター>リソース>バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。
- 2 グローバルリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、表示メニューからリストビューまたはサムネイルビューをクリックします（Fiery server でサポートしている場合）。
- 3 送信済みジョブの名前情報とプロジェクトのリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、リソースまたはジョブをクリックします（Fiery server でサポートしている場合）。
- 4 グローバルリソースを削除するには、バリアブルデータ印刷（VDP）言語またはプロジェクトをクリックして、削除をクリックします。
- 5 現在の情報を更新するには、リフレッシュをクリックします（Fiery server でサポートしている場合）。

## フォント

フォント管理ウィンドウには、Fiery server に常駐するすべてのフォントが表示されます。Fiery server にある PostScript フォントのみ、バックアップ/復帰ができます。また、ローカルプリンターを選択して、それらのフォントの一覧を印刷することもできます。

### Fiery サーバーのフォントを管理する

フォントの追加、アップデート、削除およびフォント一覧の印刷ができます。

Configure では、セキュリティ >> PostScript セキュリティ機能を無効にし、ジョブ送信 >> キュー >> フォントキューの公開機能を有効にして、サードパーティのフォントダウンロードアプリケーションでダウンロードをできるようにします。セキュリティ上の理由から、フォントをインストールしている間のみ、フォントキューを有効にします。

**メモ：**サーバー上の日本語フォントやサポートアプリケーションによってダウンロードされたフォントは、すべてロックされています。Fiery server にダウンロードされた日本語のフォントは、アプリケーションをインストールすることでのみ削除できます。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバー領域でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバー領域でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

2 リソース > フォントをクリックします。

Fiery server に現在存在するフォントの一覧が表示されます。

3 ツールバーのボタンを使用して、次のようにフォントを管理します。

- フォントを追加または更新するには、新規追加をクリックします（Adobe PostScript Type 1 フォントを追加できます）。追加をクリックして、ダウンロードするフォントを特定し、OK、リフレッシュをクリックします。
- フォントを削除するには、フォント一覧のロックされていないフォントを選択し、削除をクリックします。ロックされたフォントは削除できません。
- フォント一覧を印刷するには、印刷をクリックします。

### フォントのバックアップと復元を実行する

バックアップおよび復帰できるのは、PostScript フォントのみです。すべての PostScript フォントがバックアップまたは復元されます。個々のフォントを選択することはできません。

**メモ：**Fiery server でフォントのバックアップや復元を実行するには、システム管理者としてログインする必要があります。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
  - サーバー領域でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
  - サーバー領域でサーバー名をダブルクリックします。
  - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
  - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 まず、リソース > フォントをクリックします。
- 3 バックアップまたは復元をクリックします。
- 4 表示されるウィンドウで、リストからフォントを選択し、画面の指示に従います。以下のガイドラインを順守します。
  - Fiery server も格納されている内蔵ハードディスクにはフォントをバックアップしないでください。
  - フォントの復元は、バックアップの作成元になったものと同じ Fiery server に対して行う必要があります。

## ユーザーとグループ

Fiery server にアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによって、ユーザーの権限を定義できます。いくつかのグループがデフォルトで用意されています。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**Configure > ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に、Fiery server で LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

## グループを表示する

グループ機能により、システム管理者は、権限が定義されたグループにユーザーを追加することができます。

**メモ：**グループをサポートしていない Fiery servers もあります。

ユーザーおよびグループの権限を変更するには、**設定**をクリックします。詳細は、[グループ権限を変更する](#) (31 ページ) を参照してください。

## ジョブログを使用する

ジョブログには、処理および印刷済みのジョブ、印刷日時、特記事項などの記録が保存されます。

**メモ：**システム管理者が Fiery server をクリアしたり、新しいソフトウェアをインストールしたりした場合、ジョブログが消去されることがあります。

システム管理者は、**Configure** で自動のジョブログメンテナンスを設定できます（ジョブログをエクスポートして消去する日時を設定するなど）。

ジョブログの管理方法の詳細については、『**Configure** のヘルプ』を参照してください。

## ジョブログを表示する

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
  - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
  - サーバー ログ>をクリックします。
- 2 タイムスタンプ-印刷終了列または日付/時刻列のいずれかを選択し、表示するジョブの日付範囲を指定します。

最初の列には、最後に印刷されたジョブを上部に表示する **タイムスタンプ-印刷終了**が表示されます。

2番目の列には、Fiery server がジョブを受信した日時が表示されます。
- 3 すべてのジョブを表示するには、フィルターを消去をクリックします。

## ジョブログ列のカスタマイズ

- 1 列見出しを右クリックします。
- 2 追加を選択します。
- 3 使用可能な列の一覧で、追加する列を選択します。
- 4 列を削除するには、列見出しを右クリックして削除を選択します。
- 5 列の順序を変更するには、列見出しを選択して別の場所にドラッグします。

## ジョブログエントリの詳細情報を表示する

ジョブログのエントリの詳細を表示することができます。標準の Windows または macOS コントロールを使用してテキストをコピーし、選択、すべて選択、コピーなどを行うことができます。また、Fiery server または ローカルプリンターから詳細を印刷することもできます。

- 行を選択してツールバーの詳細をクリックするか、行をダブルクリックします。  
ジョブログの列は垂直方向に表示されるため、詳細な情報を一目で確認して印刷することができます。

## ジョブログを印刷する

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
  - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
  - サーバー>ログをクリックします。
- 2 印刷をクリックします。
- 3 ローカルプリンターを選択し、プリンターを選択して、印刷をクリックします。

## ジョブログのコンテンツをエクスポートする

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
  - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
  - サーバー>ログをクリックします。
- 2 エクスポートをクリックします。
- 3 現在の表示を選択してジョブログの現在の日付の範囲の表示をエクスポートするか、または完了ログを選択して指定された日付の範囲の表示に関係なくジョブログ全体をエクスポートします。

## ジョブログのコンテンツをエクスポートおよび消去する

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
  - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
  - サーバーペインでサーバー名をダブルクリックしてデバイスセンターを開き、ログ>ジョブログを選択します。
  - サーバー>ログをクリックします。



- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - エクスポート/消去をクリックします。
  - 消去をクリックします。

# サブストレータカタログ

Substrate Catalog は、プロダクション印刷会社で使用可能なサブストレータの属性を保存できる、システムベースのサブストレータウェアハウスデータベースです。

Substrate Catalog は、Command WorkStation をインストールするとデフォルトでインストールされます。

Substrate Catalog データベースは Fiery server に格納されています。Fiery server のリポート/初期化を行ってもデータベースは影響を受けません。

**メモ：**Substrate Catalog を設定/管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

サブストレータを選択するには、Command WorkStation でジョブを選択し、プロパティ>用紙をクリックし、Substrate Catalog からエントリを選択します。Substrate Catalog リスト内の Substrate Catalog エントリはアルファベット順に一覧表示されます。

各 Substrate Catalog エントリは、特定の出力プロファイルに関連付けられています。新しい Substrate Catalog エントリを作成するときは、Substrate Catalog エントリを既存のプロファイルと関連付けるか、新しいプロファイルを作成する必要があります。

**メモ：**「メディア」または「用紙」という用語は、「サブストレータ (サブストレータ)」を指しています。

## アクセスレベル

Substrate Catalog 機能のうち利用できるレベルは、Command WorkStation へのログイン方法によって異なります。関連するアクセスレベルは以下のとおりです。

- システム管理者 - Command WorkStation および Fiery server のすべての機能にアクセスできます。システム管理者にはパスワードが必要です。
- オペレーター：ジョブセンターの全機能にアクセスできます。デバイスセンターでは、Configure、バックアップ/復帰、パスワードの変更、ジョブログの削除にはアクセスできません。Substrate Catalog、仮想プリンター、カラー管理機能を表示することはできますが、編集はできません。オペレーターのパスワードが必要です。

Substrate Catalog では、システム管理者は次の操作ができます。

- 複数のサブストレータ属性の組み合わせを定義し、それぞれの組み合わせに一意的な名前を割り当てることができます。
- 各サブストレータにカラープロファイルを割り当てる
- ジョブ印刷時に設定済みサブストレータを選択する
- ユーザーが使用できる Substrate Catalog の列を指定できます。
- Substrate Catalog データベースを一元的に管理できます。

Substrate Catalog では、オペレーターは次の操作ができます。

- ジョブ印刷時に設定済みサブストレートを選択する

## Substrate Catalog へのアクセス

システム管理者は、プレスで使用できるすべてのサブストレートを記述した Substrate Catalog エントリを作成します。システム管理者は、Substrate Catalog の設定オプションにアクセスして、特定のプリントショップのシナリオに合わせてカスタマイズできます。

データベースに存在しない Substrate Catalog エントリが、アーカイブから復元されたジョブに含まれている場合、Substrate Catalog はアーカイブ属性を使用して自動的に新しいエントリを作成します。

- 1 目的の Fiery server にシステム管理者としてログインします。システム管理者パスワードが設定されている場合はそのパスワードを入力します。
- 2 次のいずれかを行います。
  - ジョブセンターツールバーの Substrate Catalog アイコンをクリックします。Substrate Catalog アイコンが表示されていない場合は、次の手順を実行します。
  - ジョブセンターツールバーで、ツールバーを右クリックしてから、標準セットまたはカスタマイズをクリックして、Substrate Catalog を選択したツールリストに追加します。  
**メモ：** ツールバーのカスタマイズウィンドウで、標準セットをクリックして、Substrate Catalog を選択したツールリストに追加することもできます。
  - Substrate Catalog アイコンがジョブセンターのツールバーで非表示になっている場合は、ウィンドウを拡大するか、またはモアアイコン (3つのドット) をクリックしてから Substrate Catalog をクリックします。
  - サーバーメニューの Substrate Catalog をクリックします。
  - サーバーリストの Fiery server を右クリックし、Substrate Catalog を選択します。
  - サーバーリスト内の Fiery server を右クリックし、デバイスセンターを選択します。デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、Substrate Catalog を選択します。

Substrate Catalog ウィンドウで、新しいエントリの作成、エントリの編集、および Substrate Catalog データベースの管理を行えます。

## Substrate Catalog ウィンドウ

サブストレートをさまざまな方法で整理して表示します。

Substrate Catalog ウィンドウのデフォルトビューには、カタログ内のすべての用紙の名前が表示されます。名前をクリックすると、選択した名前の以下の属性が表示されます：

**メモ：** 属性名は、使用している Fiery server でサポートされているものによって異なる場合があります。

- サブストレートカタログエントリの名前
- 説明

- 厚さ
- タイプ
- サイズ ID
- 寸法
- 紙目方向
- 製品 ID

リストビュー（チェックボックスを選択すると表示）では、全用紙を表示するか、指定したサイズのすべての用紙を表示するかを選択できます。表示される各用紙の情報は、選択した列見出しで決まります。

## Substrate Catalog での列の表示を変更する

Substrate Catalog ウィンドウの列見出しは、PPD 準拠の用紙属性を使用しているか、JDF 準拠の用紙属性を使用しているかによって動的に変化します。

システム管理者は、表示されるこれらの列の順序を変更したり、特定の印刷環境に有益な情報が提供されるように列を追加/削除したりできます。列の幅を調整するには、列の枠線を左右にドラッグします。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウで、リストビューチェックボックスを選択し、列見出しバーを右クリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - 追加をクリックすると、メニューから項目を選択して列に追加できます。
  - 削除をクリックすると、列を削除できます。
  - 左へ移動または右へ移動をクリックすると、希望する方向に列を移動できます。

## Substrate Catalog 設定を選択する

Substrate Catalog エントリを作成する際、システム管理者は、プリンター（PPD）準拠と JDF（Job Definition Format）のどちらかの用紙属性セットを選択できます。

- PPD 用紙属性セットは Fiery server 専用です。個々の設定の名前は各デバイスを通じて標準になりますが、可能なオプションのリストは変わります。PPD セットは新規ユーザーおよび中級ユーザーにお勧めです。
- JDF 用紙属性セットは、JDF（Job Definition Format）用の印刷業界標準の仕様になります。この用紙属性セットは Fiery server 専用のもではなく、このセットを使用すると MIS ジョブ送信ワークフローからの用紙定義のスムーズなマッピングが可能になります。JDF セットは、JDF ワークフローに精通した上級ユーザーにお勧めです。

**メモ：**Fiery server は JDF 印刷をサポートしている必要があり、この機能は **Configure > ジョブ送信 > JDF 設定 > JDF** を使用可能にする。

両方のセットに共通な用紙属性もいくつかありますが、双方で名前が微妙に異なります。JDF セットは PPD セットに比べてより詳細な用紙属性を提供します。

- 1 Substrate Catalog を開きます。詳細については、[Substrate Catalog へのアクセス](#)（180 ページ）を参照してください。
- 2 Substrate Catalog ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。
- 3 使用する仕様で PPD 準拠または JDF 準拠を選択します。

## Substrate Catalog の新規エントリの属性

新規 Substrate Catalog エントリの属性を別のタブでグループごとにまとめることができます。

新規エントリを作成する前に、PPD 設定または JDF 設定のどちらを選択します。詳細については、[Substrate Catalog 設定を選択する](#)（181 ページ）を参照してください。

### PPD 設定

次のタブがあります。

- **一般**：使用する用紙を指定する設定を選択します。
- **サイズ**：既存のエントリを編集するか、新しいエントリを作成します。事前定義されたサブストレートサイズをサイズカタログから選択します。
- **カラー設定**：カラープロファイルを選択します。

### JDF 設定

次のタブがあります。

- **一般とその他の属性**：より詳細に用紙を説明するためのさまざまな JDF 属性が含まれています。

**メモ**：サイズとカラー設定タブは、PPD 設定と JDF 設定の両方で共通です。

## Substrate Catalog エントリーを作成する

システム管理者は Substrate Catalog で新しい用紙および用紙属性を指定できます。

- 1 Substrate Catalog を開きます。詳細については、[Substrate Catalog へのアクセス](#)（180 ページ）を参照してください。
- 2 Substrate Catalog ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックして、PPD 準拠または JDF 準拠設定を選択します。
- 3 ツールバーで**新規追加**をクリックします。
- 4 新規ウィンドウで属性を指定します。  
星印 (\*) が付いた設定では必ず選択をする必要があります。

## Substrate Catalog エントリのサイズ属性を定義する

システム管理者は、Substrate Catalog エントリの作成時または編集時にサイズ関連の属性を設定または変更できます。

1 Substrate Catalog を開き、次のいずれかの操作を行います。

- ツールバーで**新規追加**をクリックします。
- 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**をクリックします。

2 サイズタブをクリックします。

3 エントリをダブルクリックするか、**編集**をクリックします。

4 サイズ ID フィールドで、追加または編集するサイズのエントリが存在することを確認します。

**メモ：**サイズ ID は Fiery server で自動的に生成されます。サイズ ID の変更は可能ですが、サイズ ID が必ず一意になるようにする必要があります。重複するサイズ ID を入力した場合は、エラーメッセージが通知されます。

5 サイズカタログリストで、Substrate Catalog エントリのサイズを選択します。

**メモ：**サイズカタログリストからサブストレートサイズを選択すると、サイズ ID フィールドには選択したサブストレートサイズに割り当てられたサイズ ID が反映されます。サイズ ID を必要に応じて変更できます。

6 紙目方法を選択します。

7 必要に応じて製品 ID を追加し、OK をクリックします。

メイン Substrate Catalog ウィンドウで Substrate Catalog エントリを選択すると、追加または変更されたサブストレートサイズを右ペインで表示できます。また、Substrate Catalog エントリのサイズタブにも表示されます。

## カラープロファイル設定を指定する

システム管理者は、カラー出力プロファイルを Substrate Catalog エントリに関連付けることができます。

Fiery server のデフォルトまたはカスタム出力プロファイルが、割り当て可能な Substrate Catalog 属性として名前別に一覧表示されます。

1 Substrate Catalog ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。

2 Substrate Catalog 設定を PPD 準拠または JDF 準拠に指定します。

3 次のいずれかを行います。

- **新規追加**をクリックします。
- 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集ボタン**をクリックします。

#### 4 カラー設定タブをクリックします。

**おもてカラープロファイル**：用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブに応じて、**CMYK** または、**CMYK** と他の指定カラーの組み合わせ（Fiery server でサポートされている場合）を選択できます。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定して、この属性を上書きできます。この属性は **PPD** と **JDF** のどちらの設定でも表示されます。

**裏カラープロファイル** - 用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブに応じて、**CMYK** または、**CMYK** と他の指定カラーの組み合わせ（Fiery server でサポートされている場合）を選択できます。**裏カラープロファイル**メニューには、おもて面と同じオプションも含まれます。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定して、この属性を上書きできます。この属性は **PPD** と **JDF** のどちらの設定でも表示されます。

#### 5 OK をクリックします。

新規または変更されたエントリが **Substrate Catalog** ウィンドウの**名前**の下に表示されます。

出力プロファイルの詳細については、『カラー印刷』を参照してください。

## Substrate Catalog エントリを変更する

システム管理者は、**Substrate Catalog** エントリを編集または削除できますが、いくつか制限があります。

**Substrate Catalog** エントリがジョブ、仮想プリンター、プリセットのいずれかで使用されている場合は、そのエントリを編集または削除できません。

**メモ**：**Substrate Catalog** エントリが使用されている場合は、製品 ID とカラープロファイル設定を変更することはできませんが、エントリを削除することはできません。

## Substrate Catalog エントリを編集する

**Substrate Catalog** エントリの用紙属性と値を指定できます。

- 1 **Substrate Catalog** ウィンドウで、編集するエントリを選択し、**編集**をクリックするか、選択したエントリをダブルクリックします。  
編集ウィンドウに **Substrate Catalog** エントリが表示されます。
- 2 必要な情報をテキストフィールドに入力するか、または矢印をクリックして属性のリストを表示します。  
新しい属性設定を選択するか、または新しい属性値を入力します。
- 3 **OK** をクリックして変更を保存します。

## Substrate Catalog エントリを削除する

**Substrate Catalog** ウィンドウで 1 つ以上の **Substrate Catalog** エントリを削除できます。

**メモ**：**Substrate Catalog** エントリがジョブ、仮想プリンター、プリセットのいずれかで使用されている場合は、削除できません。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウで、削除する Substrate Catalog エントリーを一覧から選択します。  
連続している複数のエントリーを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリーを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。
- 2 削除をクリックします。  
エントリーを削除してもよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
- 3 はいをクリックします。  
**メモ：**  
複数のエントリーを選択して右クリックし、削除を選択することもできます。

## Substrate Catalog から用紙を選択する

Substrate Catalog は Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウから使用できます。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - アクションメニューからプロパティをクリックします。
  - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。
  - ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
  - ジョブをダブルクリックします。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウで、左側の用紙タブをクリックします。
- 3 Substrate Catalog リストからサブストレートを選択します。
- 4 サイズ ID リストからサイズを選択します。

**メモ：** Substrate Catalog およびサイズ ID リスト内のエントリは、アルファベット順に一覧表示されます。

## 一時的なカスタムサブストレートサイズを割り当てる

サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。ジョブに Substrate Catalog エントリを割り当てる際に適用される定義済みサイズを選択する必要はありません。サブストレートにカスタムサイズを割り当てる場合、サイズカタログでカスタムサイズの新規エントリを作成する必要はありません。一時的なカスタムサイズが役に立つのは、特定のサブストレートサイズの使用が 1 回限りまたは限定されている場合です。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - アクションメニューからプロパティをクリックします。
  - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。



- ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
  - ジョブをダブルクリックします。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウで、左側の用紙タブをクリックします。
  - 3 Substrate Catalog リストから定義されていないを選択します。
  - 4 サブストレートサイズフィールドで、カスタムをクリックし、サブストレートのカスタムサイズ寸法を指定します。  
このカスタムサイズはサブストレートサイズリストに表示されます。  
**メモ：**カスタムサイズの寸法は一時的なもので、サイズカタログに定義されているサイズの一覧には反映されません。

## 一時的なカスタムサブストレートサイズを Substrate Catalog エントリに割り当てる

サイズカタログに新しいサイズを追加しなくても、サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。サブストレートカタログエントリで定義されたサイズ ID を上書きでき、ジョブを再処理しなくても、サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。サブストレートカタログエントリに定義されているその他の用紙関連属性は、現状のまま保持されます。

**メモ：**一時的なカスタムサイズを指定するには、ジョブにサブストレートカタログエントリを割り当てる必要があります。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - アクションメニューからプロパティをクリックします。
  - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。
  - ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
  - ジョブをダブルクリックします。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウで、左側の用紙タブをクリックします。
- 3 Substrate Catalog リストから、ジョブに Substrate Catalog エントリを割り当てます。  
**メモ：**ジョブにサブストレートカタログエントリが割り当てられると、サイズ ID フィールドが有効になります。
- 4 サイズ ID リストからカスタムを選択します。  
サブストレートサイズフィールドが有効になります。
- 5 サブストレートサイズフィールドで、カスタムをクリックし、サブストレートのカスタムサイズ寸法を指定します。  
このカスタムサイズの寸法はサブストレートサイズリストに表示されます。  
**メモ：**カスタムサイズの寸法は一時的なもので、サイズカタログに定義されているサイズの一覧には反映されません。

## Substrate Catalog データベースを管理する

システム管理者が Substrate Catalog データベースを設定および管理します。

Substrate Catalog データベースを設定すると、そのデータベースをエクスポートしたり、別の Substrate Catalog データベースとマージしたり、出荷時のデフォルトにリセットしたりすることができます。

### Substrate Catalog データベースをエクスポートする

エクスポートしたデータベースは.xml ファイルとして保存されるため、いつでも Substrate Catalog にインポートできます。

Substrate Catalog データベースを置き換える前、またはシステムソフトウェアを再インストールする前に、現在のデータベースをエクスポートして別の場所にバックアップしておくことをお勧めします。データベース内の全エントリをエクスポートするか、一部のエントリをエクスポートするかを選択することができます。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウで、ツールバーのエクスポートをクリックし、すべてエクスポート...を選択します。

一部の用紙エントリーのみをエクスポートする場合は、Substrate Catalog で複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート...**を選択します。連続しているエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらかリックし、連続していないエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらかリックします。

- 2 エクスポートしたデータベースファイルを保存するためのコンピューターまたはネットワーク上の保存場所を指定します。
- 3 データベースファイルの名前を入力して、**保存**をクリックします。

エクスポートされたデータベースは.xml ファイルとして保存されます。

### Substrate Catalog データベースを置き換える

システム管理者は、新しいデータベースをインポートして、既存の Substrate Catalog データベースを置き換えることができます。

Substrate Catalog データベースを置き換える前に、現在使用しているデータベースをエクスポートしてアーカイブすることをお勧めします。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウのツールバーでインポートをクリックして、**既存を置換...**を選択します。
- 2 コンピューターまたはネットワーク上にある置換データベースファイル (.xml ファイル) を検索し、**開く**をクリックします。
- 3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

## Substrate Catalog データベースをマージする

システム管理者は、別のデータベースからエントリをインポートして、マージした Substrate Catalog データベースを作成できます。

インポートするデータベース内に既存のデータベースと同一の属性を持つエントリがあった場合、そのエントリはインポートされません。オリジナル（既存）のデータベースエントリがそのまま修正されずに残ります。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウのツールバーでインポートをクリックし、**既存とマージ...**を選択します。
- 2 インポートするデータベースファイル（.xml ファイル）をコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。

これで現在の Substrate Catalog データベースに、選択したデータベースがマージされました。

**メモ：**インポートしたデータベース内で用紙と関連付けられていたカラープロファイルはすべて、マージ後は無効になります。

上記の手順を繰り返すことで複数の Substrate Catalog データベースを 1 つにマージできます。

## Substrate Catalog を工場出荷時のデフォルトにリセットする

システム管理者は、Substrate Catalog データベースを工場出荷時のデフォルトに復元させることができます。

Substrate Catalog を工場出荷時のデフォルトにリセットすると、追加または編集したカタログエントリはすべて失われます。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、工場出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のカタログデータベースをエクスポートしてください。

- 1 Substrate Catalog ウィンドウのツールバーで出荷時デフォルト設定にリセットをクリックします。

**メモ：**出荷時デフォルト設定にリセットアイコンがサブストレートカタログツールバーのビューで非表示になっている場合、サブストレートカタログウィンドウを拡大表示するか、モアアイコン（3つのドット）をクリックしてから、出荷時デフォルト設定にリセットをクリックします。

- 2 警告メッセージが表示されたらはいをクリックします。

# サブストレートエントリ

Substrate Catalog エントリを作成または編集する際には、さまざまなサブストレート属性を指定できます。カタログエントリのサブストレート属性を設定するには、Substrate Catalog のメインウィンドウまたは編集ウィンドウを使用します。

入力が必要な属性は名前の横に星印 (\*) が表示されます。入力が必要な属性のフィールドは、空のままにできません。

Substrate Catalog では、次の 2 種類のサブストレート属性セットを提供しています。

- プリンター (PPD) 準拠  
各 PPD 設定で表示される選択肢は、接続している Fiery server の PPD によって決まります。
- JDF (Job Definition Format)  
JDF 属性は標準であり、接続している Fiery server に依存しません。

## 一般的な用紙属性

属性名は Substrate Catalog ウィンドウの列ヘッダーに表示されます。その内容は、選択した設定が PPD 準拠か JDF 準拠かによって異なります。

JDF 属性について、以下に説明します。同等の PPD 設定も含まれています。Substrate Catalog エントリの作成に指定された PPD 属性はプロジェクトごとに異なります。そのため、PPD 属性の用語もさまざまです。使用している製品で可能な PPD 設定の詳細については、『印刷ガイド』を参照してください。

**メモ：**属性の説明では、「用紙」または「紙」という用語は「サブストレート」を指します。

% (再生紙率)	用紙に含まれる再生紙の比率をパーセントで入力します。
裏	用紙の裏面に適用できる設定です。裏 (192 ページ) を参照してください。おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面のオプションの中から選択することができます。
裏カラープロファイル	用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。この属性は PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。
明るさ	用紙の光反射率です。値は、0% (低反射率) から 100% (高反射率) の範囲で指定します。
CIE Lab カラー	デバイス非依存の用紙の色です。CIE L*a*b*値でカラーを指定します。

ティント (CIE)	用紙の中立、非飽和、非着色の度合いを示します。用紙の Tint 値は、CIE の xyz 座標値を使用して指定します。(0, 0, 0) の座標値は、レッド-グリーン軸で完全に中立であることを示します。
白色度 (CIE)	可視スペクトラム全体で計測される、用紙による光の反射量を示します。反射量は、CIE の xyz 座標値による値で指定します。(100, 100, 100) の座標値は、完全な白色を示します。
カラー名	用紙のカラーです。半透明の用紙を指定するには、「クリア」カラーオプションを選択します。
カスタムカラー名	用紙のカスタムカラーです。「カラー」メニューに目的のカラーが表示されない場合は、このフィールドにカスタムカラーの名前を入力します。
説明	ユーザーがこの用紙を注文する際に役立つわかりやすい情報です。
寸法	使用する用紙の寸法が表示されます。
紙目方向	波型のサブストレートが給紙される方向を指定します。次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>なし：デフォルト。</li><li>短辺 - 波型のサブストレートが給紙される際の短辺側。</li><li>長辺 - 波型のサブストレートが給紙される際の長辺側。</li></ul>
おもて:	用紙のおもて面に適用できる設定です。 <a href="#">おもて (191 ページ)</a> を参照してください。
おもてカラープロファイル	用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。この属性は PPD 準拠と JDF 準拠の両方の設定で表示されます。
グレード	用紙表面の質を示します。1~5 のレベルで指定します。 <a href="#">グレード (193 ページ)</a> を参照してください。
用紙ユニット	プリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。 <a href="#">用紙ユニット (193 ページ)</a> を参照してください。
名前	用紙を説明するカタログエントリーの記述的な名前。適切な名前をこのフィールドに入力します。
不透明度	不透明度属性は用紙の透明レベルを示します。 <a href="#">不透明度 (193 ページ)</a> を参照してください。
不透明度レベル%	用紙の不透明度です。0%は完全に透明、100%は完全に不透明であることを示します。
印刷済み	このチェックボックスがオンになっている場合は、用紙には印刷済みの内容が含まれていることを示します。このチェックボックスがオフになっている場合は、用紙には印刷済みの要素がないことを示します。

## 印刷テクノロジー

使用できる印刷テクノロジーを選択します。

- **オフセット**：金属プレートを使用して（オフセット）画像をゴム媒体またはローラーに転写した後、サブストレートに印刷します。
- **レーザー**：光や「レーザー」を使用してテキストや画像をサブストレートに転写します。このタイプの印刷では、トナーやドライインクパウダーを使用してサブストレートに印刷します。
- **インクジェット**：プリンターのノズルからインク滴を放出して印刷します。

## 製品 ID

製品番号、アイテムコード、商品コードなど、使用されるメディアに関する識別子であり、印刷オペレーターによって手動で、または Management Information System (MIS) によって定義されます。

## で、次のいずれかを行います

使用可能な定義済み用紙サイズの一覧です。

## サイズ ID

サイズカタログから選択された用紙のサイズを示します。サイズ ID は Fiery server で自動的に生成されます。

## テクスチャ

テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。[テクスチャ](#)（193 ページ）を参照してください。

## 厚さ

用紙の厚さをミクロン（ $\mu\text{m}$ ）単位で指定します。

## タイプ

使用する用紙のストックタイプを記述します。次のオプションから選択します。

- **用紙** - 標準の繊維質の用紙です。
- **透明度** - プロジェクターに使用する透明の OHP シートです。

## タイプ (PPD ベース)

使用する用紙のストックタイプを記述します。オプションリストには、ジョブの種類に応じて使用できるさまざまな種類の用紙が含まれています。

## 種類詳細

種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。[種類詳細](#)（195 ページ）を参照してください。

## 重量

重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位（ $\text{g}/\text{m}^2$ ）またはポンド（ $\text{lb}$ ）を単位として表されます。[重量](#)（195 ページ）を参照してください。

## おもて

おもて領域には、用紙のおもてに適用できる次の属性があります。

次のオプションから選択します。

## コート

用紙のおもて面のコーティングの種類です。[コート](#)（192 ページ）を参照してください。

## 光沢値

光を 75 度の角度で当てたときに、用紙おもて面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいことを示します。

**印刷可能面** 画像を印刷する面を指定します。

## 裏

裏ウィンドウには、用紙の裏に適用できる次の属性があります。

**おもて面と同じ** おもてウィンドウで選択した設定と同じ設定にします。[おもて](#) (191 ページ) を参照してください。

**メモ：**Fiery server では、おもて面と同じがデフォルトになっています。おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面属性のオプションの中から選択することもできます。

**コート** 用紙の裏面に適用される前処理コーティングの種類を指定します。[コート](#) (192 ページ) を参照してください。

**光沢値** 光を 75 度の角度で当てたときに、用紙裏面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいことを示します。

**印刷可能面** イメージを印刷する面を指定します。

## コート

コート属性は、用紙に使用する表面コートのタイプを示します。

次のオプションから選択します。

**なし** コーティングを適用しません。

**コート紙** 表面シーリング剤を使用して、表面光沢、なめらかさ、重みなどの質感を用紙に与えます。

**光沢** つやと反射が強いコーティング。

**高光沢** 鏡面仕上げを行うすべてのコーティングの中で最も光沢があります。このコーティングは非常に反射が強く、シャープな解像度を実現します。

**マット** つやがほとんどない非光沢で、「フラット」とも呼ばれます。このコーティングでは、用紙の厚みが少し増すことがあります。

**サテン** 光沢レベルは光沢コーティングより低く、マットコーティングより高くなります。カラーはくっきりと鮮やかに用紙に印刷されます。

**半光沢** 光沢レベルは、光沢コーティングとマットコーティングのほぼ中間に位置します。このコーティングはシャープな解像度を実現します。

## グレード

グレード属性は用紙表面の質を示します。1～5 のレベルで指定します。

**メモ：**この属性は、デジタル印刷の場合は通常使用しません。

使用する必要がある場合は、次のガイドラインに従ってください。

1	光沢コート紙
2	マットコート紙
3	光沢コート紙（ロール）
4	非コート紙（白）
5	非コート紙（ナチュラル）

## 用紙ユニット

用紙ユニット属性は、プレスまたはプリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。

次のオプションから選択します。

シート	1 枚 1 枚カットされた紙です。
ロール	スピンドルに巻き付けられた連続紙です。
連続	折りたたまれた連続紙（ファンフォールド紙）です。

## 不透明度

不透明度属性は用紙の透明レベルを示すものです。

次のオプションから選択します。

不透明	用紙/メディアが不透明な場合に選択します。このタイプの用紙/メディアでは、両面印刷しても通常は裏面が透けて見えることはありません。
半透明	バックライト表示のようなある照明条件化で透明であるような用紙/メディアを使用する場合に選択します。
透明	すべての照明条件下で裏が見えている用紙/メディアを使用する場合はこのオプションを選択します。

## テクスチャ

テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。



次のオプションから選択します。

アンティーク	表面はベラムより粗い仕上げになっています。
カレンダー仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙です。
コックル	紙の表面にさざ波状のしわを付けた仕上げです。
無光沢	光沢やつやのないコート紙です。
エッグシェル	表面が卵の殻のような模様の付いた仕上げです。
リネンエンボス	表面が粗織り布に似た、エンボス加工の仕上げです。
英語	マシン仕上げよりスムーズで、スーパーカレンダー仕上げより粗い仕上げの表面です。
フェルト	特殊フェルト加工仕上げです。
レイド	垂直線と水平線のパターン（すそ目模様）の仕上げです。
ライトコックル	コックルほどのしわのない、さざ波状のしわをもつ仕上げです。
リネン	表面が粗織り布のテクスチャをもつ仕上げです。
光沢	光沢のある仕上げです。
マシン仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙ですが、イングリッシュよりも粗い仕上げです。
マット	光沢やつやのない無光沢仕上げです。
モトル	斑点模様の仕上げです。
パーチメント	羊皮紙に似た外観を持つ仕上げです。
サテン	サテン地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
セミベラム	わずかに粗い仕上げですが、ベラムより滑らかです。
シルク	絹織物に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スムーズ	表面が滑らかな仕上げです。
スティップル	微細な凹凸仕上げです。
スエード	スエード地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スーパーカレンダー仕上げ	最もスムーズで、最もつやのある非コート紙です。
スーパースムーズ	凹凸のない仕上げです。ウルトラスムーズよりも滑らかです。
トラディショナルレイド	レイドよりも込み入ったパターンのすそ目模様の仕上げです。
ウルトラスムーズ	凹凸のない仕上げですが、スーパースムーズほど滑らかではありません。

カレンダー仕上げなし	粗くつやのない非コート仕上げです。
ベラム	やや粗い無光沢仕上げです。
ベルベット	ベルベット地に似た滑らかな無光沢仕上げです。
ウーブ	柔らかく滑らかな仕上げです。

## 種類詳細

種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。  
次のオプションから選択します。

普通紙	このオプションは、用紙ストックが特別な記述を必要としない場合に選択します。システムによっては、このオプションの指定が必須の場合がありますが、多くの場合には普通紙を使用する場合でもこのオプションは指定する必要はありません。
ボール紙	段ボールにも使用される用紙です。
連続紙（横取り）	サイズによって定義された長辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
連続紙（縦取り）	サイズによって定義された短辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
ラベル	シールのラベル用紙です。

## 重量

重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位 (g/m<sup>2</sup>) またはポンド (lb) を単位として表されます。  
北米地域の用紙ストックタイプの基本重量は、ポンド単位 (lb) で表されます。単位を g/m<sup>2</sup> に変換するには、基本重量に、適切な変換係数を乗算します。

たとえば、50 ポンドの Bond ストックの重さをグラム値で表すには、次の計算を行います。

$$\text{基本重量} \times \text{変換係数} = 50 \times 3.76 = 188\text{g/m}^2$$

用紙ストックタイプごとの変換係数については、次の表を参照してください。

用紙ストックタイプ	変換係数
Bond	3.76
Ledger	3.76
Thin (manifold, onion skin)	3.76
Duplicator	3.76

用紙ストックタイプ	変換係数
Safety	3.76
Uncoated book	1.48
Coated book	1.48
Text book	1.48
Cover Papers	2.70
Index bristol	1.81
Tagboard	1.63
Blanks	2.28
Printing bristol	2.19
Wedding bristol	2.19
Blotter	3.08
Label	1.48
Newsprint	1.63

# サイズカタログ

サイズカタログでは、よく使用するカスタムサイズのリストをユーザーが作成できます。サイズカタログは Fiery server に格納されます。ジョブごとにサブストレートのサイズ寸法を指定する必要があると、どうしてもエラーが発生する可能性があります。サイズカタログを作成すると、そのようなおそれは少なくなります。

**メモ：**サイズカタログを管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

## Command WorkStation からサイズカタログへのアクセス

サイズカタログには、Command WorkStation > デバイスセンター > サイズカタログからアクセスします。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターにアクセスします。

- サーバーリストの Fiery server の横にある、その他アイコン (3 つのドット) をクリックし、デバイスセンターを選択します。
- サーバーリスト内の Fiery server を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- サーバー一覧で Fiery server をダブルクリックします。
- Command WorkStation のサーバーメニューでデバイスセンターをクリックします。

2 デバイスセンターで、リソースをクリックし、サイズカタログを選択します。

**メモ：**サイズカタログツールバーでエクスポートと出荷時デフォルト設定にリセットが非表示になっている場合、デバイスセンターウィンドウを拡大するか、または詳細アイコン (3 つの縦のドット) をクリックして、各アイコンのオプションを表示します。

## サイズカタログを管理する

サイズカタログを初めて開くと、デフォルトのサイズカタログエントリが一覧表示され、サブストレートの名前と寸法が表示されます。サイズカタログを設定したら、エントリの追加、変更または削除、公開または非公開、インポートまたはエクスポート、出荷時のデフォルトへのリセットを行えます。

## サイズカタログエントリを作成/編集する

よく使用するサブストレートのカスタムサイズのサイズカタログエントリを作成または編集できます。

**メモ：**デフォルトのサイズカタログエントリは編集できません。

1 デバイスセンター リソース > サイズカタログ > で、次のいずれかを行います。

- 新規追加アイコンをクリックして、サイズカタログエントリを作成します。
- 既存のエントリを編集するには、エントリを選択し、編集アイコンをクリックします。

**メモ：**エントリを編集するには、エントリをダブルクリックするか、エントリを右クリックして編集を選択することもできます。

2 追加または編集ウィンドウで、エントリの名前や寸法を指定または変更します。

次の点に注意してください。

- サイズカタログエントリごとに一意の名前が必要です。2つのサイズカタログエントリが同じ名前を共有することはできません。
- 各サイズカタログエントリの名前が一意であれば、同じ寸法のサイズカタログエントリが複数あってもかまいません。
- サイズカタログエントリの寸法のデフォルト測定単位は、Command WorkStation > 編集 > 環境設定 > 地域 > 測定単位で設定できます。
- サイズカタログエントリの幅は、サブストレートの先端/給紙辺/グリッパーエッジを示します。

3 OK をクリックします。

新規または変更されたエントリがサイズカタログに一覧表示されます。

**メモ：**デフォルトのサイズカタログエントリは、プレスの性能によって異なる場合があります。

## サイズカタログエントリを削除する

サイズカタログから1つ以上のサイズカタログエントリを削除できます。

**メモ：**デフォルトのサイズカタログエントリは削除できません。

1 デバイスセンター > リソース > サイズカタログで、削除する1つまたは複数のエントリを選択します。

連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- エントリを右クリックし、削除を選択します。
- ツールバーの削除アイコンをクリックします。

エントリを削除してもよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3 はいをクリックします。

選択したエントリがサイズカタログから削除されます。

## サイズカタログエントリを公開または非公開にする

デフォルトでは、すべてのサイズカタログエントリが画面に表示され、ユーザーがジョブ用に選択できます。つまり、これらのエントリは「公開」されます。

サイズカタログに記載されているエントリを非公開にすることができます。サイズカタログエントリが非公開になると、そのエントリはサイズカタログエントリの一覧で使用できなくなります。さらに、非公開になったサイズカタログエントリは、ユーザーがサブストレートサイズを指定する際に選択することができません。サイズカタログで非公開エントリを隠すチェックボックスを選択して、非公開エントリを非表示にすることができます。

エントリーを非公開にしても、いつでもそのエントリをまた公開することができます。

- 1 まず、**デバイスセンター > リソース > サイズカタログ**で、公開または非公開にするエントリを選択します。  
連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - エントリーを非公開にするには、ツールバーの**非公開アイコン**をクリックします。
  - エントリーを公開するには、ツールバーの**公開アイコン**をクリックします。

**メモ：**また、サイズカタログエントリを右クリックし、**非公開**または**公開**を選択することもできます。

## サイズカタログエントリをインポートする

すでに作成したサイズカタログエントリをインポートして、既存のサイズカタログに追加することができます。

インポート時に、別の寸法の重複するサイズ名が見つかった場合は、寸法はそのまま「\_1」や「\_2」などの接尾辞がサイズ名に付加されます。

- 1 内 **デバイスセンター > リソース > サイズカタログ**で、ツールバーの**インポートアイコン**をクリックします。
- 2 インポートする.json ファイルをコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。  
.json ファイルがサイズカタログにインポートされ一覧表示されます。json ファイルに複数のサイズカタログエントリ含まれている場合は、各サイズカタログエントリが別々に一覧表示されます。

既存のサイズカタログにさらに追加するサイズカタログエントリについて、この手順を繰り返します。

## サイズカタログエントリをエクスポートする

エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存され、いつでもサイズカタログにインポートできます。

サイズカタログのすべてのエントリまたは一部のエントリのエクスポートを選択することができます。公開サイズカタログエントリも非公開サイズカタログエントリもエクスポートできます。

- 1 デバイスセンター>リソース>サイズカタログで、ツールバーにあるエクスポートアイコンをクリックし、すべてエクスポート...を選択します。  
一部のサイズカタログエントリのみエクスポートする場合は、複数のエントリを選択し、選択項目をエクスポート...を選択することができます。連続しているエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。
- 2 エクスポートしたサイズカタログエントリを保存する場所を、使用しているコンピューターまたはネットワーク上で指定します。
- 3 エクスポートしたエントリの名前を入力した後、保存をクリックします。  
エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存されます。

**メモ：**複数のサイズカタログエントリを選択するか、すべてエクスポート...オプションを使用しても、1つの.json ファイルのみが作成されて、エクスポートしたサイズカタログエントリがそのファイルに保存されません。

## サイズカタログを工場出荷時のデフォルトにリセットする

工場出荷時デフォルト値へのリセットを使用すると、サイズカタログを工場出荷時のデフォルトエントリと属性に復帰させることができます。

サイズカタログを工場出荷時のデフォルトにリセットすると、追加/編集されたサイズカタログエントリはすべて消去されます（ただし、サイズカタログエントリがジョブに割り当てられている場合を除きます）。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、工場出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のサイズカタログをエクスポートしてください。

- 1 デバイスセンター>リソース>サイズカタログを開き、ツールバーの出荷時デフォルト設定にリセットをクリックします。
- 2 警告メッセージが表示されたらはいをクリックします。

# Graphic Arts ツール

## Fiery グラフィックアート機能

Fiery server のグラフィックアート機能にはパッケージで提供されるものがあります。Fiery server がどのパッケージに対応しているかについては、Fiery server に付属の取扱説明書を参照してください。

次のパッケージを使用できます。

- [Fiery Graphic Arts Pro Package](#) (201 ページ)

## Fiery Graphic Arts Pro Package

Fiery Graphic Arts Pro Package には、特にグラフィックアートアプリケーションの要件に適合した機能が含まれています。このパッケージが Fiery server にインストールされていると、Command WorkStation で次の機能を使用できます。

- [コントロールバー](#) (201 ページ)
- [Fiery ImageViewer](#) (209 ページ)
- [プリフライト](#) (206 ページ)
- [Spot Pro のスポットカラー](#) (144 ページ)

Fiery Graphic Arts Pro Package の次の機能は、Command WorkStation の一部ではありません。

- Ugra/Fogra Media Wedge
- Integrated Altona Visual Test

## コントロールバー

Fiery server でコントロールバー機能がサポートされている場合は、ユーザーが定義した場所で、静的なカラーバーや動的なジョブ情報を含むコントロールバーを各印刷済みページに追加できます。

この機能は、ジョブのカラー精度の校正やチェックに役立ちます。コントロールバーは、[Fiery Color Profiler Suite](#) などの分析ツールと併用して、カラー品質評価に使用できます。

コントロールバーはジョブごとに有効にでき、またサーバーのデフォルト設定としてすべてのジョブでコントロールバーを印刷する設定も可能です。

コントロールバーは編集することも、新規に作成することもできます。コントロールバーはジョブの一部ではないため、コントロールバー付きで印刷したジョブを、コントロールバーの定義を変更した後に印刷すると、異なる印刷結果を得ることができます。



コントロールバーは、PostScript ジョブと PDF ジョブでサポートされています。

標準のコントロールバー (Fiery と呼ばれる) と任意のカスタムコントロールバー (独自に作成したもの) を任意のページサイズに適用できます。コントロールバー印刷オプションを使用すると、ジョブに使用するコントロールバーを選択できます。また、コントロールバーの定義を編集する場合、指定のページサイズでコントロールバーがどう表示されるかプレビュー表示することができます。

## デフォルトでコントロールバーを印刷

FS200/200 Pro 以降の Fiery システムソフトウェアですべてのジョブにコントロールバーを印刷するように、サーバーのデフォルトを設定できます。

- 1 詳細アイコン (3つのドット) をクリックし、**デフォルト設定...**を選択します。
- 2 デフォルト設定ウィンドウで**ジョブ情報**を選択します。

- 3 レポートまでスクロールし、**コントロールバー**のメニューオプションを選択します。

Fiery server には、出荷時のデフォルトのコントロールバーが「Fiery」という名前で用意されています。カスタムコントロールバーを作成することができます。

- 4 以下から選択します。

- オフ : コントロールバーは印刷されません。
- Fiery : 出荷時のデフォルトのコントロールバーが印刷されます。
- カスタムコントロールバー : すべてのカスタムコントロールバーが一覧表示されます。選択した1つが印刷されます。

コントロールバーの設定をロックして、ユーザーによる変更を禁止することができます。

**メモ :** 出荷時のデフォルトはオフです。ジョブのプロパティを出荷時のデフォルトにリセットするには、**デフォルト設定**ウィンドウでリセットをクリックします。

## コントロールバーを表示および編集する

コントロールバーの定義を表示したり、設定を編集することができます。

- 1 デバイスセンターの**カラー設定**で、**コントロールバー**をクリックします。
- 2 リストからコントロールバーを選択すると、ウィンドウの右側に定義が表示されます。
- 3 設定を変更するには、**編集**をクリックし、各オプションの値を定義します。

- **コントロールバーの名前** - コントロールバーの選択に使用する名前です。
- **カラーバー** - カラーバー表示のオン/オフ、標準画像からの選択、カスタム画像 (EPS や PDF 形式) のインポート、イメージの配置の指定などを実行できます。

**メモ :** PDF 形式のイメージの場合、最初のページのみが使用されます。

- ジョブ情報 - ジョブ情報の表示のオン/オフ、表示するジョブ設定の選択、テキストの表示や配置の指定などを実行できます。

**メモ：** 使用できるジョブ設定は、Fiery server のモデルによって異なります。

- ページ設定 - プレビューページサイズの選択、余白の指定（カラーバーおよびジョブ情報は余白の内側に配置されます）、ミラー画像（透明な用紙）の選択などを実行できます。

4 OK をクリックして、編集した内容を保存します。

## カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する

コントロールバーを複製してそれぞれのニーズに合ったカスタムコントロールバーを作成できます。また、コントロールバーを新規に作成することもできます。たとえば、カラーバーのイメージとして別の EPS ファイルを使用したコントロールバーを作成できます。

- 1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - コントロールバーを複製するには、コントロールバーを選択して、複製をクリックします。
  - カスタムコントロールバーを作成するには、新規作成をクリックします。
- 3 各オプションの値を指定します。  
詳細については、[コントロールバーを表示および編集する](#)（202 ページ）を参照してください。
- 4 OK をクリックして、コントロールバーを保存します。

## カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する

Fiery server からコンピューターにカスタムコントロールバーをファイルとしてエクスポートし、ローカルコピーを共有したり、別の Fiery server にインポートしたりすることができます。インポートされたコントロールバーは、すぐに Fiery server で使用できるようになります。

**メモ：** カスタムコントロールバーは削除できますが、標準のコントロールバーは削除できません。

FS200/200 Pro ソフトウェアが動作する Fiery server で作成されたコントロールバーは、前のバージョンのソフトウェアが動作する Fiery server にインポートできません（あるいはその逆もインポートできません）。

エクスポートされたコントロールバーにインポート先の Fiery server でサポートされていない機能が含まれている場合（たとえば、Fiery server 固有のジョブ設定など）、インポート先では非表示になります。

- 1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
  - コントロールバーをエクスポートするには、コントロールバーを選択し、エクスポートをクリックし、ファイルの保存先を指定して、フォルダー選択をクリックします。
  - コントロールバーをインポートするには、インポートをクリックし、対象のコントロールバーを検索して選択し、開くをクリックします。

- 3 カスタムコントロールバーを削除するには、対象のコントロールバーを選択し、削除をクリックして、確認画面ではいをクリックします。

## トラッピング

トラッピングとは、多色刷りの印刷時に版の位置ずれによってオブジェクト周囲に白い縁、または「すき間」が発生するのを防ぐ手法です。トラッピング機能を使用して、オブジェクトを拡大または縮小して印刷し、オブジェクトの周囲にすき間が発生するのを防止します。

自動トラッピング印刷オプションを有効に設定すると、トラッピングがジョブに適用されます。

使用している Fiery server が設定可能なトラッピング機能をサポートしている場合は、自動トラッピング印刷オプションのトラッピング設定を完全にコントロールできます。Fiery server の出荷時デフォルト設定は、プリンターでの普通紙印刷用に最適化されています。ほとんどの場合、デフォルトのトラッピング設定でも十分な結果が得られますが、使用した用紙での印刷品質に納得できない場合は、条件に合うようトラッピングの値を設定してください。デバイスセンターのトラッピングペインで出荷時のデフォルトボタンをクリックすると、いつでもトラッピング設定を出荷時のデフォルトに復元できます。

**メモ:** トラッピング設定を操作するには、システム管理者としてログインする必要があります。オペレーターはトラッピング設定を表示できますが、変更することはできません。

トラッピングについての詳細は、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

## すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する

デフォルト設定ウィンドウの自動トラッピングチェックボックスを選択すると、Fiery server に送信されるすべてのジョブにトラッピングが適用されます。

- 1 詳細アイコン (3つのドット) をクリックし、デフォルト設定...を選択します。
- 2 デフォルト設定ウィンドウで、カラーを選択します。
- 3 カラー設定が見えるまでスクロールし、自動トラッピングを選択します。  
この設定をロックして、ユーザーがジョブのプロパティで変更できないようにすることができます。

## トラッピング幅を指定する

トラッピング幅の値で、オブジェクト間のトラッピングエリアの幅が決定します。幅の値は、給紙方向を基準に指定します。横方向は給紙方向に対して垂直となり、縦方向は給紙方向に対して平行となります。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピング幅で、水平方向および垂直方向のトラッピング幅を指定します。また、トラッピング幅を強制的に同じ値にする場合は、水平方向の値と垂直方向の値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、設定されている数値が異なる場合、そのうちの高い方の値が使用されます。
  - 横 - 水平方向のトラップ幅を指定します (0~10 ピクセル)。
  - 縦 - 垂直方向のトラップ幅を指定します (0~10 ピクセル)。

ビットマップ画像の表示で、選択した値の結果をすぐに確認することができます。

## トラッピングカラーリダクションを指定する

トラッピングカラーリダクション値によって、トラッピングに適用される各カラーの濃度が決定されます。色の異なる2つのオブジェクト間にトラッピングを適用すると、2色のカラーを組み合わせた3つ目のカラーが生成されます。トラッピングカラーリダクション機能を使用すると、この3つ目のカラーによる線を見えにくくすることができます。

トナーの濃度リダクションの割合を指定します。100%を選択すると、トラッピングエリアにトナー濃度が適用されません。0%を選択すると、オブジェクトの縁と同じトナー濃度が適用されます。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピングカラーリダクションで、以下のカラーチャンネルの値を指定します。
  - シアン - シアン用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
  - マゼンタ - マゼンタ用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
  - イエロー - イエロー用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
  - ブラック - ブラック用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
- 3 (オプション) トラッピング値を強制的に同じ値にする場合は、トラッピングリダクション値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、異なる数値が設定されている場合、そのうちの最も高い値が使用されます。

各カラーの左にあるアイコンで、選択した値の結果を視覚的に確認することができます。

## トラッピングセル形状を指定する

トラッピングセル形状は、コントラストの強い背景に対してトラッピングを適用する際のピクセルの形を選択します。ピクセルより大きい要素の場合は、形状、または形状の一部がオブジェクトのコーナーから見えるようになります。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピングセル形状で、楕円、ダイヤモンド、または長方形を選択します。

## オブジェクトのトラッピング方法を指定する

オブジェクトのトラッピング方法でオプションが選択されていない場合は、オブジェクト (テキストとグラフィック) に対するトラッピングのみ適用されます。画像にトラッピングを適用するには、オブジェクトのトラッピング方法の設定を使用します。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。

2 オブジェクトのトラッピング方法で、以下のいずれかのトラッピング方法を選択します。

- オブジェクトを画像にトラップ - 各オブジェクトおよび画像の境界線にトラッピングが適用されます。
- 画像内でトラップ - 画像内の各ピクセルにトラッピングが適用されます。このオプションは、オブジェクトを画像にトラップが選択されている場合のみ選択することができます。

## プログレッシブ

「プログレッシブ」とは、マルチカラー書類で CMYK 色分解の任意の組み合わせを印刷することを指します。分解の印刷またはブルーフは、ジョブの問題を診断するために使用できます。

デバイスセンターまたはジョブのプロパティでプログレッシブを設定または印刷することはできません。ただし、ImageViewer で分解を表示して印刷すると、同じような操作を実行できます。曲線を特定のインクで統合すると、それをプリセットとして保存できます。詳細については、[Fiery ImageViewer](#) (209 ページ) を参照してください。

プログレッシブの順序が、プリンターで実際に適用される順序を表す必要はありません。画像の構成分析には別の順序が便利な場合もあります。

プログレッシブ機能を使用すると、トラッピング効果の確認、2 種類のカラートナー間でのハーフトーン作用のチェック、2 つの版同士での登録の確認、カラー分解パラメーターの表示などができます (たとえば、ブラック版のみ、またはブラック版以外の全色印刷時にグレー置換 (GCR) レベルを確認するのに便利です)。

プログレッシブ機能は、プリンターで印刷する場合にジョブで使用される色分解を示します。この機能は、他のプリンターに対するブルーフに使用されることは想定していません。

## プリフライト

印刷前にプリフライト機能を使用してジョブを確認し、印刷エラーを低減して無駄なコストを削減することができます。プリフライト機能を使用すると、印刷時にエラーが発生しがちな項目を確認し、選択したプリンターで予想通りの印刷結果が得られるようにします。

プリフライトでは、エラーだけではなく、セキュリティ設定、ページサイズ、色空間などジョブに関する情報のレポートも生成されます。

プリフライトのチェックは、Hot Folders、仮想プリンター、Command WorkStation で有効化できます。

**メモ:** 処理済みのジョブをプリフライト機能でチェックすることはできません。

プリフライトでは次のファイル形式がサポートされています。

Fiery サーバー	サポートされているファイル形式
Windows ベース	PostScript、PDF、EPS、PPML、Creo VPS および PDF/VT
埋め込み	PostScript、PDF、EPS、Creo VPS

TIFF および PCL ファイル形式はプリフライト機能でサポートされていません。

プリフライト機能では、次のカテゴリーのエラーをチェックできます。

- フォント - 不明のフォントおよび Courier フォントの置換をチェックします。
- スポットカラー - 不明のスポットカラーをチェックします不足しているスポットカラーは、Command WorkStation のスポットカラーで追加できます。
- イメージ解像度 - 指定値未満のイメージの解像度をチェックします。
- バリアブルデータ印刷リソース - 不明のバリアブルデータ印刷リソースをチェックします。チェックするレコード数を指定して、処理時間が長くなるのを防ぐことができます。
- ヘアライン - 指定値未満のヘアライン幅をチェックします。
- オーバープリント - オーバープリントをチェックします。
- PostScript - PostScript エラーをチェックします。

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

## プリフライトチェックの設定と実行

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

- 1 ジョブセンターで、待機ジョブを選択し、アクション > Preflight を選択します。
- 2 必要に応じて、プリセットリストからプリセット（設定のコレクション）を選択します。
- 3 チェックするエラーの各カテゴリを選択し、任意の設定を指定します。特定のカテゴリをスキップするには、該当するチェックボックスの選択を解除します。  
スキップされたカテゴリは、**未確認**と表示されます。
- 4 エラーのカテゴリごとに通知レベル（**重大**または**警告**）を選択します。
- 5 重大エラーが検出され次第、プリフライトの実行を停止する場合は、1 つ目の重大エラーでプリフライトを中止を選択します。
- 6 設定を新規プリフライトとして保存するには、プリセットリストから**別名保存**を選択します。
- 7 この設定でプリフライトチェックを実行するには、**Preflight** をクリックします。  
プリフライトが実行され、結果がレポートに表示されます。このレポートを印刷して保存できます。レポートを再表示するには、ジョブセンターでジョブを選択し、**プリフライトレポート表示**を選択します。

## 用紙シミュレーションの白色点編集

用紙シミュレーション機能では、ページの白の領域を印刷せずにおくのではなく、出力の印刷カラーとして白で用紙を塗ることができます。白色点編集を使用することによって、CMYK ソースプロファイルで白色点として定義されている、シミュレーションの用紙の白の色相、明るさ、および彩度を調整することができます。

お使いの Fiery server が白色点編集付きの用紙シミュレーションをサポートしている場合、必要であれば、納得の行く結果を得るために白色点をカスタマイズすることができます。

**メモ：**代替カラーを C=0、M=0、Y=0、K=0 に定義している場合、「代替カラー」で定義した値によって「用紙シミュレーション」の値が上書きされます。

## 用紙シミュレーションの白色点値を編集する

用紙シミュレーションの白色点編集機能では、既存の CMYK ソースプロファイルのカスタマイズして、白色点を調整することができます。調整したカスタムプロファイルは、特定の出力プロファイルにリンクさせる必要があります。用紙シミュレーションの白色点編集を反映させるには、ジョブを印刷する際、編集済みのカスタム CMYK ソースプロファイルとそれにリンクされている出力プロファイルを選択する必要があります。

既存の CMYK ソースプロファイルを保存するには、白色点を編集する前にプロファイルを複製しておいてください。プロファイルをエクスポートし、別の名前を付けてインポートすることにより、プロファイルを複製できます。

**メモ：**CMYK ソースプロファイルの白色点を編集することはできますが、出力プロファイルを編集することはできません。

ES-2000 などの分光測色計を使用できる場合は、カラーの測定値を直接インポートできます。この機能によって、用紙の実際のカラーに基づいたターゲットカラーを指定することができます。分光測色計を使用するには、白色点の編集を開始する前に、分光測色計のインストールと設定を実行してください。

**メモ：**X-Rite i1Pro 2 を使用する場合は、EFI 社から購入したものを使用する必要があります。

- 1 デバイスセンターで「リソース > プロファイル」をクリックします。
- 2 カスタマイズする CMYK ソースプロファイルを選択して、用紙シミュレーションをクリックします。
- 3 上記の CMYK ソースプロファイルにリンクする出力プロファイルを選択して、OK をクリックします。

**メモ：**カスタムプロファイルを使用してジョブを印刷する場合は、ここで選択した出力プロファイルを選択する必要があります。

- 4 モニタープロファイルで、使用しているモニターに適したモニタープロファイルが表示されていることを確認します。

モニター上でカラーを正確に表示するには、製造元推奨のモニター設定を行い、適切なモニタープロファイルを指定する必要があります。

- 5 分光測色計を使用して白色点を測定するには、その分光測色計アイコンをクリックします。
- 6 分光測色計をキャリブレーションドックに置いて、キャリブレーションをクリックします。キャリブレーションにより、測定の精度が向上します。
- 7 分光測色計の計測部が測定するカラーの中央にくるように、分光測色計をカラーの上に置きます。
- 8 分光測色計のボタンを押して測定します。測定した CMYK 値が CMYK フィールドにインポートされ、対応する Lab 値が表示されます。

9 必要に応じて、色相、明るさ、彩度の値を手動で編集します。

- 色相 - 0.0 から 359.9 まで
- 明るさ - 0.0 から 100.0 (100.0 を含む)
- 彩度 - 0.0 から 100.0 (100.0 を含む)

スライダーをドラッグするか、テキストフィールドに数値を入力して値を編集します。スライダーは絶対的な値を示すものではありません。ダイアログボックスを開いたときのスライダーの位置と値は、用紙の白色部分の定義に対する相対的なものです。ダイアログボックスの左上にあるプレビューパッチ、または右側に表示される Lab 値で変更を確認してください。

10 テストページを印刷するには、印刷をクリックします。

11 テストページで編集結果が適切に印刷されている場合は、保存をクリックし、用紙シミュレーション白色点ダイアログボックスを閉じます。

## Fiery ImageViewer

Fiery ImageViewer では、ジョブを印刷する前に、ジョブのカラーまたはグレーレベル（サポートされている場合）をソフト校正および編集できます。処理済みジョブ（ラスター画像）の方向、コンテンツ、一般カラーの精度をプレビューできます。

### カラー出力

Fiery ImageViewer は、プレスに送信される実際の CMYK 値を使用してジョブを表示するため、正確なソフト校正が得られます。キャリブレーションの効果はソフト校正には表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。

C、M、Y、K の応答曲線を個別に編集できます。編集結果を保存して他のカラー印刷ジョブに適用できます。また、CHROMiX Curve2、Curve3、Curve4 のいずれかを使用して作成された G7 キャリブレーション曲線を適用することもできます。

各プロセスカラーの色分解データを個別に表示することも、他のプロセスカラーと組み合わせて表示することもできます。ジョブにハーフトーンシミュレーションが設定されている場合は、すべての色分解のコンポジット画像がドットレベルでプレビューされます。Fiery ImageViewer からページを印刷すると、Fiery ImageViewer で選択された色分解のコンポジットカラー情報が出力に含まれます。

## ImageViewer の必要条件

Command WorkStation には Fiery ImageViewer バージョン 4.0 が含まれています。このバージョンは、使用しているコンピューターが次の必要条件を満たしているか、次の接続タイプの場合に使用されます。

- OpenGL バージョン 3.2 以降に対応する GPU
- グラフィックカードに最低 750MB のメモリを使用可能
- リモートデスクトップ接続を使用して接続している Windows クライアントコンピューター
- リモートデスクトップ接続を使用して接続している Mac クライアントコンピューター

Fiery ImageViewer 3.0 は、Command WorkStation が白黒 Fiery server に接続されている場合に使用されます。

OpenGL のバージョンは、OpenGL Extensions Viewer などのサードパーティ製ソフトウェアで確認できます。



## ImageViewer を起動する

Command WorkStation のジョブから ImageViewer を起動することができます。

- 1 Command WorkStation のジョブセンターで処理済み/待機ジョブを選択します。  
 必要に応じて、アクション > 処理後待機を選択して、ジョブの状況を処理済み/待機に変更します。
- 2 次のいずれかを行います。
  - アクション > ImageViewer を選択します。
  - 選択したジョブを右クリック（Windows の場合）または Ctrl キーを押しながらクリック（Mac OS の場合）し、表示されるメニューから ImageViewer を選択します。

## Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする

Fiery ImageViewer ツールバーを使用すると、ジョブに適用できる一般的なアクションにすばやくアクセスできます。ツールバーの表示/非表示を切り替えるには、「t」キーをクリックします。

一部のツールバーアイコンは、Fiery server でサポートされている場合のみ使用できます。


ボタン	説明
保存 	保存ボタンをクリックすると、ジョブの現在の設定が保存されます。
復帰 	復帰ボタンをクリックすると、ジョブが前の設定に復帰します。
プルーフ印刷 	校正印刷ボタンをクリックすると、Fiery ImageViewer からジョブを 1 部またはジョブの反復校正を直接印刷して、出力を確認できます。校正印刷では、変更が加えられてもその変更は保存されません。また元のジョブは変更されません。
拡大鏡 	(Fiery ImageViewer v4) イメージを少しずつ拡大します。
ワイパー 	(Fiery ImageViewer v4) ワイパーボタンをクリックすると、対角線上に画面が分割されるため、ユーザーは調整が行われる前と後のイメージを確認することができます。イメージをパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。  イメージ上の対角線を移動またはスワイプするには、Windows の場合は ctrl+alt、macOS の場合は cmd+opt をクリックしてから、マウスのホイールを使用して対角線を回転させます。

ボタン	説明
回転 	<p>回転ボタンを使用すると、イメージプレビュー表示を 90 度単位で回転させることができます。</p> <p><b>メモ：</b>このアクションによって、最終的な印刷出力の方向が変更されることはありません。回転はジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。</p>
ミラー 	<p>ミラーボタンでは、イメージプレビューを水平方向にミラーリングしたり、イメージプレビューのミラー効果を逆にしたりすることができます。</p> <p><b>メモ：</b>このアクションによって、最終的な印刷出力が変更されることはありません。ミラーは、ジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。</p>
縮小/引き伸ばし 	<p>縮小/引き伸ばしボタンをクリックすると、ジョブのプロパティ、サブストレートタブ&gt;幅倍率オプションと長さ倍率オプションに基づいて、ジョブに適用される収縮またはストレッチが表示されます。縮小/引き伸ばしアイコンを表示するには、Fiery ImageViewer でオプションを 100%より上/下に設定する必要があります。</p> <p>このボタンは、この機能をサポートしている高速インクジェットプレスでのみ使用できます。</p>
部分修正 	<p>部分修正ツールを使用すると、イメージの任意の場所にある選択ボックスを描画して、ローカルでカラーを編集することができます。</p> <p>このボタンは、部分修正機能をサポートしている Fiery server でのみ使用できます。</p>
ソフト校正の有効化 	<p>ソフト校正ボタンをクリックすると、インク制限がオフになる時間が表示され、ジョブの正確なソフト校正が得られます。</p>
ソフト校正の無効化 	<p>ソフト校正ボタンをクリックすると、インク制限がオンになる時間が表示され、ソフト校正が非表示になります。特殊カラーをプレビューする場合、ソフト校正は無効になります。</p>

## イメージプレビューを調整する

ナビゲーターウィンドウでイメージプレビューの表示を管理できます。イメージプレビュー領域は、画面サイズに合うように拡大することができます。

ナビゲーターウィンドウの境界ボックスにはイメージプレビューで表示できる画像の一部が含まれています。境界ボックスが見つからない場合は、編集 > 環境設定で色を変更します。

- 1 プレビューに表示されるイメージの一部の位置を変更するには、以下のいずれかを行います。
  - ナビゲーターウィンドウに境界ボックスをドラッグする。
  - 画像をドラッグする。
  - 画像内の特定の位置のプレビューを中央に配置するには、Shift キーを押しながらその位置をクリックする。
- 2 画像を右に回転させるには、次のいずれかを行います。
  - リストから 90°、180°または 270°を選択するか、**回転** (  ) アイコンをクリックします。
  - 表示 **回転**> をクリックし、適切な選択をクリックします。

回転はプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。

プレビューを元の方向にリセットするには、**表示**>**回転**>**リセット**をクリックします。
- 3 イメージプレビューを水平にミラーするには、**ミラー**< insert icon>アイコンをクリックします。

ミラーはプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。

イメージプレビューのミラー効果を反転させるには、もう一度ミラーアイコンをクリックします。- 4 (Fiery ImageViewer 4.0 の場合) 画面を対角線上に分割して、調整を行う前と後の画像を確認するには、**ワイパー**アイコンをクリックします。

対角線より上のラスター領域には編集後の画像が表示され、対角線より下のラスター領域には編集前の画像が表示されます。画像をパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。画像がドラッグされる方向に移動します。

Ctrl+Alt (Windows の場合) か Cmd+Option (Mac OS の場合) のどちらかとマウスのスクロールホイールを使用して、ワイパーを画面内で移動できます。- 5 イメージプレビュー領域を拡大するには、**表示**>**全画面**をクリックします。

通常の表示に戻すには、F キーを押します。

## 画像のサイズを変更する

画面下部のズームコントロールの他にも、画像のサイズを変更する方法がいくつか用意されています。

- 1 画像をズームして、画像内の各データピクセルを単一のピクセルとして画面に表示するには、**表示**>**ピクセル等倍**を選択します。

ピクセルの実際の表示サイズは、モニター解像度の設定によって決まります。

**メモ：**(Fiery ImageViewer 3.0 の場合) ジョブにハーフトーンシミュレーション設定が適用され、ズームが 100%以上に設定されている場合は、ハーフトーンのドットパターンと形状が表示されます。ドットパターンの頻度によって、ドットは複数のピクセルで構成されます。

- 2 ページ全体がイメージプレビューに合わせて表示されるようにズームアウトするには、ズームコントロールの横にあるウィンドウサイズに合わせるアイコンをクリックするか、**表示**>**ウィンドウサイズに合わせる**を選択します。
- 3 カーソルがある位置の周辺領域を拡大表示して、カーソルの動きに合わせて拡大表示を移動するには、**拡大鏡**アイコンをクリックするか、**表示**>**拡大鏡**を選択します。

## 画像内のカラー値を表示する

ImageViewer では、実際にプレスに送信されるカラー値でジョブを表示します。画像内の任意のポイントのカラー値を調べることができます。

- 画像内のピクセルにマウスポインターを置きます。

各インクの値が分解ペインに表示されます。

適用範囲合計:には、サンプルされたラスターピクセルの色分解値 (%) の合計が表示されます。

オブジェクトインスペクターを使用して、ラスターのピクセルの表示に使用されたオブジェクトタイプも表示できます。詳細については、[オブジェクトインスペクター](#) (213 ページ) を参照してください。

## オブジェクトインスペクター

オブジェクトインスペクターは、ラスター画像のピクセルが描画されたときのオブジェクトタイプを示します。

サンプルされるピクセルの分解カラー値 (%) も表示されます。オブジェクトタイプには、画像、グラフィック、テキスト、エッジのピクセル (エッジ強調のためにタグ付けされたピクセル) などがあります。サンプルされるピクセルが複数ページオブジェクトの混合から描画された場合、オブジェクトタイプは不明のタイプとして表示されます。

- オブジェクトインスペクターを使用するには、イメージプレビューペインでピクセルの上にカーソルを置きます。




## カラー置換



カラー置換を使用すると、出力するラスター画像のカラーを置き換えることができます。これは、ソリッドカラーと均一な色合いに最適です。

**メモ:** カラー置換機能は、FS350/350 Pro 以降のシステムソフトウェアに Fiery servers 接続されている場合に、Fiery ImageViewer 4.0 以降でのみ使用できます。

置換するカラーティント値を入力するか、置換する元のカラーをスポイトで選択することができます。次に、カラー置換のティント値、サンプルの置換カラーをスポイトで入力できます。または、既存の Fiery Spot カラーで置換することもできます。カラー置換の順序を変更してもよく、個々の置換を目型のアイコンで表示または非表示にすることができます。

画像上の領域をピクセル単位にまで拡大して、カラー置換をすることができます。

カラー置換機能を使用するには、イメージプレビューペインで、イメージの元のカラーのピクセルの上にスポイト (カラーピッカーアイコン ) を移動した後、置換カラーのピクセルの上にスポイト (置換ピッカーアイコン ) を移動します。大きい四角は、現在表示されている領域を定義しますが、小さな正方形はピクセルです。必要に応じて、スポットカラー置換アイコンをクリック () で Fiery server 上のスポットカラーライブラリを開き、スポットカラーを選択して置換カラーに使用できます。適用をクリックして、変更を保存します。

ページ () およびローカル () アイコンには、カラー補正の種類が表示されます。ページおよびローカル編集は、実線または破線で区別されます。エントリが変更された場合、そのエントリは現在のページでのみ

有効であるため、適用されている場合は、このチェックボックスは削除されます。全ページチェックボックスを選択すると、ローカルカラー置換およびページカラー置換をすべてのページに適用することができます。

ページカラー曲線またはページカラー置換をプリセットとして保存するか、ページカラー曲線とページカラー置換の両方をプリセットとして保存した後、Command WorkStation または Fiery Hot Folders をジョブプロパティを使用して、カラー置換を適用することができます。

最大 32 カラーの置換を適用できます。カラー置換の順序を変更してもよく、個々の置換を非表示または削除することができます。代わりに使用されるカラーは、編集ペイン内のカラー置換を選択することにより、後で変更できます。

ImageViewer 4.2 以降では、任意のカラー置換編集を適用すると、編集ペインの全ページチェックボックスを明示的に選択しない限り、現在のページにのみ適用されます。変更はジョブの印刷中に適用されます。

以下の点に留意してください。




- カラー置換編集に対し、いずれかのページで全ページチェックボックスの選択を解除すると、現在のページを除くすべてのページで特定の編集が削除されます。
- Fiery server が高速インクジェットプレスに接続されている場合、カラーの置換は、おもておよび裏のオーバーレイモードでは表示されません。
- 最大 32 色のカラーをページごとに置換できます。
- 最良の結果を得るには、カラー置換を適用するときに、Fiery ImageViewer でラスターを 100% で表示してください。ラスターを 100% 未満で表示する場合、ラスタープレビューのアンチエイリアスが原因で、カラー置換後の画像の端でノイズが発生することがあります。これは印刷には影響しません。
- カラー置換は、コンポジットオーバープリントオプションを選択して処理したジョブにのみ使用できます。
- カラー置換エントリがいずれかのページから削除されると、書類内のすべてのページから削除されます。ただし、これはカラー置換編集（全ページチェックボックス）が選択されている場合に限りです。カラー置換編集（全ページチェックボックス）を消去すると、編集の削除は現在のページでのみ適用できます。



## ローカルカラー置換

ローカルカラー置換を使用すると、ページの選択した領域に対してローカルでカラー補正を行うことができます。



**メモ：**ローカルカラー置換機能は、Fiery ImageViewer 4.2 以降でのみ使用できます。

ローカルカラー置換を使用するには、次の手順を実行します。

- ローカル補正ボタン () をクリックし、マーカーを使用して画像内の領域を選択して、ローカルカラー補正を適用します。選択した領域にのみカラー置換が適用されるように、選択領域は破線で表示されます。
- 大きい正方形を使用して、画像上の領域を縮小してカラー置換のピクセル (小さな正方形) に合わせします。
- オリジナルのカラーのピッカーアイコン () をクリックします。置換カラーピッカーアイコン () をクリックし、画像に移動してカラーを選択するか、CMYK、CMYK+、グレースケールおよび特殊 CMYK+ のカラーモードの値を置換列で変更して、カラーを変更または置換できます。カラー強調に使われる大きい四角は、現在表示されている領域を定義しますが、小さな正方形は選択したカラーのピクセルを定義します。

- 必要に応じて、カラーを **Fiery server** のスポットカラーライブラリの既存のスポットカラーで置換します。スポットカラー置換アイコン () をクリックし、名前または「345」などの数字のあいまい検索で特定のスポットカラーを検索するか、リストをスクロールしてスポットカラーを選択してから、**OK** をクリックします。
- 必要に応じて、**カラー調整**ペインで個々のカラー曲線を調整して、カラー調整を行います。マーカー選択と曲線調整を行った後、**適用**および**キャンセル**ボタンは、**ローカル修正**ボタン () の隣のツールバーに表示されます。変更が完了したら、**適用**をクリックして、ローカルのカラー編集を保存します。

カラー置換が行われた後、**適用**をクリックして、変更を**カラー置換**ペインに保存します。カラー置換は、**編集**ペインに表示される行として表示されます。

**編集**ペインには、編集がカラー置換またはカラー曲線のカラー調整で行われた場合の、ローカルレベルまたはページレベルで行われたカラー編集がすべて表示されます。**編集**ペインに一覧表示されている行の目のアイコンをクリックして、ローカルカラー置換と元のカラーを切り替えます。**編集**列のペイントブラシアイコン () は、カラー編集が、**カラー置換**ペインで行われた変更に基づいたカラー置換を使用して行われたことを示します。波線ボックスアイコン () は、カラー編集が、全体的なカラー曲線の変更を表示する**カラー調整**ペインを使用して行われたことを示します。

書類のすべてのページでローカルカラー置換を適用する場合は、その特定のカラー置換に対しすべてのページチェックボックスをクリックします。書類内のすべてのページで指定された領域には、同じカラー置換が表示されます。

**編集**ペインに一覧表示されているいずれかの行で置換カラーをクリックし、ローカルカラー置換領域を調整することができます。その後特定領域のマーカーを調整することができます。

## おもて面および裏面オーバーレイ

おもて面および裏面オーバーレイ機能では、面付け済みシートのプレビューを行えます。

オーバーレイオプションをシートワイズ、両面印刷機、ワークアンドターン、ワークアンドタンブルに設定することで、4つの面付けスタイル（ワークスタイルまたは印刷方法）をプレビューできます。

ほとんどの両面印刷プレス機では、両面がオンの状態で両面印刷ジョブを受信した場合、使用可能なおもて面および裏面オーバーレイオプションは両面印刷機のみです。

両面プレス機の場合、おもて面および裏面オーバーレイ機能では、手動両面印刷の4つの選択肢か、ラスター画像のジョブのプロパティウィンドウの両面プリントオプションで定義された面付けスタイルのどちらかが表示されます。

どのような場合も、制御をオフに設定することで、おもて面および裏面オーバーレイプレビューを無効にすることができます。オーバーレイの制御はプレビューのためにのみ行うもので、ジョブの両面印刷設定は変更しません。

面を比較では、ジョブの任意の2つの面を比較できます。

表示モードについては、次の設定を調整できます。

- **連続階調**では、面付けのトゥルーカラーでのプレビューを選択できます。
- **カスタム**では、おもて面および裏面の面付けごとに、プレビューするためのカスタムカラーを選択できます。
- **不透明度(おもて)**では、裏面を確認できるようにおもて面の不透明度を調整することができます。
- **不透明度(裏)**では、裏面の不透明度を調整して、プレビューでの可視性を制御することができます。



## 画像位置

画像位置の機能を使用すると、グリッパーマージンなどのプレスの機械的要件に対応し、折り、裁断、とじの仕上げワークフローでシートが適切に機能するように、面付け面のラスタ画像を印刷素材に正確に配置することができます。

Fiery ImageViewer を使用すると、オフセット数値やビジュアルな位置設定を使用してジョブを素材に正確に配置することができます。Fiery ImageViewer には、素材のエッジのほか、プレスの印刷可能な範囲の境界線も表示されます。

画像位置機能のメリットは以下のとおりです。

- 試行錯誤をしなくても、素材へのラスタ画像の配置を確認できます。
- シートの印画領域を確認できるので、必要に応じて、面付けを印画領域の端に移動したり、面付けをクリップがしたりできます。
- 面付けの位置を正確に設定できるので、プレスのグリッパーマージンに対応したり、仕上げ準備のできたシートを製造できます。

ページの境界線は、デフォルトでは黒で強調表示されます。環境設定ウィンドウでページの境界線（カラー）を編集できます。

素材の印画領域は緑色で強調表示されます。

画像位置機能を使用するには：

- 1 原点 - オフセット計算の基準となる素材上の位置。選択肢は、素材の中央、印刷可能領域の中央、カスタム印刷可能領域の中央、下端の中央です。
- 2 オフセット（有効または無効にできます） - X および Y オフセットを設定して、素材上のラスタ画像の位置を決定できます。両面印刷プレスの場合は、おもて面および裏面オーバーレイがオフに設定されていない限り、裏面オフセットの制御も可能です。
- 3 オフセット単位 - オフセットの調整に使用する単位（ミリメートルまたはインチ）を設定します。
- 4 おもてと裏の画像位置を合わせる - おもて面のオフセットが背面に逆に適用されるように、おもて面と裏面の位置調整をロックします。

画像位置機能を使用する際は、以下の点に留意してください。

- 両面プレス機では、おもて面および裏面オーバーレイが有効になっている場合にのみ、裏面画像の位置を制御できます。
- おもてと裏の画像位置を合わせるは、おもて面および裏面オーバーレイが有効な場合にのみ有効です。

## インク制限のアニメーション

Fiery ImageViewer は、インク総量（TAC）制限に近づいているピクセルや、Fiery ImageViewer 曲線またはスポットカラー編集を使用してインク制限を超えて調整されているピクセルをジョブ内で確認するのに役に立ちます。

アニメーション機能を有効にするには、Fiery ImageViewer を起動し、処理済みジョブまたは待機ジョブを開いて、Ctrl+Shift+L キーを押します。

ジョブ内の黄色に点滅している領域は、インク総量（TAC）の制限に近づいているピクセルを示しています。

ジョブ内の赤に点滅している領域は、インク総量 (TAC) の制限に達したか制限を超えたピクセルを示しています。

インク総量制限は、接続先のサーバーからロードされます。Fiery ImageViewer の環境設定で、Fiery ImageViewer でのみイメージを表示するためにインク制限のアニメーションオプションをオンにすれば、この制限を手動で調整または上書きすることができます。

**メモ：**インク制限のアニメーションが有効な場合は、正確なソフト校正が表示されません。この場合、Fiery ImageViewer ウィンドウの右上にある目のアイコンに対角線が入ってオレンジになり、ソフト校正が無効になっていることが示されます。Ctrl+Shift+L キーを押してアニメーションを無効にすると、目のアイコンが緑に変わり、ソフト校正が有効になっていることを示します。

**メモ：**アニメーションインク制限機能は、一部の Fiery servers では使用できません。

## 色分解の表示と印刷

分解ペインでは、イメージプレビューに表示する色分解や、ImageViewer からジョブを印刷する際に出力に含める色分解を管理できます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

- 色分解を表示するには、次のいずれかを行います。
  - どの分解を表示および印刷するかを指定するには、分解ペインの分解名の横にあるチェックボックスを選択または解除します。

**メモ：**Fiery ImageViewer 4.0 では、分解ウィンドウで選択されているかどうかに関係なく、すべての色分解を印刷します。

- 現在の色分解を反転するには、表示 > 分解 > 反転オプションを選択します。  
選択範囲を反転させると、選択されていない色分解が新たに選択されます。たとえば、CMYK 分解が使用可能でシアンとマゼンタが選択されている場合、その選択範囲を反転させるとイエローとブラックが表示されます。
- すべての色分解を表示するには 表示 > 分解 > すべての選択を選択します。
- Fiery server からインク/トナー順序が読み込まれます。色分解ウィンドウには、プロセスカラーと特殊カラーが表示されます。特殊カラーは、プリンターにインストールされている順序で表示されます。  
プロセスカラーで印刷する特殊カラーが色分解リストの下部に表示され、プロセスカラーの上に印刷されるカラーがリストの一番上に表示されます。

**メモ：**特殊カラーをサポートする Fiery server に特殊カラーが表示されます。

## ImageViewer の編集

ImageViewer の編集プリントオプションを使用すると、サーバー上にプリセットとして保存されているカラー曲線の編集データを適用できます。

Command WorkStation の ImageViewer は、Fiery server 上にある処理済みのジョブの CMYK 曲線を編集するために使用できます。これらの編集された曲線は、ImageViewer のカラー調整ペインのプリセット領域でプリセットとして保存できます。これらのプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで、ImageViewer 編集プリントオプションを使用してスプール済みジョブに適用できます。

ジョブのプリセットを選択するには、ImageViewer の編集オプションを使用します。



工場出荷時の曲線の編集データは、次の一般的なカラー修正に適用されます。

- 補正なし
- 低ハイライト
- ミッドトーン強調
- シャドウ詳細
- C キャスト（シアン）低減
- M キャスト（マゼンタ）低減
- Y キャスト（イエロー）低減

ImageViewer についての詳細は、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください。

## 曲線を使用して応答を編集する

カラー調整ウィンドウで応答曲線を編集して、ジョブを正確に編集することができます。この機能を使用すると、すべてのカラー曲線とジョブ内の色分解ごとに応答曲線をカスタマイズできます。

**メモ：**カラー印刷のジョブ用に曲線編集を作成した後は、ジョブを保存してから色相環タブに切り替えてください。先に保存しなかった場合は、すべての曲線編集が失われます。

## 曲線をグラフィック表示で編集する

- 1 カラー調整ペインの曲線タブをクリックします。
- 2 必要に応じて、カラー曲線の表示方法を調整します。
  - 特定のカラー曲線を選択するには、チャンネルメニューからカラーを選択します。
  - すべてのカラー曲線を同時に選択するには、チャンネルメニューからすべてのチャンネルを選択します。

**メモ：**すべてのチャンネルを選択している場合、Page Up と Page Down キーを使用して表示曲線を切り替えます。

- 3 次のいずれかの操作を行います。
    - 曲線上のいずれかの場所をクリックして、曲線にポイントを加える。
    - 曲線上のポイントを望ましい応答の値までドラッグして、曲線を編集する。
- メモ：**Windows では、ポイントを選択し、矢印キーを使用してポイントをいずれかの方向に 1%移動させるか、Shift キーを押しながら矢印キーを押して大幅に移動させることができます。
- 曲線上のポイントを削除するには、ポイント選択し、削除を押す。  
ポイントを選択して、削除したいポイント上にドラッグする。
  - Windows では、曲線上の一点を選択し、Shift キーを押しながら Page Up または Page Down キーを使用してポイント上を移動する。

## カラー曲線データを編集する

- 1 カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、曲線編集をクリックします。
- 2 表示されるテーブルで、数値を編集します。  
テーブルの各行は、グラフ内の編集ポイントに対応しています。
- 3 次のいずれかを実行します。
  - 事前に定義されている行セットを表示するには、コントロールポイントリストからセットを選択します。
  - 行を追加するには、空の行で入力します。
  - 行を削除するには、行のどこかでクリックして、行の削除をクリックします。

## 色相環を使用して色を編集する

カラー調整ペインの色相環を使用して色を編集できます。

**メモ：**色相環を使用して行う編集は、曲線タブに切り替えた後も保持されます。一方、曲線を使用して行う編集は、色相環タブに切り替える前にジョブを保存しないと、編集内容が失われます。

- 1 カラー調整ペインの色相環タブをクリックします。
- 2 色の範囲（ハイライト、すべて、またはシャドウ）をクリックして、編集する色の範囲を設定します。  
**メモ：**色の範囲の選択は、明るさには適用されません。明るさは、常に色の範囲全体に適用されます。
- 3 色相と彩度を編集するには、色相環内の新しい場所をクリックします。  
イメージプレビューに編集結果が反映されます。
- 4 色相、彩度、ブラック、または明るさのスライダーをドラッグして編集結果を微調整するか、スライダーの右側に新しい数値を入力します。

## カラー編集を1ページまたは全ページに適用する

現在のページからカラー編集をコピーし、ジョブの別のページまたは全ページに貼り付けることができます。

- 1 カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、適用先をクリックします。
- 2 ページ番号を指定し、OK をクリックします。

## ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する

まず使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存します。そして保存先のファイルから編集をインポートして、Fiery ImageViewer の現在のページに適用することができます。現在のページは、同様のジョブまたは別のジョブのものである場合があります。

**メモ:** Fiery server の種類によっては、カラー編集をサーバープリセットとして保存し、異なるジョブに適用することができます。

### ファイルにカラー編集を保存する

- 1 ファイル>エクスポート>カラー調整を選択します。
- 2 ファイル名を入力し、ファイルタイプを選択します。
- 3 ファイルの保存先を指定し、ファイルを保存します。

### ファイルからカラー編集をインポートする

- 1 ファイル>インポート>カラー調整を選択します。
- 2 必要なカラー編集ファイルを選択します。
- 3 開くをクリックします。  
現在のページにカラー編集が適用されます。

### サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する

お使いの Fiery server がこの機能をサポートしている場合、カラー編集をサーバープリセットとして保存できます。プリセットを使用して、同様のカラー編集を Fiery ImageViewer の異なるジョブに適用できます。Fiery ImageViewer を使用せずに Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウから待機ジョブにプリセットを適用することもできます。

**メモ:** 使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存し、ImageViewer の異なるジョブに編集を適用することも可能です。

### カラー編集をプリセットとして保存する

- 1 カラー調整ペインで、保存したいカラー編集を作成します。
- 2 カーブタブをクリックし、プリセット>名前を付けて保存をクリックします。
- 3 プリセットの名前を入力して OK をクリックします。  
プリセットがリストに追加されます。

**メモ:** カラー置換は、Fiery ImageViewer4.0 で使用でき、グローバルな修正としてプリセットに保存されます。カラー置換はページ単位で使用することはできません。

## ImageViewer のプリセットを使用してカラー編集を適用する

- 1 カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、プリセットリストからプリセットを選択します。
- 2 ファイル > 保存をクリックします。  
プリセットが現在のジョブに適用されます。

## ジョブのプロパティのプリセットを使用してカラー編集を適用する

- 1 Command WorkStation のジョブセンターで、待機ジョブを選択し、アクション > プロパティをクリックします。
- 2 カラータブをクリックし、ImageViewer Curves オプションからプリセットを選択して OK をクリックします。
- 3 同じジョブを選択した状態で、アクション > 処理後待機をクリックします。  
プリセットのカラー編集が処理済みのジョブに適用されます。

**メモ:** ジョブの処理後、カラー編集はジョブに組み込まれ、ImageViewer 上で編集として表示されなくなります。

## プリセットの削除

- 1 カラー調整ウィンドウで、プリセットリストからプリセットを選択します。  
プリセットが画像に適用されます。
- 2 プリセットリストで、画像に適用されたカスタムプリセットを選択し、削除をクリックします。確認画面でははいをクリックします。  
プリセットがリストおよび画像から削除されます。

**メモ:** Fiery ImageViewer で適用されない一貫性のない曲線または不適切な曲線が見られるにもかかわらず、そうした曲線を削除できないうえに、ジョブのプロパティで曲線のリストがすべて表示されない場合、Fiery ImageViewer で `ctrl+shift+D` (Windows) または `cmd+shift+D` (Mac OS) を押すと解決できます。そうすることで、すべての不適切な曲線が内部的に削除され、ジョブのプロパティで曲線プリセットのすべてのリストが表示されるようになります。

## Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する

CHROMiX Curve2、Curve3 または Curve4 (G7 キャリブレーションソフトウェア) で作成され、テキストファイルとしてエクスポートされた CMYK 応答曲線をインポートすることができます。Fiery ImageViewer で曲線をインポートすると、現在のページに適用され、既存の応答曲線を上書きします。

標準フォーマットまたは Delta フォーマットのファイルを使用できます。

- 1 カラー調整ウィンドウで曲線タブをクリックし、曲線編集をクリックします。
- 2 曲線をインポートをクリックし、曲線を含むファイルを選択し、開くをクリックします。

## 編集したジョブを印刷する

ジョブを編集した後、そのジョブを印刷できます。

分解ペインで選択された色分解のコンポジットカラー情報が印刷ページに含まれます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

- 1 ジョブのページごとに、印刷する色分解を分解ペインで設定します。
- 2 ファイル>保存をクリックします。

## ソフト校正を PDF にエクスポートする

ソフト校正を PDF 形式で保存すると、他の時間や場所で表示できるようになります。PDF にエクスポートする場合には、ページ範囲と解像度を選択できます。

**メモ：**ソフト校正にはキャリブレーションの効果は表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。また、ジョブで適用されたカラー置換の変更も表示されません。

ソフト校正は印刷用ではないため、ソフト校正の解像度はジョブの解像度と異なる場合があります。

- 1 ファイル>エクスポート>PDF ソフト校正の順にクリックします。
- 2 ページ範囲を指定します。ページ番号やページ範囲を複数指定する場合は、それらをカンマで区切ります。
- 3 解像度を選択します。
- 4 OK をクリックします。
- 5 ファイルの名前を入力します。ファイルタイプは常に PDF です。
- 6 ファイルの保存先を指定し、保存をクリックします。

**メモ：**カラー置換は Fiery ImageViewer 4.0 で適用できますが、PDF ソフト校正には表示されません。

## 校正を印刷する

ジョブを 1 部またはジョブの反復校正を Fiery ImageViewer から直接印刷して出力を確認できます。校正印刷では、現在の編集を使用して選択したページのコピーが作成され、印刷済みキューに新しいジョブとして直接送信されます。印刷が完了すると、校正印刷ジョブが削除されます。

- 校正を印刷するには、ツールバーの校正印刷アイコン (  ) を選択します。

## モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して、モニタープロファイルの色域とジョブ用の出力プロファイルの色域を比較するモデルを表示することができます。

この比較により、より正確なソフト校正を行うことができます。また、Fiery ImageViewer の画像を印刷出力と比較した場合のイメージを把握することができます。

Fiery ImageViewer を実行しているモニターの現在のモニタープロファイルが使用されます。最良の出力結果を得るには、Fiery Color Profiler Suite を使用してモニターをプロファイリングします。

**メモ：**(Fiery ImageViewer 3.0 の場合) コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、Fiery ImageViewer の環境設定のモニタープロファイルの作成をクリックし、Fiery Monitor Profiler で新しいモニタープロファイルを作成することができます。

- Fiery ImageViewer で表示 > モニタープロファイルと出力プロファイルを比較を選択します。

## Fiery ImageViewer の環境設定

カラー印刷のジョブでは、単位やモニタープロファイルなど、Fiery ImageViewer の環境設定を指定できます。画像のサイズ (寸法) と解像度は画面下部に表示されます。

1 まず、編集 > 環境設定 (Windows) または ImageViewer > 環境設定 (Mac OS) を選択します。

2 環境設定ウィンドウで以下の環境設定を設定します。

- 単位 - 寸法と解像度を表示するときの単位を設定します。
- クリア」分解表示設定 - Fiery server が、C、M、Y、K 色分解だけでなく、クリアなワニス色分解もサポートしている場合は、この設定を使用して、クリア色分解のマスキングカラーと不当明度を Fiery ImageViewer に表示されるとおりに指定します。
- クロスヘアカラーピッカー - カラーブロックをクリックして、ナビゲータペインの境界ボックスの色を選択します。
- (Fiery ImageViewer 3.0 の場合) モニタープロファイル - モニタープロファイルのオペレーティングシステム設定を表示するか、モニタープロファイルを選択できます。正確なソフト校正を行うには、使用モニター用のプロファイルを使用する必要があります。

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、モニタープロファイルを作成をクリックし、Fiery Monitor Profiler で新しいモニタープロファイルを作成することができます。

- 環境設定をリセット - Fiery ImageViewer の環境設定をデフォルト値にリセットできます。
- 画像境界線 - カラーブロックをクリックして、画像プレビューの素材に表示されるページの周囲の境界線のカラーを選択します。
  - おもて - カラーブロックをクリックして、画像プレビューの素材に表示される書類サイズの境界線の色を選択します。
  - イメージ領域以外 - カラーブロックをクリックして、画像プレビューの素材に表示される、印画領域と素材の間の非印画領域が半透明のカラーで塗りつぶされるように選択します。
  - プレスの検査ゾーン - カラーブロックをクリックして、画像プレビューの素材に表示される、ページのプレス検査ゾーンの境界線のカラーを選択します。
- アニメーションのインク制限 - 合計インク制限を表す値 (デフォルト値で表示) を手動で調整することができます。これにより、インク制限に近いピクセルをハイライト表示し、Fiery ImageViewer から編集が行われた時にピクセルで制限を超えると警告します。

- (Fiery ImageViewer 3.0 の場合) 常に ImageViewer 3 を起動 - このチェックボックスをオフにして、今後のセッションで Fiery ImageViewer 4.0 を実行します。
- (Fiery ImageViewer 4.0 の場合) 常に ImageViewer 3 を起動 - 現在および今後のセッションで Fiery ImageViewer 3.0 を実行します。

## Fiery ImageViewer 3.0 から Fiery ImageViewer 4.0 への変更

Fiery ImageViewer 3.0 と Fiery ImageViewer 4.0 の間の変更の説明。

- 1 Fiery ImageViewer 4.0 は、OpenGL レンダリングアーキテクチャに基づいています。そのため、Fiery ImageViewer 4.0 を使用するには、OpenGL バージョン 3.2 以上をサポートしているビデオカード/GPU が必須です。macOS でこの要件が満たされていない場合は、Fiery ImageViewer 3.0 が起動します。OpenGL のバージョンは、OpenGL Extensions Viewer などのサードパーティ製ソフトウェアを使用して確認できます。
  - Windows 用 - [http://download.cnet.com/OpenGL-Extensions-Viewer/3001-18487\\_4-34442.html](http://download.cnet.com/OpenGL-Extensions-Viewer/3001-18487_4-34442.html)
  - macOS 用 - <https://itunes.apple.com/in/app/opengl-extensions-viewer/id444052073?mt=>
- 2 ビデオカードが搭載されていない Windows コンピューターまたは OpenGL バージョン 3.2 以降をサポートしていないビデオカードまたは GPU が搭載されている Windows コンピューターの場合、Fiery ImageViewer 4.0 はソフトウェアレンダリングモードで起動します。

**メモ:** ソフトウェアレンダリングモードで Fiery ImageViewer を使用すると、パフォーマンスが低下する場合があります。ただし、Fiery ImageViewer 4.0 のすべての機能は使用できます。
- 3 リモートデスクトップ接続を使用して Windows クライアントコンピューターにログオンすると、Fiery ImageViewer 4.0 はソフトウェアレンダリングモードで起動します。
- 4 Fiery ImageViewer 4.0 では、一度に 5 つのセッションのみを開くことができます。
- 5 Fiery ImageViewer 4.0 は、キャンバスの中央にラスタを表示します。Fiery ImageViewer 4.0 には画像の中央画面移動機能があります。
- 6 モニタープロファイルオプションと Fiery Color Profiler Suite をダウンロードする情報は、環境設定ウィンドウから除去されました。Fiery ImageViewer 4.0 では、モニターのオペレーティングシステムのデフォルトプロファイル（複数のモニターを含む）を使用します。
- 7 Navigator ウィンドウでフォーカスがない領域はグレー表示になります。
- 8 ハーフトーンシミュレーションオプションはサポートされていません。
- 9 拡大鏡ツールはサポートされていません。
- 10 Fiery ImageViewer 4.0 は、白黒製品ではサポートされていません。代わりに Fiery ImageViewer 3.0 が起動されます。